

平成19年度

# 日本脚本アーカイブズ

調査・研究報告書

[Ⅲ]

—— デジタル化・世界はいま ——

社団法人 日本放送作家協会



文化庁

AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS

平成19年度文化庁芸術団体人材育成支援事業

# 日本脚本アーカイブズ 調査・研究報告書

[Ⅲ]

日本脚本アーカイブズ  
特別委員会

社団法人 日本放送作家協会

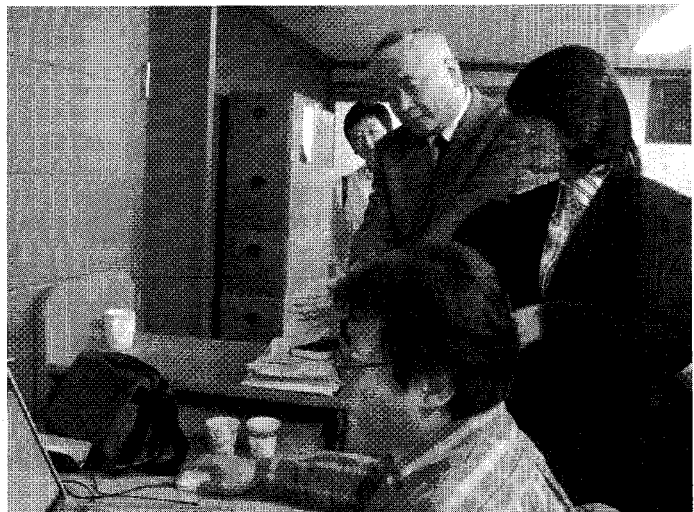


開館式ケーキカット

韓国  
デジタル図書館  
推進室



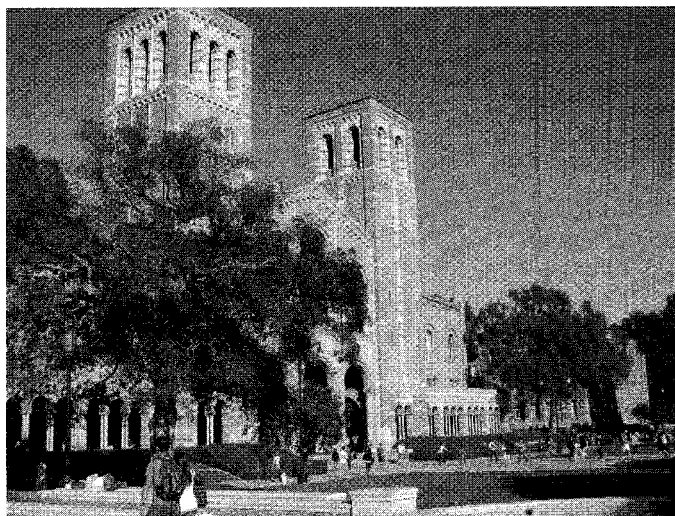
台本・脚本収蔵庫



推進室で書誌データをチェックしている作家

---

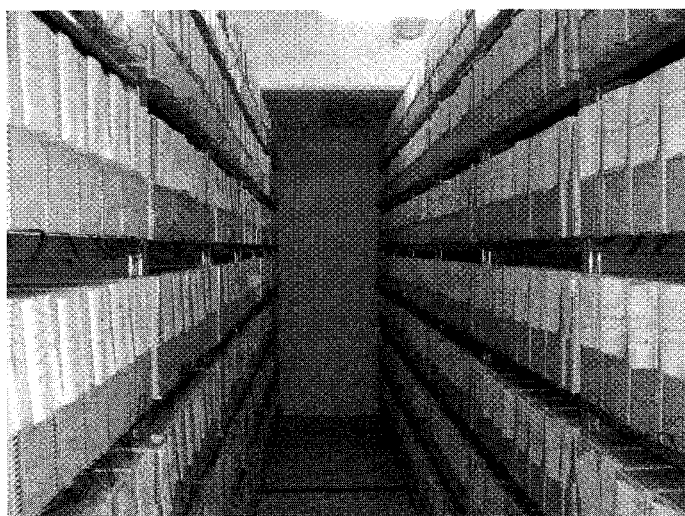
アメリカ取材写真



UCLAキャンパス



ライターズ・ギルド・ウエスト本部



マーガレット・ヘリック図書館

---

---

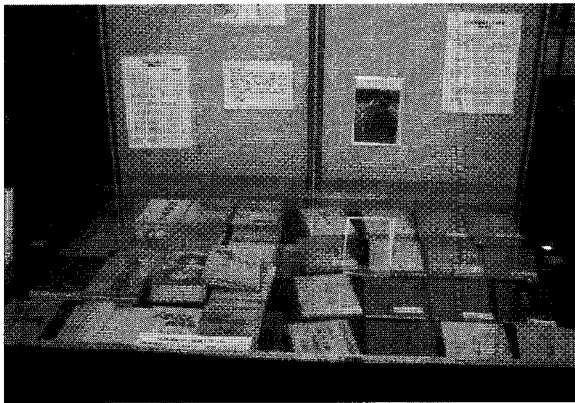
## 『足立区シアター1010の脚本展』



「七人の刑事」のスケッチ。  
「眠」とは眠狂四郎の脚本



「昭和天皇崩御の日」の台本



お馴染みの時代劇ズラーリ！



永遠のアイドルたち

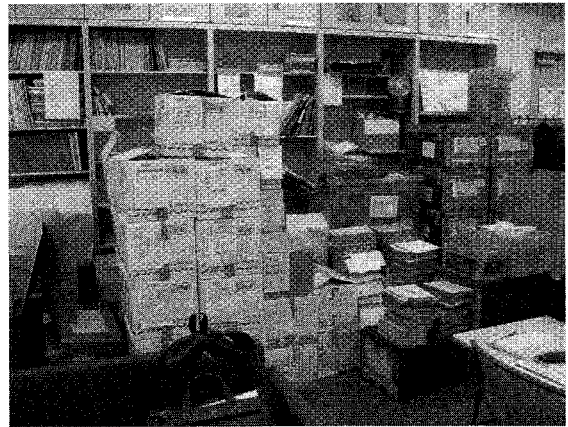
---

---

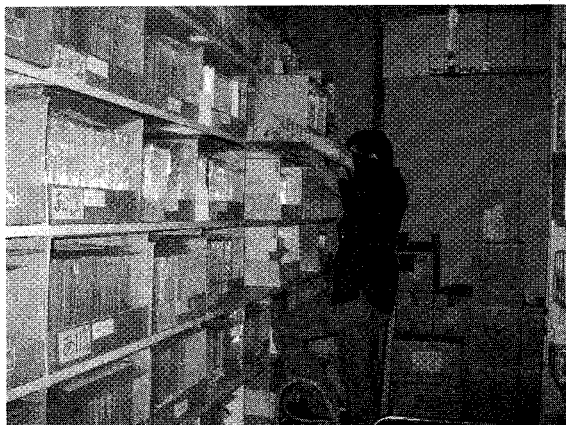
## 書庫・準備室写真



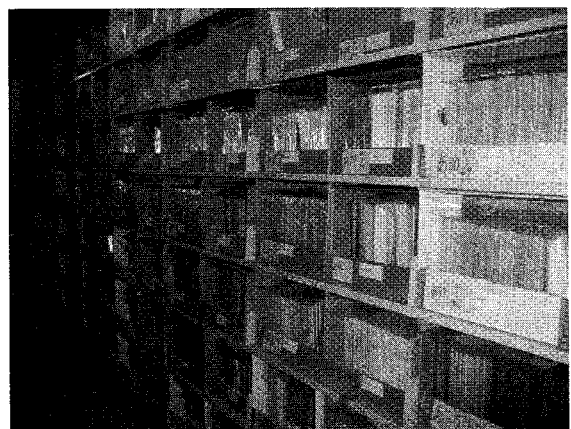
準備室での会議は続く



寄贈脚本・台本の山は限りなく



力をこめ図書館書架にダンボール箱収納



見事整理保存された脚本・台本

---

### 歴史的音盤脚本の保存

音楽の業界団体などが、昭和レコード(SLP盤)の原盤をデジタル化して保存するアーカイブ活動を展開している。放送局でも、脚本や放送台本をアーカイブ



日本音楽著作権協会 副会長 水野 徹

## 散逸や劣化の危機 官民連携が不可欠



資料館、記録所を指す英語。放送番組を保存・収集する公共施設としての「放送ライブラリー」が1991年、横浜市に設置された。NHKは2003年、埼玉県川口市に「NHKアーカイブス」を開設し、約6000本の番組を一般公開している。

日本音楽著作権協会が、昭和レコード(SLP盤)の原盤をデジタル化して保存するアーカイブ活動を展開している。

戦前・戦中・戦後の音楽関係の「昭和レコード」(東洋音楽、日本コロムビア、ポニーキャニオン)の原盤をデジタル化して保存するアーカイブ活動を展開している。NHKは2003年、埼玉県川口市に「NHKアーカイブス」を開設し、約6000本の番組を一般公開している。

NHK大河ドラマの脚本を、その脚本家の視点から掘り出す。近藤晋プロデュースの「黄金の目」を推した。でも多数決で、「黄金の目」に決まりました。

NHK大河ドラマの脚本を、その脚本家の視点から掘り出す。近藤晋プロデュースの「黄金の目」を推した。でも多数決で、「黄金の目」に決まりました。

### 人生の贈りもの

作家・脚本家 市川森一(66)

朝日新聞 夕刊 (2007年10月12日)

脚本の価値を高めたい



市川森一 著書で構想を練る

公にならなれて、大河ドラマであり得なかつた。原作も何もないから、経済小説の第一人者の城山三郎さん、近藤さんと、箱根の山にあって、ストーリーを作りました。タイトル案は黄金の目と黄金の港が候補で、いざいざ決定権があり、のちに黄金の目と黄金の港が夫さんで「港」を推した。でも多数決で、「黄金の目」に決まりました。

NHK大河ドラマの脚本を、その脚本家の視点から掘り出す。近藤晋プロデュースの「黄金の目」を推した。でも多数決で、「黄金の目」に決まりました。

### 脚本の価値を高めたい

作家・脚本家 市川森一(66)

朝日新聞 夕刊 (2007年10月12日)

脚本の価値を高めたい

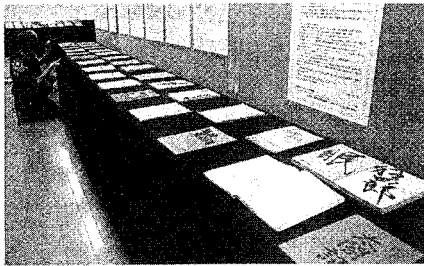
NHK大河ドラマの脚本を、その脚本家の視点から掘り出す。近藤晋プロデュースの「黄金の目」を推した。でも多数決で、「黄金の目」に決まりました。

NHK大河ドラマの脚本を、その脚本家の視点から掘り出す。近藤晋プロデュースの「黄金の目」を推した。でも多数決で、「黄金の目」に決まりました。

# 懐かしの番組脚本ずらり

「太陽にほえろ」や「天竺鼠」など、懐かしいドラマの脚本が一巻に。足立千住81歳のシアター1010（マルイ10階）で、12日から14日まで、「ああ、懐かしの秘蔵TV・ラジオ脚本展」が開かれる。22日から28日は、同区千住5丁目の学びヒラ21でも展示され、放送作家らの講演会もある。

## 「太陽にほえろ!」「8時だヨ!全員集合」



テレビラジオの脚本は、収録後処分されてしまっていたものが多かった。放送作家が中心となって、脚本文化資産として保存しようと、「日本脚本アカデミー」を7年前に設立。アカデミーは現在、学びヒラ21に準備室を置き、1万6千本の脚本を収蔵しているが、今回、そのうちの800冊以上を展示する。

## も講演会 300冊以上 千住で展示

展示の準備が進む脚本展の会場。色あせたり、書き込みがあつたりする表紙が収録現場の熱気を伝える。足立千住5丁目のシアター1010で

バラエティー、ドラマ、アニメ、ワイドショーなどの部門に分けて展示。「8時だヨ!全員集合」や「白い巨塔」の脚本に加え、市川崑さんの名作集、さらには「ニッポン」の脚本、「鉄腕アトム」の原作の漫画雑誌も展示する。納豆のタイエト効果を描写する問題が発端となった「発掘!あるある大事典」の台本も展示。また、採掘された台本を混ぜて並べ、プロデューサー気分などで実際に番組になったものか選んでもらうコーナーも入った。今回の脚本展の企画・運営にかかわる日本放送作家協会常務理事の南川泰三さん(88)は、「かつて

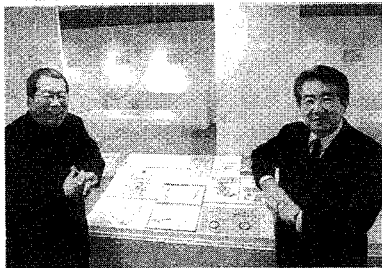
た形でテレビ・ラジオの脚本を展示するのは初めて。放送文化の中で、古い台本ががらびつてきたんだなあと思う」と話す。学びヒラ21では、22日に「8時だヨ!全員集合」などを手がけた奥山伸さんの講演が行われるほか、26、27の両日も講演会が予定されている。

シアター1010では午前11時から午後7時まで（最終日は午後5時まで）。学びヒラ21では午前11時から午後6時まで。いずれも入場無料。問い合わせは、シアター1010(03・5244・1010)か、学びヒラ21内の区生涯学習センター(03・5813・3730)へ。

朝日新聞 (2007年10月12日)

東京新聞 (2007年12月7日)

## 「脚本は放送資産」



### アーカイブズ設立へ奮闘

「脚本は放送資産」という言葉を耳にする人は少ない。脚本は放送局の貴重な財産だが、長年、放送局の倉庫に眠り、廃棄される脚本は数多く存在する。脚本文化の継承と保存を目的に、日本放送作家協会が「脚本アカデミー」を設立し、脚本のアーカイブ化に取り組んでいる。

脚本アカデミーの代表理事を務める市川崑さんは、「脚本は放送局の貴重な財産だが、長年、放送局の倉庫に眠り、廃棄される脚本は数多く存在する。脚本文化の継承と保存を目的に、日本放送作家協会が「脚本アカデミー」を設立し、脚本のアーカイブ化に取り組んでいる。」と話す。

脚本アカデミーは、脚本のアーカイブ化に取り組んでいる。脚本のアーカイブ化とは、脚本のデジタル化や紙媒体での保存を指す。脚本のアーカイブ化は、脚本文化の継承と保存を目的に行われる。

脚本アカデミーは、脚本のアーカイブ化に取り組んでいる。脚本のアーカイブ化とは、脚本のデジタル化や紙媒体での保存を指す。脚本のアーカイブ化は、脚本文化の継承と保存を目的に行われる。



### 市川さん「番組の向上に必要」

市川崑さんは、「脚本は放送局の貴重な財産だが、長年、放送局の倉庫に眠り、廃棄される脚本は数多く存在する。脚本文化の継承と保存を目的に、日本放送作家協会が「脚本アカデミー」を設立し、脚本のアーカイブ化に取り組んでいる。」と話す。

脚本アカデミーは、脚本のアーカイブ化に取り組んでいる。脚本のアーカイブ化とは、脚本のデジタル化や紙媒体での保存を指す。脚本のアーカイブ化は、脚本文化の継承と保存を目的に行われる。

脚本アカデミーは、脚本のアーカイブ化に取り組んでいる。脚本のアーカイブ化とは、脚本のデジタル化や紙媒体での保存を指す。脚本のアーカイブ化は、脚本文化の継承と保存を目的に行われる。



# 現代を歴史に刻む

アーカイブズ新しい芽

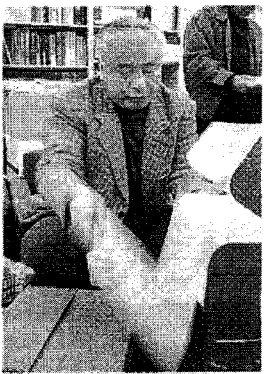
16

日本でテレビ放送が始まったのは一九五三年。当時は生放送が圧倒的だったとはいえず、ドラマなどの映像作品もほとんど残っていない。ビデオテープが貴重だったため、重ね撮りするのが当然と思われていたから。テレビ界には、瞬間芸術を礼賛する美学もあった。だから、テレビ放送が始まった時代を物語る「物証」は台本だけである。

## テレビ草創期の台本集める

学習センター、学びピア21に準備室がある。部屋に入ると、書棚の前に五十個近い段ボールが山積みされていた。箱の中には「ミュージックフェア」などを手がけた脚本家、保富康午の遺族から送られた台本だった。「積極的にPRできないんです。すぐ満杯になってしまふから」。常務理事の津川泉(58)は二十畳もない部屋を見回して言った。これまでに集まった台本は約三万冊。目録作りは進んでいるものの、台本を永久保存し、管理していく体制をどう整えるかとなる。見直しは立っていない。

## ドキュメント 挑戦



米国で見つけた資料保存用の段ボールを組み立てる津川氏(東京都足立区)

ものは作家に返す。既に三

津川は今秋、韓国を訪れて驚いた。二年前に話を持ちかけ、共に実現を目指そうと交流してきた韓国の放送作家協会が、来年一月に放送台本デジタル図書館を開館することになったからだ。すべてデジタル化し、台本そのものは作家に返す。既に三

## デジタル化、韓国追う

万冊余りが集まり、デジタル化作業が進行中という。日本はまだ準備室の段階。津川は「内心忸怩(じくじ)たるものがあるが、国が計画を後押しし、十億円を出資した韓国とは比べべくもない」。

ただ、東京大学が関心を示し、デジタル化で協力する意向を示している。アーカイブズの基本構想を担当する理事の香取俊介(65)は「こちらは台本の保存が前提。それを理解してくれ」と言う。東大、足立区との協働でアーカイブズ構築の構想を描く。

アーカイブズ構想はクラシック音楽でも進行中。実現に向けて奔走するのは元音楽出版社の社員だった倉田輝昭(75)だ。

日本でクラシック音楽が根付いたのは楽譜が普及したおかげだ。が、最近、楽譜が「場所を取る」などの理由で廃棄されるなどの憂き目にあっている。倉田は「このままでは演奏される機会の少ない曲が消滅してしまふ」と危機感を募らせる。人類の遺産をデジタルで保存して次代の音楽家に役立てたい。文化庁もこの問題を前向きにとらえ始めた。

敬称略 (編集委員 松岡資明)

日本経済新聞・夕刊(2007年12月17日)

## 脚本展大盛況に終わる

### お宝作品がザクザク

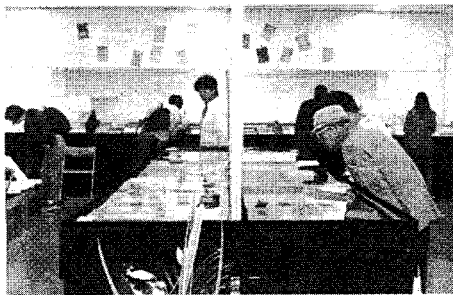
昨年、シアター1010アトリエで好評を博した「ああ、懐かしの秘蔵TV・ラジオ脚本展」10月22日、28日、生涯学習振興公社と日本脚本アーカイブズ連携事業として、生涯学習センターでも開催。

初日は「全員集合」「ゲバ90分」などの奥山コーシン氏、25日は「はぐれ刑事」「山河燃ゆ」などの香取俊介氏、27日は「アニメ火の鳥」「装甲兵ボトムズ」などの高橋良輔氏が講演。来場者は、懐かしい作品の裏話を楽しんだ。

11月23日、12月9日は、横浜情報文化センター内の放送ライブラリーに会場を移し、(財)放送番組センター(横浜)と日本脚本アーカイブズ主催で開催。日設に向け、アーカイブズメンバーは現在奮闘中。

の市川森一理事長が「私と脚本」をテーマに講演し、プロの脚本家と新人プロデューサーとの確執など、ドラマ現場の裏話を披露した。3回の脚本展には総勢1000人が来場し、それぞれの時代の作品を楽しんだ。

TVやラジオの台本が廃棄される現在、危機感を感じた放協が、足立区との共同研究の形で、生涯学習センターに日本脚本アーカイブズ準備室を開設。前ローマ法王が原作を書いたと伝えられるラジオドラマ、向田邦子のラジオ番組構成台本など宝物がザクザクと見つかり、データベース化を急いでいる。それらを管理・展示できる会館建設に向け、アーカイブズメンバーは現在奮闘中。



シアター1010アトリエでの脚本展

11月23日、12月9日は、横浜情報文化センター内の放送ライブラリーに会場を移し、(財)放送番組センター(横浜)と日本脚本アーカイブズ主催で開催。日設に向け、アーカイブズメンバーは現在奮闘中。

足立朝日新聞(2008年1月5日)

---

## ●目次●

	
■巻頭写真ダイジェスト	2
■新聞掲載ラインナップ	6
■目次（和文）	9
■目次（英文）	10
■巻頭言 市川 森一（社団法人 日本放送作家協会理事長） 牛歩ながらも前進を	11
■委員長報告 南川 泰三（日本脚本アーカイブズ特別委員会） 日本脚本アーカイブズの現状と課題	13
■グランドデザイン部報告	15
①「産学共同」へ第一歩	
②アメリカ視察・取材報告	
■収集保存部報告	42
脚本アーカイブズの礎石作り 未来を見据えて	
■アンケート班報告	52
番組の現場を支える制作会社の存在と脚本・台本の関係 番組制作会社と制作担当者たちの声	
■研究調査部報告	61
東アジアにおける台本・脚本交流の幕開け	
■研究会報告	81
■広報部報告	85
アーカイブズの広報事業	
■組織図	86
■編集後記 水原明人（日本脚本アーカイブズ特別委員会顧問）	87
	

---

## Contents



The Opening Page Photographs Digest .....	2
Lineup of Articles on Japan Scripts Archives .....	6
Contents (Japanese) .....	9
Contents (English) .....	10
Foreword .....	11
“Progress though at a Snail’s Pace”	
Director, Shinichi Ichikawa	
(The Television and Radio Writers’ Association of Japan)	
Report from Chairperson .....	13
“ <i>The Present Condition and Assignment of Japan Scripts Archives</i> ”	
Chairperson, Taizo Minamikawa	
(Japan Scripts Archives Organizing Committee)	
Report from Grand Design Dept. ....	15
① “A Step to Cooperation between Producing and Learning”	
② “Report of Visiting USA”	
Report from Collection, Conservation Dept. ....	42
“Foundation Stone of Japan Scripts Archives—Look Toward the future”	
Report from Survey Group .....	52
“The Future of Japan Scripts Archives which Attract Interests of TV Producers supporting fields of programs—Voices of TV Productions and Producers”	
Report from Research Dept. ....	61
“The Dawn of Exchange of Scripts and Scenarios at East Asia”	
Report from Workshop .....	81
“Issue of Archives of Film Related Companies’ Materials”	
Atsuko Kato	
“The Present Condition and Foresight of Digitalbook”	
Kaori Hamanaka	
Report from Public Relations Dept. ....	85
“Public Relations of Archives”	
Diagram of Organization .....	86
The Editor’s Postscript .....	87
Adviser, Akito Mizuhara	
(Japan Scripts Archives Organizing Committee)	



---

## 牛歩ながらも前進を

市川 森一 (社団法人 日本放送作家協会理事長)

---

今年（08年）の一月、私は、韓国放送作家協会のお招きを受けて、常務理事の津川泉氏と共に、「放送台本デジタル図書館」の開館式に出席をいたしました。

そのパーティで、韓国の脚本家たちとシャンパンの乾杯を交わす私の心中はいささか複雑なものがありました。「おめでとう」という気持ちの片隅で、わずかではありましたが、羨望と屈辱感を禁じ得なかったのです。それというのも、韓国放送作家協会のみなさんに、過去の放送済みのテレビ台本の収集と管理の必要性を説いたのは、私たち日本放送作家協会だったからです。

それは、3年前の釜山での「第1回東アジア放送作家カンファレンス」まで遡りますが、その頃、わが協会は、長年の課題としてきた「脚本ライブラリー」の設立、即ち、テレビ開局から50年、散逸に任せていた数多のドラマ台本の収集と保存、管理、活用をするためのシステムを確立することの重要性を、国会の総務会や文化庁、NHK、民放連、民放各社などの公共団体に訴え始めていた時期でした。私たちは、「東アジア放送作家カンファレンス」の席上でも、各国のドラマ作家たちに、これからは、日本がリーダーシップを取るから、「脚本ライブラリー」の設立運動をアジア規模で広げていこう、と呼びかけていたのです。

そして、私たちのこの呼びかけに一番関心を示してくれたのが、韓国放送作家協会の皆さん方でした。その後も、韓国と日本の脚本家同士が交流する機会があるたびに、韓国側は私たちの「脚本アーカイブズ準備室」の活動内容を尋ね、「自分たちもがんばる」と言う彼等に、私たちも先鞭をつけた者として、「なんでも訊いてください」と先輩面をしていたのです。

しかし、私たちの実情は、アーカイブズ運動の発想から5年を経ても、不甲斐ないほどの牛歩を余儀なくされてきました。理由は、資金難でした。個人所蔵の台本を預けたいという作家や遺族がいても、その郵送料は準備室の着払いですから、その予算にも限度が生じ、送呈を待ってもらっている状態がつづいています。足立区が提供してくださっているオフィスはあっても、専任の事務員を雇う資金はなく、協会所属の作家たちがボランティアで交代で務めている状況です。

それでも、この運動を中止しないで、いまでも辛うじて継続できているのは、文化庁、民放連、NHK、足立区のご理解とご支援の御陰でした。また、アーカイブズ運動に賛同して日常の雑事や交渉事や、こうした報告書作りに至るまで、ボランティアで参加してくれる協会員たちの

---

---

存在でした。

—それにしても、専任のデスクがいてくれたら……

—脚本アーカイブズ・センター設立のプランが立てられたら……

そんな詮無き夢を追っていた、ある日ある時でした。韓国放送作家協会の、南愛梨理事から、事もなげに、「おかげさまでこのたび、政府の支援で放送台本デジタル図書館が設立の運びとなりました。開館式にお越し頂けますか」という電話があったのです。

ショックでした。同時に、さすがは映像文化に力を入れている韓国だ、と感服もしました。伺ったところでは、韓国政府はこの「放送台本デジタル図書館」設立のために、10億ウォン(約1億4000万円)を支援したということでした。

「私たち議員には、あなた方脚本家が書いたテレビ台本にどれほどの芸術的価値があるのかは分かりません。ただ、今後二度と放送されない古いドラマの台本には、テレビ資産としての価値があることは容易に理解ができますし、そうした希少価値のある台本が保存管理されるセンターができれば有益な文化コンテンツになり得ると判断し、出資をしました。決して、道楽でやったことではありません」

開館式で同席した韓国議員の言葉です。

私は、韓国の「放送台本デジタル図書館」の誕生をころから慶んでいます。それは、私たちの目の前に具体的な目標ができたからです。テレビは国境を越えていきます。共同制作や制作協力も増え、ドラマ・マーケットも東アジア全域に広がっていくでしょう。特に、隣国である韓国の動向は他人事ではなくなっています。

そうした広域な視野の中で、これからも私たちは、一刻を争う過去の台本収集の手を休めることなく、このアーカイブズ運動の意義と有益性への理解を多くの日本国民に求める努力を続けていく覚悟です。

アーカイブズ特別委員会主催の「脚本展」は、北千住でも、横浜でも大好評でした。足立区の文化団体の皆様方による「日本脚本アーカイブズ倶楽部」という支援団体も立ち上げて頂きました。東京大学大学院情報学環とのコラボレーションも進んでいます。少しずつではありますが、停滞することなく前に歩みを進めています。

今後共、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

---

# 日本脚本アーカイブズの現状と課題

焦らず、留まらず、着実に

南川 泰三 (社団法人 日本放送作家協会常務理事)  
(日本脚本アーカイブズ特別委員会委員長)

---

## 日本脚本アーカイブズの現状

貴重な放送文化資源である脚本・台本の散逸・消失を防ぐために、それらを収集・管理しシステム化をはかり、有効に利用出来る施設「日本脚本アーカイブズ」の設立を目指し、平成17年10月より、実態調査、サンプル収集によって保存・管理方法を研究してきました。

今、ここに19年度版、三回目の報告書をお届けします。

「日本脚本アーカイブズ」の調査・研究は順調に推移し、東京都足立区の支援により設置された同区北千住にある日本脚本アーカイブズ準備室には作家の御遺族や、退職されたプロデューサーなどから緊急避難的に寄贈された脚本・台本が2万冊を超えております。私どもはこの膨大な脚本・台本を整理・分類し、個々の作品の書誌情報を作成するなどの地道な作業を、当協会員である作家と協力スタッフによって進めています。

そして、日本放送作家協会、日本脚本アーカイブズ特別委員会は、これまで文化庁をはじめ日本放送協会（NHK）日本民間放送連盟、足立区、放送人の会等の御支援を受けて活動を続けておりますが、19年度はさらなる外部団体との協力関係が前進しました。

- ①東京大学大学院情報学環とのコラボレーションをスタート。
- ②日本脚本アーカイブズ構想を日本放送作家協会だけではなく、脚本家が所属する団体との連携が必要ということから、日本シナリオ作家協会が正式に参加を決定。
- ③支援組織としての「日本脚本アーカイブズ有識

者会議（仮題）」を計画。

- ④脚本展や様々な講演会を通じて、足立区民を主体とする日本脚本アーカイブズ支援組織が生まれました。広く国民に理解を求める第一歩になればと期待しております。

## 19年度の新たな展開

また、19年度は調査・研究および活動面でも新たな展開が試みられました。

- ①脚本アーカイブズの先進国であるアメリカの実地調査、
- ②広く国民に「日本脚本アーカイブズ」の意義を理解していただくための「脚本展」の開催。NHK・民放連後援のもと、横浜放送ライブラリーとの共催で実現。複数のマスメディアでも大きく掲載されました。
- ③前述の東京大学大学院情報学環では正式に日本放送作家協会・日本脚本アーカイブズ特別委員会をパートナーにデジタル・アーカイブズのシステム構築に取り組むことになりました。これは東大の「高度アーカイブ化事業5カ年計画」の中に入れられ、すでに両者の定期的な会議も始まっております。

## 韓国では早くもデジタル・アーカイブズがスタート

しかしながら、こうした大きな成果の反面、私達の最終目標である「日本脚本アーカイブズ会館（仮称）」の具体化が立ち後れていることも事実です。

---

私達が日本脚本アーカイブズの調査・研究を始めた同時期、韓国放送作家協会でも脚本デジタルアーカイブズの計画が立ち上がり、私どもが資料提供などで協力いたしました。

その韓国放送作家協会が早くも今年、2008年1月、韓国放送台本デジタル図書館の出資を含む韓国政府の肝いりで発足させました。これはまさに私達、推進母体の経済基盤の実力差と文化資源として国家の脚本・台本に対する認識の温度差にあると考えます。大変、悔しい限りですが、今や先進国の常識となっている脚本アーカイブズの正当性を改めて認識するとともに、焦らず、留まらず、着実に、一步一步、実現に向けて活動を続けていく覚悟です。

### 日本脚本アーカイブズの将来展望

おそらく将来的には数十万冊を超える脚本・台本のデジタル化および検索システムを構築することによってその活用は以下のごとく無限の広がりを持ちます。

- 広く国民に公開、閲覧を可能にすることによって、メディアリテラシーとしての視聴者の意識の向上をはかるとともに、番組の提供者である制作サイトの質的向上が期待できます。さらには未来の優秀な脚本家を育成することに役立ちます。
- 産学協同によって、教育と脚本を結びつけ、教科書への脚本の取り込みや、放送文化史、庶民史など諸研究への貢献が期待出来ます。
- ひと足早く脚本デジタルアーカイブズを発足させた韓国が中心となって、2006年、第一回「東アジア放送作家カンファレンス」が発足、今年には日本で第三回が開催されます。その中から日本人脚本家による韓国ドラマの執筆という企画も持ち上がっています。脚本は最早、日本だけのものではなく国際的な需要を産みつつあります。将来的には「国際脚本コンクール」や、脚本家による国際的なシンポジウムの開催なども可能です。
- また、すでに脚本・台本のサンプル収集の過程

で「向田邦子ラジオエッセイ」や名作「私は貝になりたい」「昭和11年のラジオ台本」など、希少な作品の発見が相ついでおります。またNHKでは放送用に印刷されたドラマ脚本はすべて日本脚本アーカイブズ準備室に届くシステムが確立しております。これらの貴重な財産が放送文化にとっても有益であることは言うまでもありません。

- 過去に放送された番組は膨大な数に上っています。今、映像アーカイブズはNHKや横浜放送ライブラリーによって一部保存が進んでいますが、残念ながら放送初期の脚本・台本の保存はごく限られた作家のものしか残されていません。特にラジオ放送初期の番組やVTR登場以前のTV番組は最早、台本でしか放送された記録が確認できません。

### さらなる一歩へ

日本脚本アーカイブズ準備室におけるこれまでの地道な調査・研究をさらに前進させるために、来年度は保存脚本・台本のデジタル化を試験的に実施したいと考えております。

収集・保存した脚本・台本をどう利用するかは、日本脚本アーカイブズの将来における重要な課題です。

広く国民に公開し利用して戴くためには「著作権のクリア」と「デジタル化」が不可欠です。

現在は収集した脚本・台本の一冊一冊の書誌情報を記録しておりますが、この書誌情報とデジタル化された内容、さらに前述の東京大学大学院情報学環との連携による脚本アーカイブズの検索システムを合わせれば、公開への可能性が大きく開くものと考えます。

また私どもの日本脚本アーカイブズ設立への活動は将来、母体である日本放送作家協会の枠にとられず、前述の東京大学や日本シナリオ作家協会・NHK・民放連・プロデューサーを中心とした放送人の会などの脚本の重要性を認識する様々な組織、集団に働きかけ、独立した組織への昇華をはかっていきたいと考えております。

## ①「産学共同」へ第一歩

## ②アメリカ視察・取材報告

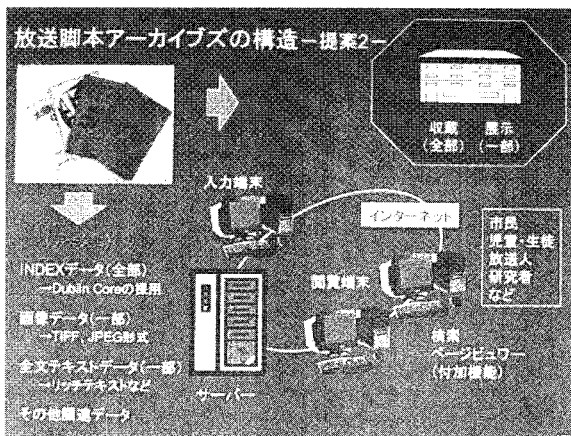
### グランド・デザイン部

#### 「産学協同」へ第一歩

07年9月に発足した福田政権が「アーカイブの充実」を公約のひとつに掲げているように、記録の保存管理を行うアーカイブを充実させることは世界の流れであり、日本もこの流れに乗り遅れてはならない。

幸い今年度は「脚本アーカイブズ」の重要性を共通認識として抱く東京大学大学院情報学環の「馬場章研究室」が、脚本アーカイブズに多大の興味を寄せられ、提携協力への一歩を踏み出すことになった。

当面、馬場章研究室では脚本アーカイブズのデジタル化の「システム構築」について研究を推進すると共に、デジタル化を通じていかに「社会還元」をしていくかについて共同で研究を深めることになった。



(東大馬場研究室提供)

21世紀のアーカイブには大きくわけて、

- ①「現物保存」と
- ②「デジタル保存」の2つの方式がある。

報告書のI、IIでも記したように、デジタル化にはまだ種々の問題点があり、テレビ放送創生期の脚本・台本には手書きのものもあるほか、草稿や様々な書き込み、カット割り等々「現物」ならではの貴重な情報もある。

韓国の放送作家協会では、②のデジタル保存に特化し、すでに「デジタル・アーカイブズ」を発足させた。

脚本・台本を「社会還元」させる上で、デジタル化は必須であるが、われわれとしては上記の理由から「現物保存」も重要であると位置づけ、①と②の両面で脚本アーカイブズのグランド・デザインを構築していくこととし、東大大学院の情報学環とも意見の一致をみた。

#### 文化資源としての位置づけ

当初、われわれは脚本アーカイブズを「文化遺産」の保存管理と位置づけていたが、馬場研究室との話し合いの中で、「遺産」よりむしろ「文化資源」と位置づけ、積極的に資源を有効活用し、社会に「還元」していくことを目指すべきということになった。

古文書などと違って脚本・台本は比較的新しい媒体であり、「今」と「未来」に深くかかわっている。そのため脚本アーカイブズは、脚本家や映像制作に関わる人たちの「人材育成」さらには「国語教育」「情操教育」「メディア教育」とも結びついている。

韓国などは例えばテレビドラマを「ドラマ産業」と位置づけており、政府も海外への「ソフト輸出」



の柱としてドラマ産業分野への資金援助を行っている。

アメリカのハリウッドの「映像産業」についてはいうまでもない。

今後、アニメやドラマ、映画等の映像ソフトは、日本が海外に向け発進する「輸出産業」の柱となっていくに違いない。その場合、従来のように「数字」さえ稼げれば良しとする「ドメスティック」な作品ではなかなか海外では通用しない。海外の作品に劣らない「質の高さ」がもとめられるようになり、そういう作品を作っていかなければ「産業」として先細りしていく。

ところで、質の高い映像作品には必ず優れた脚本がある。逆に、優れた脚本なしに優れた作品はないといっていい。それほど脚本は作品の基礎として重要な位置をしめているが、脚本家の地位は残念ながら必ずしも「脚本の重要さ」に見合うものとなっていない。

脚本アーカイブズを設立することの大きな柱のひとつは、脚本・台本の重要さを広く世間に知ってもらうことである。

脚本家が映像制作の過程でそれなりに評価され、経済的にも安定した収入を得られなければ、有為な人材も集まってこない。

多くの国民が脚本に興味を抱き、重要性を認識するようになれば、有為の参入者が増えるはずで、当然の結果として優秀な脚本も生まれる。世界に通用する映像作品を制作するには、とにかく脚本の充実が最重要課題である。

脚本アーカイブズを単に脚本・台本を書いた人の「資料館」「保管所」と位置づけている限り、「自分たちが勝手にやりなさい」ということになり、広く社会の共感を得られない。

以上のような認識のもと、われわれはこの一年、「ボランティア精神」を発揮して「脚本アーカイブズ」設立に向けて調査研究を深めてきた。

## 社会還元の必要

収集管理した脚本・台本を、外部の人にどう見

せ（読ませ）、どう利活用させてもらうか。これを「社会還元」といわせていただくが、社会還元のためにはデジタル化は必須である。

一般の図書は同じ本が少なくとも1000冊単位で存在し、すべての図書の納付を受ける国会図書館はもとより、各地の数多くの図書館に管理保存されて、誰でも手にとって「現物」を読むことができる。

一方、脚本・台本はこれまで番組（作品）制作のために50部から100部程度しか作成されず、番組が出来上がれば捨てられる慣習だった。つまりあくまで番組（作品）をつくるための「パーツ」であり、それ自体を保存管理していくという発想がまるでなかった。（未だその認識のない現場が多い）

テレビや映画が社会や文化におよぼす力は大変なもので、風俗や流行はもちろん、子供や青少年の美意識や価値観、人生観にまで、善し悪しは別にして強い影響をおよぼす。

大人への影響力も強く、政治や経済をも左右しかねず、日本の将来に影響するといっても過言ではない。

そのような映像の基礎の基礎である脚本・台本が、これまで「使い捨て」られてきたといっても過言ではない。

幸い、IT技術の急速な進歩で、文字情報である脚本・台本についても、新しい利活用の可能性が生まれてきた。

周知のようにデジタル技術の進歩は著しく、基礎データをデジタル保存すれば、単に従来の図書のように読むだけではなく、蓄積した膨大なデジタル情報を活用して、例えばキーワード検索で「別れのシーン」や「別れの会話」を瞬時に多数例パソコン画面に呼び出すことも可能である。

それを参考に「人間関係」の微妙さについて学ぶこともできるし、ドラマや映画の研究に役立つと同時に映像関係者の資料さがしや、発想のヒントにもなり、また実作者の執筆にも役立つ。

将来的には「人口知能」を応用した「脚本・台本執筆マシン」の開発も不可能ではなく、馬場

章研究室では、そのような可能性も視野にいれた研究を深める用意があるとのこと。

もちろん、脚本・台本執筆には「人の知能、脳」が深く関与しなければならないが、キーワードの条件入力によって瞬時にその場にふさわしい台詞のやりとりの例やプロット展開のパターンを呼び出すことも可能である。人口知能を応用すれば、キーワード入力でかなりのレベルの脚本・台本が半ば自動的に仕上がる——といったことも決して夢物語ではない。

それでは作家性が薄れると危惧する向きもあるが、「自動執筆」できるのは「ベシック」なもので「作家」のクレジットがつくようなレベルの高いものは、作家本人が手を加え独自性を発揮したものになる。

キーワード入力で一定レベルのプロットや脚本・台本の「形」ができることは、執筆に大きく資することになるだろう。

著作権や盗作・引用の微妙な問題など、クリアしなければならない問題はいろいろとあるにせよ、時代はそういう方向に流れている。

要は、多くの人を感動させたり強い感銘を与える脚本・台本が生まれればいいのである。もちろん、そんなものは必要ないとして旧来通り万年筆で書く人もあって当然だが、「死蔵」され早晚廃棄されるような「脚本・台本」を蘇らせ、次の世代に利活用してもらおう一例として、紹介した。

## 利活用

今後、IT技術の進展で、われわれの想像もししていない「利活用」が生み出されるだろう。そうなった場合、「もし」脚本アーカイブズのような組織がなければ、「死蔵」された脚本・台本の大半は「消えてなくなる」はずである。一度消えてしまったものは蘇ることはない。テレビ初期の作品の多くは、ビデオテープの値段が高かったこともあってほとんど保存されずに廃棄されてしまった。その時点では「さしたる価値もない」と判断されており、上からの業務命令で貴重な映像テー

プが廃棄されてしまったケースもある。

その時代では「価値なし」と思われたものが、時代の経過によって「価値をもつ」ことは、浮世絵の例などいくらでもある。

残念ながら、特にテレビの脚本・台本について、そんなものは番組作りの基礎資料にすぎないし、番組ができれば廃棄するのが当然といった考えの持ち主が、制作現場ばかりでなく、脚本家、構成作家の中にもいるようだ。

文化とは古い世代から新しい世代に「受け継いで」いくものである。個人で管理保存している方も多いが、「死蔵」されてはいかにも、もったいない。

現在、「日本脚本アーカイブズ準備室」と称しているが、いずれ「準備室」がとれたあと、どのような設備、システムが必要となるか。デジタル・アーカイブズを軸に据え、「現物保存」も重視しつつ、次年度以降、東大大学院情報学環との共同作業を通じて具体像を模索したい。

## 脚本アーカイブズの将来像

アメリカのライターズ・ギルドの長期にわたるストライキの「派生効果」として、映像の基礎となる脚本がいかに大事で重要であるか、世界に知らしめた。

映像作品にとって脚本・台本の占める役割は大きい。そのことを関係者は熟知しているはずだが、「慣例」や「前例」あるいは「力関係」などにより、実際に脚本・台本を執筆している「作家」は、ともすれば蔑ろにされてきた。

08年、シナリオ作家協会との協力・提携が決まり、テレビばかりでなく映画の脚本も収集対象に入れることになった。いずれ舞台台本なども対象になっていくはずである。

将来的には脚本の保存管理ばかりでなく、「社会還元」の一環として人材育成や脚本の「発信基地」としての役割を担わせることも考えられる。

その場合「脚本アーカイブズ」というより「脚本館」といったものに育っていくことも選択肢と

して考慮にいたい。「脚本館」にはテレビの脚本・台本ばかりでなく、映画のシナリオや舞台脚本、ウェブ作品の脚本・台本、さらにCMの台本、コンテなども保存管理されることになるだろう。

そうして、インターネットを通じて他の組織に保存されている映像作品ともリンクすることも、将来的にはあり得ることであり、そのためのシステム構築などの研究も深めたい。

07年度は、日進月歩のデジタル技術を取り入れつつ、東京大学大学院情報学環と足立区役所、さらに当脚本アーカイブズとの提携・協力を決めたシナリオ作家協会とも連携しつつ、研究調査を進めた。

デジタル・アーカイブは従来にない新しい施設であり、そう簡単に「グランド・デザイン」を描けるものではなく、今後、具体化にむけて試行錯誤を続ける中から、より望ましい形の脚本アーカイブズ、脚本館ができればと願っている。

増え続ける膨大な脚本・台本を「現物管理」するには限界があるので、今後書かれる脚本・台本についてはデジタル保存が主流になるに違いない。一方、いわゆる「決定稿」だけではなく、アイデアやアウトライン、プロット、ハコ書きなどの「草稿」原稿も可能な限り集めたい。そうすることで、1本の作品ができあがるまでの「作者の生みの苦しみ」や試行錯誤の姿を垣間見ることになる。これは新しくこの分野に関わろうとする「新人」の執筆に大いに役立つし、プロデューサーや監督、さらには映像研究者などにとっても貴重な資料となるに違いない。

今年度は、海外での脚本アーカイブズの現状がどうなっているかを調査研究するため、「映画・テレビの先進国」アメリカのロサンゼルスとニューヨークに3人の委員が赴いた。

ボーダレス化が一層すすみ、ウェブ上で瞬時に世界とつながるの時代である。今後、海外との共同制作なども活発化していくことだろう。

すでに日本産アニメに見られるように、「市場」も従来のように「国内」だけではなく、広く海外

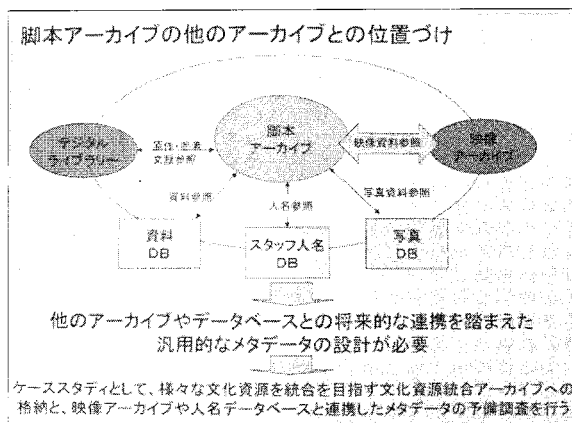
にもとめる必要がある。

グランド・デザイン部では、海外でも通用するハイレベルの映像作品をつくるために、脚本アーカイブズとして何が出来るか、どうあるべきか…を念頭におき、21世紀にふさわしい脚本アーカイブズの構築にむけて調査研究を実施した。

## 第1章 デジタル化が主流

### 1. 東京大学大学院情報学環との提携協力

平成19年8月、東大大学院情報学環の馬場章研究室と初めて協議を行い、基本的に脚本アーカイブズへの賛同協力を得られることになった。



東大では「高度アーカイブ化事業5カ年計画」を07年度から実施しており、脚本アーカイブズのデジタル化のシステム構築の研究を、この計画のなかに位置づけることで、脚本アーカイブズと東大馬場研究室は合意した。

以下、馬場研究室で考察したデジタル・アーカイブについての考え方を概略紹介したい。

### 「デジタル・アーカイブズ」についての基本理念

東大の目指しているデジタル・アーカイブの基本理念には以下のような項目がある。

- ☆教育と研究の統一
- ☆学際研究の推進

☆産学連携の重視  
☆国際活動の展開

文化資源として脚本・台本を位置づけ、これを収集保存管理し、さらに社会還元していくことは、上記の基本理念と一致する。

提携協力のなかで、東大から以下のような提示があった。

趣旨は、研究を「調査収集」と「保存」「制作」「活用」の四つにわけ、研究を深めるとともにシステム構築の具体化に努めたいとのこと。

### 1) 調査のフェーズ

○放送脚本を悉皆的に収集する仕組み（原本収集・複数収集）の構築。

※収納や予算等の制限があるものの、現段階では出来るだけ現存する脚本・台本をすべて集めたい。（それを目標とする）

○取捨選択は後世にゆだねる。

収集した脚本・台本をすべて現物保存することは不可能である。そのため、いずれどれを残しどれを「捨てる」かが迫られるが、現段階での判断で取捨選択を決めるのは、長い時間をへないと真価のわからないアーカイブズでは適当ではない。その判断は後世の選択にゆだねるべき。

○脚本・台本+  $\alpha$

出来れば脚本・台本だけではなく、シノップシスや箱書き、準備稿、メモ、映像、写真なども集めたい。これによってアーカイブズが複雑化する問題をはらんでいるが、「+  $\alpha$ 」も必要になってくるだろう。

○関係する他機関・他団体との協力・連携体制の確立。

放送局：NHK、民放（テレビ・ラジオ）、映画会社、制作会社、さらに将来的にはウェブ上で番組を発信するウェブ関連会社も。

○所蔵する個人の発掘

脚本・台本を書いているのは日本放送作家協会会員のほか、シナリオ作家協会や劇作家協会

員の他どこにも所属していないフリーの書き手もいる。さらに脚本・台本は、番組スタッフや俳優、監督、プロデューサー、広報部等々、広範囲の人たちが所蔵している。

近年、脚本・台本は「貸与」という形式を取り、管理を厳しくしているが、番組制作終了後、上記の方々の元に残されているケースは多いはず。マスコミなどを通じて広く呼びかけ、埋もれている脚本・台本を発掘する作業が重要になってくるだろう。

○著作権権利関係の処理

⇒専門家のアドバイス

⇒放送契約の定型フォーマット

社会還元には当然、著作権をどうするかが密接にからむ。著作権も、特にウェブ上の著作権については流動的であり、今後どうかわっていくかわからない。専門家などの知恵を拝借し、デジタル化による「社会還元」の際の「定型フォーマット」の作成が必要になってくる。

○取り組みモデルの構築

産業界（放送業界）・行政（国・自治体）・研究機関の連携。  
組織の役割分担。

いずれも今後の課題である。

○調査報告書の書式の策定

これも次年度につめていく。

○調査分類方法：番号付与、書誌データ（メタデータ）のエレメントセットの策定が重要。

脚本・台本の内容をメタデータと入力する方式の確立と、作業分担など。

### 2) 保存のフェーズ

○「制作」のフェーズと並行して進める。

○さまざまな劣化に備える。

※自然（経年）劣化⇒酸性紙・ステイプラーなど。

※人為的劣化⇒脚本・台本の取り扱いのまずさ。ネズミ、虫、カビ、ホコリなど。

※災害⇒火災、水害、地震など。

○劣化から回復させる作業（修復、修補、補修）も必要。

○保管スペースの確保⇒「活用」のフェーズにも連動。

※湿度管理

※盗難防止

※災害（地震、台風、火事）対策

### 3) 制作のフェーズ

○「制作」のフェーズの要はデジタル化（Digitization）とシステム構築である。

○デジタルの仕様

デジタル化の方法については、データの種類 Rawデータ、Masterデータ、運用データなどについて具体的につめていく。

また、解像度やデータ形式、格納媒体なども今後の課題である。

○東大としては、脚本・台本そのもの（二次元・冊子体）のデジタル化は難しくないとのこと。

○システム

データベース

ネットワーク

ビューワーとアプリケーションなど

○デジタル化のシステムの仕様決定は国内や海外の動向を参考に

### 4) 活用のフェーズ

○脚本・台本（アーカイブズ）のニーズ  
社会還元を具体的にどうしていくかの研究である。これには以下の3つの柱がある。

①教育・啓発・啓蒙が第一

②児童・生徒・学生・社会人

③メディア・リテラシーの利用

当然、大量のデータの処理が必要だが、デジタル化によって遠隔地からの利用も可能になる。

○課金制度

組織の運用資金を生み出すためにも、社会還元によって「公開」することに伴う「課金」が必要になってくる。これをどうするか、値段をどう設定するか、会員制にするか……等々、研究

を深める必要がある。以下、問題点や課題等を列挙すると――。

☆資金調達は事業全体にかかわる問題

☆アーカイブズの利用に対する課金だけでは運転資金の確保が困難。

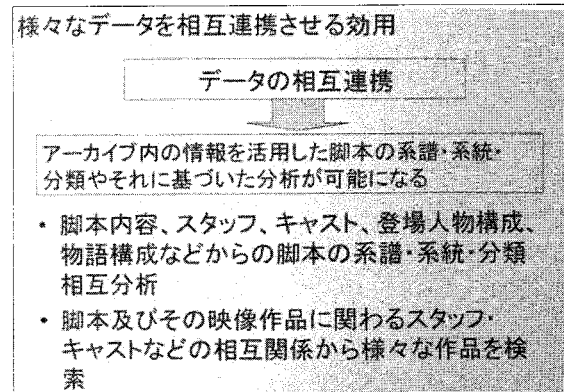
☆NPO法人・財団法人の設立など運営主体

☆オーソライズが必要。

☆公的資金・企業や個人からの寄付など原資の確保。

## 2. 東大からの提案

まだ脚本アーカイブズ実現に向けて研究段階から実現段階へ一方を踏み出した状態だが、脚本アーカイブズの構築について、東大側から08年1月、以下のような提案があった。



■脚本アーカイブズの推進主体

☆（社）日本放送作家協会

☆東京大学大学院情報学環

社会情報研究資料センター

馬場研究室

■両者は脚本アーカイブズの仕様・構築・運用において共同して責任をもつ。

■とくに上記を推進のための資金調達に関しては両者が共同して取り組む。

■そのために、両者の代表を構成員とする委員会を組織する。

■（社）日本放送作家協会は、放送脚本アーカイブズの仕様の策定と台本・脚本の収集と整理を担当する。

■東京大学大学院情報学環境は、脚本アーカイブズ仕様の策定、放送脚本アーカイブズのシステム構築、デジタル化を中心に担当し、放送脚本アーカイブズの運用、台本・脚本そのものの保存管理などについても検討する。

■将来的には、東京大学大学院情報学環境が、(株)日本放送作家協会の協力の下に、単独でも放送脚本アーカイブズのすべての工程を担当しうる仕組みを構築することも視野に入れて取り組む。

推進主体には、現在「現物保存」の場を提供していただいている足立区もはいつてくるが、以上の「提案」は脚本アーカイブズの「内容」面での協議を通じて出てきたものである。

目下、日本放送作家協会と東京大学大学院情報学環と足立区の「3本柱」で推進していくと、ブランド・デザイン部では考えている。

08年度に具体的につめていかななくてはならない問題も数々あるが、大筋で合意できるのではないかと思う。

(正式合意には文書化が必要になってくる)

### 3. 検討課題

以下は馬場教授より提案された、2008年1月段階での検討課題である。

#### 1) デジタル・アーカイブの対象

- ①ラジオ・テレビ放送の脚本・台本だけでなく、映画・舞台などの脚本・台本も対象とする必要はないか？
- ②脚本・台本だけでなく、映像・音声資料も連動・同期させる必要はないか？
- ③同一タイトルの準備稿は成稿後の書き込みなどをどうするか？

#### 2) デジタル化・システム設計

- ②デジタル化の仕様について、要求レベルをどのように設定するか？

- ②アーカイブズシステムについて、要求レベルをどのように設定するか？

#### 3) 推進組織・体制

- ①(社)日本放送作家協会と情報学環との共同で開始し、のちに大学に移行することは可能か？可能な場合、具体的にどのように事業を引き継ぐか？
- ②脚本アーカイブズだけでなく広範囲な協力関係を構築したい。

#### 4) 資金・スペース

- ①アーカイブズ構築のみならず、運用まで視野にいれて、継続的かつ十分な資金調達は可能か？
- ②アーカイブズ構築と運用に必要な人員とスペースは十分に確保できるか？

その後、東大との協議で以下のような合意点を得られた。

■東大としてはメタデータの入力的方式として書籍など冊子体資料との親和性の高い「ダブリンコア」という方式を採用の方向で具体的な作業にはいる。

又データの項目は——システム全体に関わっている。もっとも単純でもっとも基本的なもの。

■東大には原本がこなくてもいい。

最終的なシステム構築はインターネットで、東大のコピーライトが入ればよい。

■スペースについて。

現物保存については現在、足立区のまなびぴあ内にある経営政策室でお借りしている部屋のほか、中央図書館の書庫、それに梅田図書館の一室を提供していただいている。

先行き、足立区内の例えば廃校の校舎などの借用も視野にいれているが、一方、東大キャンパス内にある書庫に一部入れることは可能。

■NPO法人等別組織を組織しても、東大は加わることはできない。参加は個人の資格となる。従って、デジタル・アーカイブズのシステム構築に

関しては東京大学のプロジェクトに関与していた  
だきたい。(香取俊介)

#### 4. 脚本アーカイブズについての杉原案

グランド・デザイン部の杉原委員から次のよう  
な提案があった。杉原委員は「実作者」ではなく、  
「ドラマ研究者、評論家」としてこのプロジェクト  
に加わっている。(日本放送作家協会会員でも  
ある)

##### アーカイブズの事業について

##### 人材育成事業

当該事業については、以下のとおりである。

- ①脚本家の育成・啓蒙を図る中で、放送文化の  
活性化を推進する調査研究、および本研究の  
実施方針等の検討・評価を行う委員会の開  
催。
- ②脚本の収集保存
- ③関連機関へのヒアリング調査
- ④脚本展における来場者アンケート調査および  
分析、問題点の摘出・評価
- ⑤事業終了後における本事業の効果分析、報告  
書の作成

##### 脚本家人材育成および普及活動

平成19年度は、そのスタートラインにあって、  
事業の対象が申請団体に属する者のみを対象とす  
ることなく、大学をはじめとした教育機関や社会  
的に広く開かれたものであり、我が国の次代の芸  
術界を担う創造性豊かな人材を養成することが期  
待される、研修又は新人育成を目的とした調査研  
究を、行ってきた。

また、普及活動については、人材育成をテーマ  
にしたシンポジウム、講演会等については、当該  
報告書の完成を見て、報告会を兼ねて、有識者の  
参加を得て、シンポジウムを開催する。なお、  
教育機関(大学・専門学校等)が行う活動と当該  
事業のリンクを可能とする会議を平成19年8月

にもつことができ、東大側の事業企画との事業連  
携が可能となった。

これは、当該事業の開催による参加料等収入や  
教育機関が独自に調達した資金により行う事業で  
あって、事業完了後における執行状況調査におい  
て、自己調達金の調達方法が確認出来る経費であ  
ることはクリアしたものと考える。

なお、平成20年度においては、「人材育成・  
普及活動」対象となる次の事業について、さらに、  
具体的かつ綿密な事業を推進する。

- ★人材育成を目的とする若手中心の公演・展示
- ★海外から講師を招へいしての特別セミナー
- ★ブラッシュアップを目的とする集中講座
- ★文化施設や文化芸術団体のアートマネジメント  
担当者・舞台技術者等の研修

##### 脚本アーカイブズの基本の考え方

基本コンセプトとしては、脚本を集約(ライブラ  
リー)化することで、脚本家の地位向上を目途  
として、ひいては脚本家の映像文化への貢献およ  
び自己啓発を通して後継者育成につなげていくも  
のである。そのためには、コンピュータのインタ  
ーネット上のデータファイル化は必須であり、不  
特定多数のユーザーの活用が可能となる。

しかし、安易なインターネット公開は、著作権  
保護など問題も発生する可能性を秘めており、当  
委員会では、公開に向けた条件整備に取り組む必  
要性を感じており、節度をもったコンピュータシ  
ステムの導入が必要条件との認識を得た。

##### 脚本アーカイブズ設立の意義

##### ①国家的戦略・経済・情報戦略から文化戦略へ

今や、国家的な活動のあり方は、EU諸国を中  
心とした地球温暖化問題への積極的な取組や韓国  
等で見られる文化隆盛策など、国家間イニシアテ  
ィブのあり方が様変わりしてきた。わが国では、  
経済活力を高めるには、第2次産業に傾斜化する  
中での国民総生産性を上げることが金科玉条であ  
ったが、情報通信などネットサービス産業、宅配  
サービス産業などの台頭によって、産業構造も変

化してきた。したがって、国の産業政策にも変化を見ることができることから、今や、産業政策変換の好機ととらえ、国家産業政策への文化産業面について、私達は側面からあるいは真っ正面から取り組むことで、「文化産業」の振興に貢献する。

#### ②インターネットシステム

多くの人々に、脚本を見る機会を与え、広く関心を持って貰える。また、そのことで、脚本家の啓蒙・発展を可能とする全国図書館との連携で、レンタル、図書販売、出版事業が可能となる。

#### ③産学公連携事業

大学の図書館との事業連携をはかると共に、わが国の文学部・社会学部等のある大学の研究者、学生等の勉学の一助になるよう推進する。海外の大学との事業連携も視野に入れる。

#### ④貢献

テレビ局・制作会社・協会会員へのレファランス、国内外の放送関係機関、協会会員に対するレファランス。

#### ⑤その他利用者

広告等活用の企業群および一般視聴者への利用も可能となる。これについては、会員制でのインターネットでの配信が考えられる。

### 実施に向けてのシナリオ案

脚本アーカイブズ設立の実施に向けては、概ね、以下のような段取りが考えられる。

- ①デジタル化による利用に関するモデル事業
- ②実験モデルで得られたデータに基づく実施計画書の作成
- ③実施計画書(案)の理事会での採択
- ④(社)放送作家協会の総会決議
- ⑤実施計画書にそった行動
- ⑥脚本アーカイブズ建設委員会の設置および設計事務所、コンサルタントの委託
- ⑦政府系金融機関への実施計画書の作成
- ⑧行政機関への申請
- ⑨事業計画診断等を経て、事業承認の後、建設施工会社との契約および実施

(杉原秀一)

## 5. 基礎データ入力のコスト等

デジタル化のためのシステム構築は、08年度以降、先述したように東京大学大学院情報学環の馬場研究室が中心になって研究を進める予定である。

07年度は、デジタル化の基礎となる基礎データを入力するため、どのくらいの費用、人員が必要かを調査研究した。

### 1) 協力スタッフによる入力

アーカイブズ準備室で書誌情報のデータ入力を行っている協力スタッフに、実際に脚本・台本を入力してもらった。

入力対象の脚本・台本はガリ刷りの脚本・台本など古いものが多く、誤字脱字や読みにくい文字、略字などもあった。ガリ刷りの脚本・台本は劣化も進んでおり、内容をデジタルデータないしマイクロ・フィルムなどで残していく必要があるかと思うが、今回はデジタル・アーカイブズのための基礎データとして入力してもらった。基本的にワード入力である。

#### ○「浴室の死美人」

(土曜ワイド劇場) 2時間ドラマ(実質90分番組) タイプ印刷。制作年代は未詳だが、恐らく1980年代後半。漢字は当て字が多く、誤植も一カ所。

入力所要時間：25時間5分(校正も含める。以下同じ) (F君担当)

#### ○「巨人の星 第3話」

アニメ台本。30分番組。

入力所要時間：8時間30分。(F君担当)

#### ○「群馬に生きる」

ドキュメンタリー映画。45分番組。ガリ刷り。昭和53年制作。

入力所要時間：2時間50分。(Y君担当)

#### ○「三匹の侍」

1時間ドラマ(実質45分)。ガリ刷り。



汚れが目立ち判読不能の文字も。略字あり。

入力所要時間：7時間23分（Y君担当）

○「横堀川」

50分ドラマ。関西弁で入力者に馴染みがなく打ちにくい。誤字脱字はそのまま入力。

入力所要時間：10時間15分（S君担当）

○「ふるさと三国志」

ドキュメント台本。ガリ刷り。30分番組。誤字脱字。読めない中国文字等あり。

入力所要時間：5時間10分。（S君担当）

○「くらしの歴史」

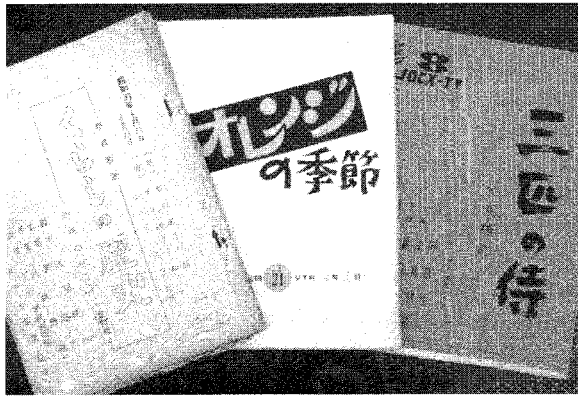
ドキュメント台本。昭和37年。漢字がむずかしく入力に苦勞。

入力所要時間：4時間。（K君担当）

○「オレンジの季節」

ドラマ。タイプ印刷。むずかしくて読めない文字が多かったという。パソコンで出ない文字あり。

入力所要時間：7時間。（K君担当）



4人の協力スタッフに入力してもらったが、初めてのことであり、予想以上の時間がかかった。読みにくい文字、難しい文字、パソコンで表示できない文字などがあり、調べる時間なども加味した所要時間である。

1時間あたり仮に1000円とすると、相応の費用となる。

## 2) 台本専門印刷会社S社による入力

S社のケース――

S社では台本印刷の独自フォーマットを開発し

ており、定価は以下の通り。

★台本をワードで入力した場合

ワード入力単価：1ページ250円。

責任校正：1ページ100円。

客先校正：1ページ25円。

ページあたりの原価（内校正）350円。

ただし1ページとは、台本にした場合の1ページ。

○「死海の伏流」

2時間ドラマ。タイプ印刷。

130ページになり、上記単価で計算する

と入力料金：32,500円。校正料金：

1300円。これに工程管理費6825円。

消費税を加えると計：54,941円。

○「たぬき」

1時間ドラマ。ガリ刷り。入力ページ73。

入力料金+校正費+工程管理費+消費税で、

計：30,852円。

S社ではこの20年間で約10万冊の台本の基礎データを所有している。（一部はウィンドウズ98作成）。このデータがある場合、ここからの入力なので値段はわかる。ワード入力作業は「固定料金」となり、1時間もので1冊6000円、2時間もので1万2000円となる。従って例えば、

○「男はつらいよ」

の場合、55ページになるが、社内データを活用できるので、「1時間もの」の料金として消費税分を加えて計：6300円。

## 3) C社のケース

ここのケースは入力を頼んだわけではないが、1時間ものの台本で、準備稿、決定稿をふくめ50部刷ると、データ入力印刷代を含めて12万円。2時間ものだと20万円。基礎データ入力のみを受注したことはないが、この値段の半分近くの料金のようなのである。

## 4) 有償ボランティアによる入力

デジタル入力を「ボランティア」でやるとする

と、経費はずっと軽減される。

○作業コストの試算（杉原委員案）

ドラマ60分番組の打ち込み・標準作業時間：10時間。ボランティア作業員1時間単価@1,000円@1,000円×10時間=10,000円。

※一冊しかない台本や、取り扱いを慎重にしないと破れてしまう劣化の激しい脚本・台本もあり、「信頼性」ということも考慮しなければならない。

このほか、OCRなどをつかった入力作業もあり、これだと時間、費用も軽減されるが、ガリ刷りや劣化した脚本・台本には、やはり手作業による入力に頼るしかない。

どの入力作業がふさわしいかは、経費と入冊数などを勘案する必要があり、08年度以降の課題で、脚本アーカイブズと東大馬場研究室で協議していく予定。

※台本専門印刷会社S社の所有する約10万冊の台本データも貴重だが、S社独自のフォーマットで、しかもウィンドウズ98時代のフォーマットなので、現在のデータに変換するとなると、それなりの手間暇がかかる。

これも今後、S社との話し合いでつめていく必要がある。S社のデータは、データそのものはS社のものだが、台本の中味は脚本家、構成作家のものであり、さらに発注者はテレビ局や映画会社、映像制作会社であり、著作権の問題などもからみ、今後の検討課題である。

（香取俊介）

## 6. 付帯事業等

### デジタル化におけるデータの検索分類法

脚本の検索分類の考え方としては、ユーザーサイドから、次のような分類エレメントが考えられる。なお、ニーズ調査については、今後、検索のための分類指標を確定する段階で実態調査が必要となる。

○「先ず、筋書きが面白くなくてはダメ」といっ

た趣旨での検索ポイント。レーティングの高かったドラマを検索し、ストーリーの検証を行う。

- アーカイブに見る“ストーリー展開の妙味”といった趣旨での検索ポイント。連ドラにおける毎回の要約と批評をつけ、ストーリー展開の妙味をデータベース化する。
- シーン別、映像表現の妙味といった点での検証。
  - ①恋の告白シーン～例「101回目のプロポーズ」
  - ②刑事ドラマに見る終わり方の研究（参考）
  - ③シナリオの始め方と終わり方の研究、たとえば、「ラブロマンスに見る終わり方の研究」
  - ④ラブロマンスのシチュエーション設定の仕方
- ミステリーに見る構成法の分類と特性研究
  - ①ミステリーに見る犯人検証法と帰納法の構想について
  - ②ミステリー・シチュエーションの作り方
- 年別の作品による流行語大賞
- 年別ドラマ撮影多用ロケーション大賞
- 広告研究とドラマ内での商品使用と販売の関連度分析。
- 日本語のファッション化傾向分析省略の文化：例～あけましておめでとう（あけおめ）
- ドラマに見る社会現象の分析と今後の課題
- ドキュメンタリーに見るわが国の産業発展史
- 放送批評懇談会が選んだギャラクシー賞のドラマ脚本

### 脚本アーカイブズの利活用

脚本アーカイブズの利活用については、以下の項目が考えられる。

- ①文学研究者のための研究資料として大学の図書館、国会図書館、自治体図書館との連携
- ②脚本家、脚本家養成に関する活用法

### 付帯事業

- ①高齢化社会におけるシニアのための文章講座
- ②女性のためのシナリオ講座
- ③サラリーマンのためのシナリオ講座
- ④アーカイブに見るラブレターの書き方講座
- ⑤メール活用の気の利いた文章作成講座

- ⑥朗読で健康取得、文章講座
- ⑦朗読劇の妙味
- ⑧正しい日本語の使い方講座(アーカイブで検証、日本語乱れ現象)

## 単行本化

- ①オンエアされた段階でのノベライズと販売
- ②通信教育教材の単行本化

## 通信教育での活用

文章講座におけるアーカイブ活用では、テキスト送付、スクリーニングにおいて、インターネットでアーカイブから検索し、内容を確認することでスクリーニング効果をあげる。シナリオ作家をめざす人のための文章講座(アドバンスクラス)では、テキストを作成し、実際にテレビのオンエアまでサポートする。さらに、添削をつけてマンツーマンでの通信教育の手だてにする。

## 学校教育との連携

高校、大学の講義において、アーカイブから目的のシナリオを取り込み、それについて、解説を行いながら講義を進める。テーマは、青少年問題では「地域社会とテレビドラマ」といった趣旨での講義が考えられる。「歴史ものの資料と歴史解析」、文章作法からは、「原作をリライトするテクニック」や「向田邦子原作の脚本化トレーニング」などの講義が考えられる。学生、院生、研究者の研究資料としてアーカイブズの提供をする。

1回のアクセスごとのアクセスフィーによって収益を計上する。なお、これは、メディア教育として、小、中、高の学校でのメディア教育へ市場を拡大する。また、それは、主として、アメリカやヨーロッパ、アジア諸国等の学校との連携も視野にいれる。

## 著作権のマネジメント

### ①作家のための著作権検索システム

脚本家はストーリー展開等で、必ずしもオリジナル性が出せてるとは限らない。無意識に潜在化し

た著作権保護事由を援用してしまうこともあり得る。海賊版へのリスクマネジメントとして作品が著作権と抵触しないかをチェックしておくことが重要である。

### ②作品以外の著作権申請代行

著作物内(作品)に、たとえば、ビジネスモデルのような知的財産に関連する著作権があるかも知れない。それを専門家の目からチェックし、新たな著作権申請の代行業務を行うことも可能である。特に、ビジネスドラマでは、脚本上、作りあげたビジネスシステムが、現実には、有効かつ実現性の高いビジネスモデルになることもあり得る。

そういったビジネスシーズに対して、脚本の段階で、知的財産として著作権者の所有にしておくことは、新たな著作権保護の先見性でもあり、脚本アーカイブズの役割である。

## シナリオ学会の設立

学会を設立することで、シナリオ作家の地位の向上と質的レベルのアップをめざす。事務局はアーカイブズ内に設置。部会は放送作品分科会、映画分科会、演劇分科会に分ける。

※(注) 以上のアーカイブズ活用において使用された脚本は、一回アクセスごとに、契約顧客別に料金を発生させるものとする。著作権者が自分の文章をチェックする場合でも、検索システムを使用すれば有料となる。ただし、該当する作品がない場合には、検索が行われなかったとして料金は発生しないが、検索システムへの契約金は支払うものとする。

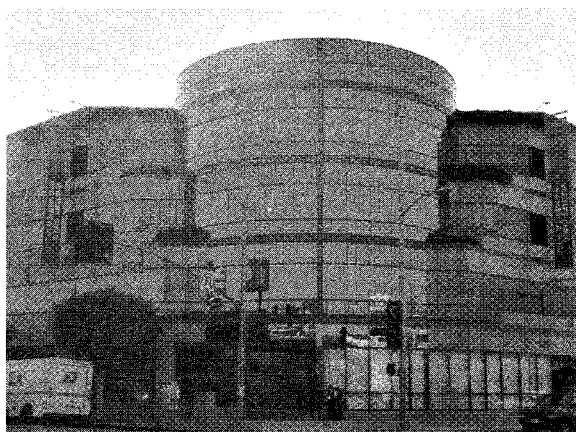
(杉原秀一)

## 第2章 充実している米のアーカイブズ

### 【アメリカ視察・取材報告】

すでに触れたように、人類の文化の歩みを記録保存し将来に役立たせるため、世界的に「アーカイブ」が重要視されている。日本脚本アーカイブズでは、こうした流れに沿って海外の脚本アーカイブズの現状がどうなっているかを調査・取材した。

07年度は手始めとしてテレビと映画の先進国アメリカでの調査・取材を実施するため、07年11月25日より12月2日まで、香取、津川、石橋の3委員がロサンゼルスとニューヨークを訪問し、関係諸機関を訪問し現況を視察すると共に関係者との意見交換を行った。



(ライターズ・ギルド図書館)

まず「映画の都」ハリウッドのあるロサンゼルスでは、UCLA図書館をはじめマーガレット・ヘリック図書館、ラジオ・アーカイブズ、ライターズ・ギルド図書館、AFI図書館他を訪問し、保存状況を視察すると共に関係者から収集・保存・管理システムについて貴重な話を聞いた。

さらにライターズ・ギルドの理事や映画プロデューサー、脚本家らから「アメリカの脚本家事情」について話を聞くと共に、日本語放送を行っているUTBや脚本・台本専門書店・脚本も売っているフリーマーケットなども訪れ見聞を深めた。

折りから、アメリカの脚本家・台本作家の団体

であるライターズ・ギルド(WGA)ウエストが、ウェブ上での配分比率の引き上げを要求し、長期のストライキを実施中で、アメリカでも「脚本・台本」についての関心がたかまっていた。

映像作品の根底には脚本・台本があり、作品の成否は脚本・台本の出来、不出来にかかっている。映像関係者なら誰でも知っている「常識」だが、それにしては脚本・台本はあまり話題にもならず、執筆作業にかかわる脚本家等の社会的地位や待遇は必ずしも高いとはいえない。

世界に映像作品を提供し強い影響力をもつアメリカの脚本家・構成作家が、長期にわたって異例のストライキを実施したことは、脚本がいかに重要な役割を果たしているかを世界に知らしめたことで意義深く、その現場をかいま見ることが出来たことは思わぬ収穫であった。

アメリカでの脚本アーカイブズは大きくわけて三つに分類される。一つは大学や公立図書館などの脚本アーカイブズであり、もう一つは映画会社や個人の寄付で成り立つ図書館、三つ目はライターズ・ギルドなど職能組織が運営する図書館である。

映像(特に映画)を「輸出産業の柱」と位置づけるハリウッドでは、映像アーカイブズとともに脚本アーカイブズも充実しており、過去の作品を「文化資源」として再活用していこうという思想につらぬかれている。「産業」として位置づける場合、どうしてもテレビ作品より、アメリカの輸出産業の柱でもある映画の比重が高い。

映画に関しては、映像はもとより脚本やパンフレット、ポスター類も収集保存され、「アメリカ文化」の貴重な遺産として後世の人間に引き継いでいこうとしている。同時に「文化資源」として利活用しようと努力しており、一般の読者や研究者等にも開放されている。

映像や脚本などに関わろうとする新しい世代にとって魅力ある施設になっており、アメリカ国内ばかりでなく海外からも有為な人材が集まり、研究を深める場所となっている。

ロサンゼルスには、映画学科をおいている大学

も多く、さらに映画専門学校や脚本・台本専門店などもある。映像作品を「ビジネス」の重要な柱として明確に位置づけており、見習うべき点が多い。

意外であったのは、脚本・台本のデジタル・アーカイブについては今のところあまり進んでいないことだ。コピーされウェブ上に流されることに関係者は危惧を抱いているようだが、すでに韓国でデジタル・アーカイブズが発足し、日本でも設立の機運があることを話すと、先方では強い関心を持ったようであった。

一方で、アメリカではグーグルなどのIT企業が、あらゆる文書をデジタル保存しようと企図しており、脚本・台本をデジタル保存され「社会還元」されることも、時間の問題であろう。

それが社会にとって有用で必要、かつ利益を生み出すものと認識されれば、日本と違ってアメリカの動きは早い。

#### プロデューサー、脚本家から話を聞く

図書館訪問の一方、ロサンゼルスでは映画プロデューサーやWGAの映画脚本家ともお会いし、アメリカの映像制作状況や脚本家の地位などについて話を聞いた。

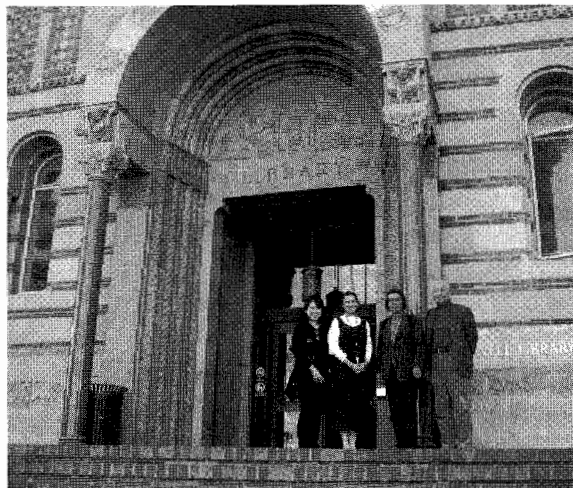
映画やドラマを「産業」と明確に位置づけ、海外への輸出を考慮して「ワールド・ワイド」な視点から映画（ドラマ）作りをしている人間の熱気が伝わってきた。

脚本がいかに大事であるかという点で、接触したアメリカの関係者と完全に意見が一致した。訪問した先々で「脚本アーカイブズをぜひ成功させてください。とっても意義のあることです」といわれたが、「外交辞令」以上のものを覚えたことを付記したい。

(香取俊介)

#### 【UCLAヤングリサーチ図書館】

(UCLA / Young Research Library, Powell Library)  
Ms. Julie L. Graham (Special Collection Librarian)



(Powell Library (ライブラリアンJulieさんと共に))



(スペシャルコレクション入り口)

#### ■背景

UCLA (the University of California) は1919年に設立され、図書館の蔵書は800万冊で、アメリカ国内でトップ10に入る。学生や研究者だけでなく、一般の訪問者も広く受入れ、パスポートなどのIDがあれば1年間有効のライブラリーカードが作成でき、自由に閲覧できる。

今回の視察では、まず1929年に建設されたパウエル図書館内を訪問。台本の保管方法やデータ入力について取材した後、ヤングリサーチ図書館内のArt Library Special Collectionにて、実際の閲覧現場を視察した。パウエル図書館内には映像フィルムが220,000本以上保管されるFilm & Television Archivesもあるという。

Art Library Special Collectionの母体は1954頃に設立されたシアターアーツコレクションに始ま

り、いくつかのコレクションが統一、分岐し現在のヤングリサーチライブラリー内に位置するようになる。

#### ■概要

##### 脚本所蔵数

- ・TVドラマ：16000冊以上保管(900箱)。
- ・TV映画(2時間)：1750冊(239箱)。
- ・映画：8500タイトル(1100箱)。
- ・ラジオ：650冊。

これとは別に300のパーソナルペーパーも混合。パーソナルペーパーとは、スクリプトの他に、走り書きメモや契約書なども含まれ、重要な資料である。

Special Collection全体ではサポートスタッフ7名、ほか学生5、6名。分類や書誌データ入力作業を行う。

コレクションの寄贈ルートは、日本のアーカイブズ施設と同様に、映画・TV局や監督・プロデューサー・演者など。しかし、そのコレクション規模は比較にならない。

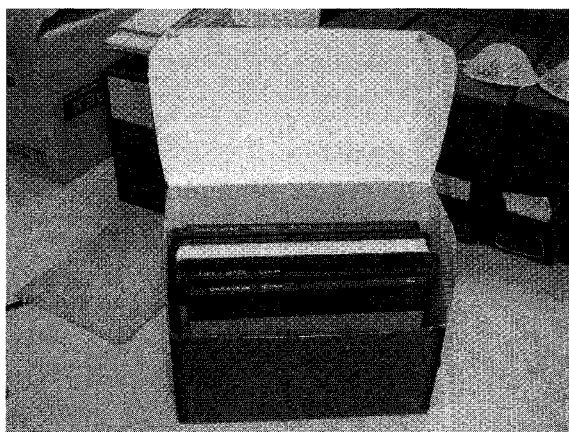
William & Lee Bell Collection (1958～)はソープオペラと言われる昼のメロドラマコレクションは最大級のものである。このほか、コレクションが分散している場合もあり、正確な脚本数は概算できない。唯一保管されていない分野は、リアリティTVと言われるライブ形式のバラエティショーだけ。他はラジオ放送初期台本から所蔵されているという。

#### ■保管方法・データ管理

脚本は、劣化の要因となるクリップやホチキスを取り除き、無酸性紙(Acid free Paper)のBOXに入れ、分類される。

書誌データは図書10進法ではなく、TV映画・ラジオ・ソープオペラなどの種別に分類され、局名や寄贈者、演者やスタッフ、台本のバージョン(1稿～決定稿など)も記載される。

これらのデータは、カリフォルニア州全土の図書館、美術館、アーカイブ施設間でオンラインで結ばれている(Online Archive of California=OAC)。



(Acid free Paper Boxに入れられた台本)

OACは州の公費が投入され、維持管理の充実や、美術品などのデジタルアーカイブにも役立っている。

<http://www.oac.cdlib.org/search.findingaid.html#adv>

また、LAでは映画脚本に限ったりサーチシステムも構築されている。これはアカデミー賞を主催するAcademy of Motion Picture Arts and Sciences所属のMargaret Herrick Library(別記)サイト内にはLAの6つの図書館を連携したオンラインがある。

<http://scriptlist.oscars.org/>

今後の脚本アーカイブズにおいても、教育機関や他の映像アーカイブとの連携により、コレクションが有効に利用する方法を構築すべきであろう。(石橋映里)

#### Art-Special Collections

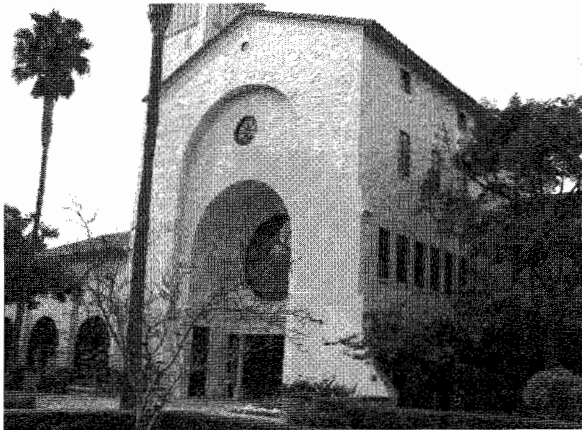
22478 Charles E. Young Research Library

Box 951575 Los Angeles, CA 90095-1575

#### 【マーガレット・ヘリック図書館】

ロサンゼルス市のビバリー・ヒルズの一角に立つ白亜の洒落た建物で、アカデミー賞などを主宰する映画芸術科学アカデミーが運営する。前身は1928年に出来たりサーチ・ライブラリーで、1931年、映画監督でライブラリアンでもあったマーガレット・ヘリックの寄付によって現在地に建設され、寄贈者の名前を冠してマーガレット・ヘリック図書館になった。

映画関係の資料のコレクションとしてはアメリ



(マーガレット・ヘリック図書館)

カでも最大級の図書館で、1916年に書かれた無声映画時代の脚本から現代までの脚本、6万冊以上が保存管理されている。

映画関係の蔵書は3万2000冊をこえ、1800冊の雑誌、3万枚の映画ポスターの他、映画の宣伝資料や新聞資料などを収集し、一般公開している。

コレクションには「スペシャル・コレクション」と「コア・コレクション」がある。スペシャル・コレクションは、故人になった関係者の所蔵になる「歴史的遺産」からなり、その他はスペシャル・コレクションとして分類されている。

所蔵コレクションには、黒澤明監督の絵コンテなども入っていた。

大学や個人のコレクターから集めた他、脚本家、プロデューサー、監督などからの寄贈も多い。

上映されたすべての作品の脚本を集めているわけではないが、「賞を獲ったかどうかで分けることはない」と図書館の司書は話していた。

収集する脚本は一年平均で600本ほど。新しい脚本については、製本会社に製本を頼むことも多い。背表紙にタイトルをいれ、書架にアルファベット順に並べられている。

脚本のマイクロフィルム化はしていない。理由は製本して保存したほうが保管状態は良いからとのこと。

保管庫には酸性紙で作られた1万6000箱があり、パンフレットの類と共に未製本の脚本がそこに保管されている。

なかには、ハリウッドの映画人を震撼させた「赤狩り」のときの資料などもあり、制作中止に至る関係者のやりとりを記したメモなども保管しており、資料価値も高い。

テレビ脚本は基本的に収集していないが、例えば「刑事コジャック」など人気番組の脚本は一部保存されている。部屋の湿度は一定に保たれ、防火装置も整っている。

### 完備されているデータベース

コア・コレクションとして、1910年から現在まで9000本の脚本が保存されている。

その中には無声映画の脚本や外国映画の脚本もあり、例えば日本映画「Shall we・ダンス?」やドキュメンタリー作品の台本もある。内容も多彩でアカデミー賞受賞作はもちろん、カルト映画の脚本もある。

大半の脚本は出版されていない。コア・コレクションには、作品のアウトラインやプロット、日本の「箱書き」に相当するドラフト等々、手書きの草稿もある。さらに第一稿から二稿などの改訂稿から最終稿までが保存され、一本の脚本が生み出されるまでのプロセスがわかるようになっている。

マーガレット・ヘリック図書館は、「モーション・ピクチャーズ・データベース」というデータベースで、南カリフォルニアにある6つのコレクション——ルイス・メイヤー・ライブラリーやシネマ・テレビジョン・ライブラリー、UCLAのアーツ・スペシャル・コレクションズなどと、オンラインでつながっている。もっとも、内容は書誌情報のみで、脚本の内容を読むには保存されている施設に足を運ぶ必要がある。

脚本のコピーは可能だが、全体の10%しか出来ない。収集方法は、作品が放映されたあとプロデューサーから直接寄贈してもらうことが多いが、そのほか、電話やメールで図書館側から寄贈をもとめたりもする。

周知のように、アメリカの映像ビジネスには、脚本家と制作会社をつなぐ「エージェント」があ

る。エージェントは脚本やプロットなどの売り込みを行っているので、映像化に至らないものも含め多くの脚本をかかえている。そのため、図書館ではエージェント経由で脚本をもらうことも多いという。

アカデミー賞を主宰している組織が運営しているだけに、極めて充実した映像関連図書館となっている。

(香取俊介)

Margaret Herrick Library  
8949 Wilshire Boulevard  
Beverly Hills, California 90211

### 【USC・南カリフォルニア大学】

キャンパスがロサンゼルスダウンタウンの中心部にあるため、UCLAの開放的な雰囲気とはまた別のおもむきがある。大学周辺の治安はあまり良いとは思えない。

University of Southern California (南カリフォルニア大学、通称: USC) は、1880年創立。アメリカ西部では最古の歴史を有する伝統校。エンターテインメント産業の発祥地ロサンゼルスらしく、映画監督のジョージ・ルーカス、スティーブン・スピルバーグなどをOBに持つフィルムスクールとしてシネマ・テレビジョン学部がある。2006年4月に、Cinematic Artsに改称。2006-2007年、728人の大学生と621人の大学院生が在籍した。

キャンパス中心部にあるライブラリーに入ったすぐ左のスペースには、映像を見ながら学生たちが進行係の書き込みのある撮影台本を見ながら比較研究してる姿があった。これらの台本・脚本は5月6月の撮影が終るシーズンに入手するのだという。知り合いの脚本家や、脚本家の遺族から寄贈されるシステムは認知されている。買い取る場合もあるが、本来的には買わないのがポリシーである。

台本・脚本は基本的にアルファベット順に収蔵されており、ライブラリーの中でしか見ることは

出来ないが、教材として生かされている。将来的に有望な俳優や監督の卵たちを養成する文化的な継承はなされている。

台本・脚本のコレクションは3種類。

- スタジオからの寄贈
- タレントエージェンシーからの寄贈
- 個人のコレクション

ライブラリーには別に展示会用の部屋が設けられていて、随時映画関連の展示が行われているようである。映画で使われた衣装やオスカー像、撮影時にとられた膨大な写真などが収蔵されていた。

USC全体の学生数は、学部生16,000人・大学院生12,000人の合計28,000人で、このうち5,000人を海外からの留学生在が占めている。

2006年9月19日に、卒業生ジョージ・ルーカスがフィルムスクールを新しい137,000平方フィート(12,700m)の施設に拡張するために17億5100万ドルを寄付したと発表した。

(津川 泉)

University Park Campus  
University of Southern California  
Los Angeles, CA 90089  
(213) 740-2311

### 【AFI・米映画協会先端映画テレビ研究センター】

UCLA、USCを訪問したあとに同じロサンゼルスにあるアメリカ映画協会先端映画テレビ研究センターを訪れた。大学のキャンパスに比べてこぢんまりとした専門学校といった印象を受けた。もともと批評研究と映画創作を目指して作られた施設。現在、演出その他の製作技能を学生に教育している。ここからは、デヴィット・リンチ、ティム・ハンターといった監督たちが巣立っている。



ライブラリー脚本責任者キャロラインさんにお話をうかがった。

台本・脚本は鍵つきの書棚にずらりと並んでおり、映画製作時の関連書類も教育の一環として集めている。まさに、アーカイブズとして機能している。ただし、貸し出し・コピーは不可。閲覧のみである。

台本・脚本はAFI、UCLA、USC、WGA 4つのアカデミーが (SCRIPT LIST) 書誌データを作っている。ここには6000に及ぶ歴史的価値のある台本がある。主に劇映画、TVシリーズの映画、TVショーなどの台本まで集めるとスペースがなくなる。台本・脚本はライター、プロデューサー、タレントからの寄贈による収集である。

■アクセスして台本・脚本が見られるのは評価できるが、台本・脚本のデジタル化は行っていない。

■学外からは予約すれば閲覧できる。

アメリカ映画協会 (American Film Institute, AFI) は、米国の「映画芸術の遺産を保護し前進させること」を目的とする機関。1967年に設立され、主にアメリカ芸術基金から資金を得ている (それに加え、映画テレビ産業からも資金援助を得ている)。

アメリカ映画協会は、映画を保存し、映画製作のための訓練と育成を行い、映像に関するさまざまな活動を促進し、それに協力している。1973年からは「生涯功労賞 (ライフ・アチーブメント賞)」を提供している。

アメリカ映画100周年を記念して1998年から「AFIアメリカ映画100年 (AFI 100 Years...)」シリーズの発表を始めたが、今年ランキングを11年ぶりに更新。選出された100作品が大幅に変動した。選出メンバーは監督、脚本家、俳優、編集者、映画撮影技師、批評家、歴史家ら。

1位は変わらず『市民ケーン』 (CITIZEN KANE)。2位『ゴッドファーザー』 (THE GODFATHER)、5位『雨に歌えば』 (SINGIN' IN THE RAIN)、8位『シンドラーのリスト』 (SCHINDLER'S LIST)』これらはそれぞれ10位内

でランクを上げている。また、4位の『レイジング・ブル』 (RAGING BULL)』は24位から、9位の『めまい』 (VERTIGO)』は61位から大躍進を遂げた。 (津川 泉)

2021 N Western Ave  
Los Angeles, CA 90027, USA  
+1 323-856-7600

### 【ライターズギルド財団図書館】

(The Writers Guild of Foundation & Archives of Performing Arts Ms. Karen Pedersen, Library Director)

#### ■背景

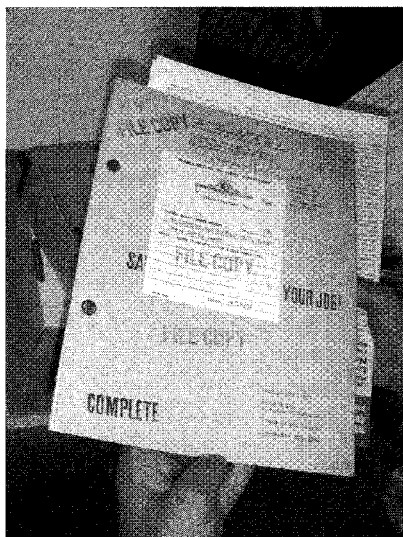
作家労働組合 (The Writers Guild of America、以下WGAとする) の外部団体である教育的非営利団体 (The Writers Guild Foundation) が組織する図書館。芸術、技術、ビジネス、歴史および作家の伝記や映画・テレビに関する書籍に特化している。ロサンゼルスを拠点とするWGA、West内であり、一般公開されている。貸出は行っていない。

所蔵点数：1万9000点。そのほとんどは映画とテレビの脚本。脚本は、制作 (上映) された素材のみ扱っており、その他、視聴覚素材、雑誌も所蔵。すべての脚本を所蔵するのではなく、ハリウッドのエンターテインメント脚本部門の受賞作品 (Oscars、Emmys、Pen、Cable Ace、Humanitas、Golden Globe、WGAaward) を中心に保管。受賞作品のほか、賞候補作品も特記してデータ登録している。

コレクションは、WGAが主催する脚本家賞の脚本を収集したことから始まる。

図書館設立は12年前。取材者 Ms. Karen Pedersen は創設当初からライブラリアンとして参加。受賞作や評判が高い作品を重点的に収集。オリジナルのものを保存するのが望ましいが、コピーであっても、価値のある作品を優先して保管。その作品を脚本を学ぶ人のために後生に伝える使命があると話す。

収集の方法は、制作会社やコレクター、作家遺族からの寄贈。スタジオのゴミ箱から持ち帰った、貴重な資料や台本もある。



(1946年当時の脚本)

#### ■運営について

財団からの資金で運営。スタッフは常勤館長1名、常勤アシスタント2名の計3名。利用者は1日平均27名から30名（電話やメールによる利用者も含む）。年間平均5000から7000名が訪問。

#### ■書誌情報について

独自の分類方法（カラーコード）を採用。市販の分類ソフトウェアを使う図書館は多いが、本館はすべて禁帯出であり、独自の方法で仕分けしている。（ラジオ台本、簡易閲覧式台本（コピー）、伝記的台本、映画台本、TV台本、書籍に分類）

検索は館内のみ。外部からアクセスは出来ない。

書誌データには、TV・ラジオ・映画に分類し、タイトル・ジャンル・第何稿かも記載。ディスカッションに参加した人もすべて入力。キーワード検索しやすいように工夫している。

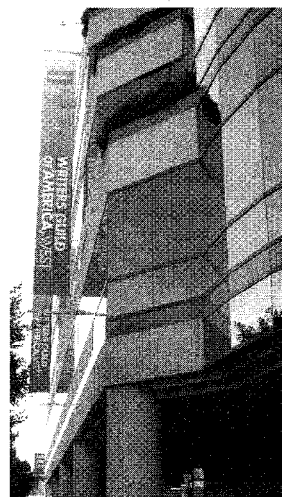
#### ■複写その他著作権について

本館では脚本台本について、複写は禁じている。それは執筆脚本家の許可があっても不可。理由は、脚本に関し、映画会社がい取り取る形式であるため、複写に関しても制限がある。資料館図書館では非

常に厳格に権利が守られる。しかしその反面、インターネット上で多数脚本が売られている現状だという。

<http://www.script-o-rama.com/tv/tvscript.shtml>

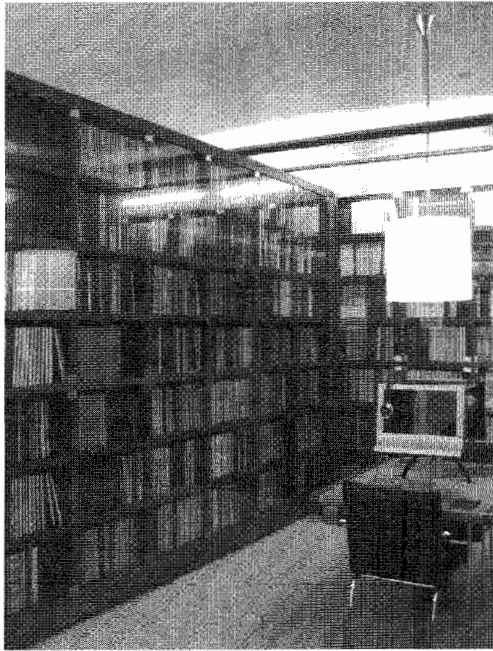
(台本のフリーダウンロードサイト)



(WAG図書館の外観)



(スペシャルコレクションより“赤狩り”対象の作家名リスト『Red Channel』)



(閲覧室。台本と共に映像を確認できる)

他の図書館同様に、台本のデジタル保存およびネットでの公開に対し、消極的（否定的）であった。取材当時の07/11/26がまさにWGAのストライキの真っ最中であり、争点が映像のダウンロードによる二次使用料である点も影響があるのではないかと。

取材途中、ストライキ中のWGA,Westの争議メンバー（WGA Communications Dept. Director, Mr.Neal Sacharow）からも話を伺うことが出来たが、Wga,East取材内容と重複するので省略する。

同じ作家協会組織の図書館である点、非常に共感でき有意義であった。しかし、その規模と組織力の大きさには驚かされる。

放送作家として活動するためには、WGA所属が義務づけられる米国のシステムこそ、大きな後ろ盾になっているのだろう。

(石橋映里)

The Writers Guild Foundation &  
Shavelson-Webb Library  
7000 West Third Street  
Los Angeles, CA 90048-4329

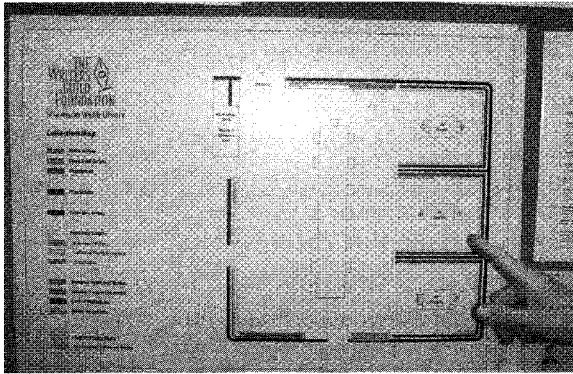
(SQLソフトによる書誌データ入力画面)



(毎日送られてくる寄贈台本。  
これをスタッフ3名で仕分け入力していく)



(Staff Onlyのスペシャルコレクション)



(台本書籍は色分けで分類保管)



(検索画面を解説するMs. Karen)

## 【ライタース・ギルド理事他に聞く】

ニューヨークのライタース・ギルド・イースト事務局で、モナ・マンガン理事に、進行中のライタース・ギルドのストライキの意味や問題点を中心に話を聞いた。

アメリカのライタース・ギルドはイーストとウエストのふたつの支部があり、イーストはニューヨークにウエストはロサンゼルスに本拠がある。脚本家の居住地で東西にわけているとのこと。

WGAがDVD化した場合の再配分料を0.6%に増額し、ウェブ上でのダウンロードに対する再配分料を新設するよう求めたのに対し、映画テレビプロデューサー連盟がこれを拒否したことから、WGAではストライキで対抗することになっ

た。

これまではDVDでの再配分は0.3%で、DVDのパッケージ制作者に支払われる比率より低く、ウェブ上の流通についてはゼロであった。

WGAでは1988年にも22週間にわたる大規模なストを行ったが、今回はそれを上回る規模である。

ストはテレビ番組制作に深刻な影響をあたえ、テレビ局は再放送でしのいだりした。脚本家のストには俳優組合もエールをおくり、毎年華やかに催されるゴールデン・グローブ賞なども極めて簡素なものにならざるをえなかった。(長期ストは08年2月12日終了した。インターネット上の二次使用料は、映画テレビプロデューサー連盟が最初の2年間は1作あたり最高1200ドルほどを支払い、3年目以降は配給収入の2%を支払うことで決着した)

ライタース・ギルドの会員は1万2千人で、映画の脚本を書く「売れっ子ライター」になると億単位の年収があるが、一方で年に数えるほどの仕事しかない(雇用されていない)脚本家も多く、平均年収は日本円にしておよそ600万円ほどであるという。

アメリカでは脚本家はプロジェクトごとにプロデューサーに「備われ」ることで、初めて脚本を書くことになる。従って備われていないというのは「失業状態」を意味する。

華やかな映画やテレビの世界とかかわる脚本家の平均年収が普通のサラリーマンより、むしろ低く、極めて不安定な生活であると知って、多くの



---

国民はWGAのストに好意的で、再放送でしのだテレビ局等に強く抗議したりするケースも少なかったようだ。

ただ一口に脚本家といっても、日本とは「立ち位置」に違いがある。アメリカの脚本家には自作についての著作権はなく、作品ごとにプロデューサーが脚本家を「傭い」ギャラを支払うという形になっている。

テレビの連続ドラマなどの場合、複数のライターが分担して書くことになるが、このグループに入ることが、そもそも難しい。

どこの業界にもある「裏取引」などもあるようだが、基本的に「売れる」「売れない」で評価の決まる競争原理が徹底している世界である。チャンスがあると同時に厳しい競争にさらされていることは、他の業界とかわりはない。

#### 映画のギャラは総予算の5%。

ところで脚本料だが、アメリカの劇場用映画の場合、総予算の5%が普通である。総予算20億円（アメリカでは一般的な予算）だと脚本料は1億円である。5億円規模の映画でも2500万円。日本でもこの規模の映画はよく作られているが、果たして2500万の脚本料が支払われているかどうか。多くて1000万、場合によっては500万を切るだろう。

主演俳優にはその倍以上のギャラが払われていることを考えると、日本での脚本家に対する待遇は低いといわざるを得ない。

佳作を数多く作っている監督が一様に「映画が成功するしないの6割から7割は脚本で決まる」というが、その言葉とは裏腹にギャラが低いのである。

これでは才能ある若い人が集まってこない。ライターズ・ギルドのライターなどと意見交換をしながら改めて思ったことだった。

#### プロデューサーの理屈

ロサンゼルスでは映画プロデューサーのT氏にお会いし話を聞いた。

「わたしは当然、プロデューサー側ですから、敢えていますが、例えば建築家にマイホームの設計図を書いてもらうとします。その家を転売するとき、建築家の設計図に対して家主はお金を払いますか。払わないでしょう。それと同じで、脚本家には制作時にギャラを払っているし、映画の上映、テレビの再放送の場合は二次使用料を払っている。だが、オンラインで売る場合は別です。家を転売したとき建築家に設計料を払わないのと同様に、脚本家にも払う必要はないのです」

このプロデューサー氏の意見をニューヨークのWGA理事のモナ・マンガン氏に投げたところ、「それはおかしい。アメリカでは州によって違いはありますが、例えば家のペインティングや内装については著作権が発生します」とのこと。

著作権（コピーライト）は、どういう形であれ「使われる度に支払われるもの」というのがライターズ・ギルドの主張であった。

コピーライトを重用視するアメリカでは、アイデアなどをめぐってコピーライトの争いがしばしば起きる。その防止策として、ライターズ・ギルドでは「アイデアなどの登録」システムをつくっている。

たとえば、あるアイデアを思いついたら、たとえ一枚の用紙でもいいから、アイデアを文章化して、ライターズ・ギルドに登録するのである。

訴訟社会アメリカでは、アイデアを盗まれたといったことで、絶えず裁判が繰り返されるが、そのためにも登録制度が必要になってきている。

いずれにしても、脚本家の地位向上が作品の質を高めるための必須のポイントである。そのためにも脚本アーカイブズの早期設立が望まれる。

（香取俊介）

Writers Guild of America, EAST

555 w 57th St, NY, NY 10019

## 【ニューヨーク市立図書館】

ビリーローズコレクション

(New York Public Library for the Performing Arts,)

取材先：Karen Nickeson (Assistant Curator, Billy Rose Theatre Collection)

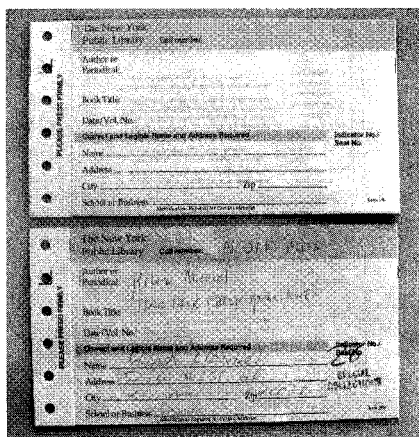
NY市立図書館パフォーミングアーツ内ビリーローズコレクションは1931年に設立され、多くの寄贈により世界的規模のコレクションが維持されている。

脚本に関しても、劇場からテレビ・映画まで多岐に渡る作品を多数所蔵している（正確な数は不明）。所蔵図書は館内でのみ閲覧可能でコピーは禁止。写真撮影も著作者の許可がない限り禁じられている。

コレクションはリンカーンセンタープラザにあり、入口でコートと荷物を預け、筆記具のみを持ちガラス張りの閲覧室へ入る。開架式の書棚には一般の芸術関連の図書が並び、コレクションとして、劇場のパンフや歴史的な資料などがガラスケースに入れられ、見学できる。

脚本などスペシャルコレクションは閉架式で、PCでの検索は可能だが、脚本台本は、手書きカードでリサーチを行う。

図書の閲覧カード（複写式）に氏名や住所、図書名と書誌No.を書き込み、カウンターに提出し、貸出窓口でナンバーの呼び出しを待つ。システム自体は日本の図書館と類似。



(図書閲覧申込みカード)

コレクションはDVDやフィルムなどのアーカイブする意味合いが強く、PC検索のほとんどが紙媒体ではなく映像であった。利用者も図書より映像利用の方が多い。

ロサンゼルスで多くの図書館や資料館を見学・取材してきたが、両者を比較すると、NYにおいては、脚本の収集に価値を置いていないように思える。

NY市立図書館は大学図書館とは異なり、未成年の学生見学者が多く、専門研究的な側面より、教育的側面を打ちだしたコレクションになっている。

(石橋映里)

The New York Public Library

for the Performing Arts

40 Lincoln Center Plaza New York,

New York 10023-7498

## 【SAMUEL FRENCH その他の書店】

サミュエル・フレンチズ演劇・映画書店

Samuel French's Theater & Film Bookshop

戯曲の出版で有名なサミュエル・フレンチ社は1830年開業。本部はロンドンにある。歴史は178年に及ぶ。チャールズ・ディケンズ(1812~1870)が生きていた時代にできたというのはまさに驚きである。

ニューヨーク、トロントにも店舗があり、ロサンゼルスには二店舗。ハリウッドからサンセット通りを西へ行ったところにある店は、間口は狭いが、店内に入ると棚が天井近くまであり、そこにぎっしり演劇映画関係の本が納められている。高価なハードカバーの立派な本がある一方、アーサー・ミラー、ユージン・オニール、テネシー・ウィリアムズなどの名作戯曲のペーパーバックの薄い廉価本などもずらりと揃っている。スターの自伝や写真集、映画グッズも置かれている。

もう一軒はユニバーサル・スタジオに近い、ヴェンチュラ・ブルヴァード沿いにあるお店。10坪ほどの店内は明るくて見やすい。こちらも映画と演劇の書籍が揃っているがサンセット通りの店

より少な目の印象。テレビ・ラジオなどの放送関係の本も置いてあるが数は少ない。映画や演劇を志望する人間向けの入門書や俳優の発声訓練用テープ、演劇や映画に關係する新没マークやタイトルなどがプリントされたTシャツ、マグカップなども置いてある。

注目はエージェントやキャスト・ディレクターの名鑑や、オーディション情報誌といった、演劇映画ビジネスに必要な資料が揃っていること。サミュエル・フレンチでは毎年、戯曲カタログが発行されている。400以上にも及ぶ作品が登場人物の数ごとに分けられてリストアップされている。

Samuel French, Inc.

7623 Sunset Blvd. - Dept.W

Hollywood, CA 90046

Tel: (323) 876-0570

Fax: (323) 876-6822

<http://www.samuel french.com/>

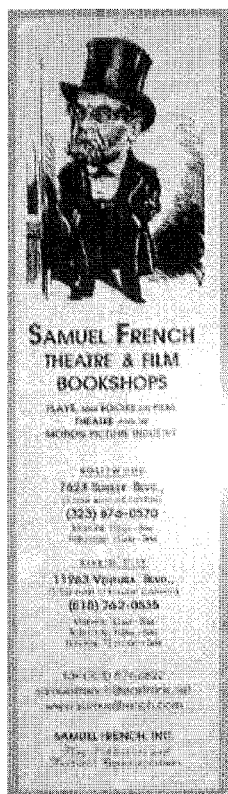
開店時間：10-6pm (月-金)、11-5pm (土)、

日曜日休み

## ハリウッド・ブック&ポスター・カンパニー

Hollywood Book and Poster Company

ハリウッド通り沿いの映画演劇専門店ラリー・エドマンズ書店(未見)のすぐ近くにある。映画のポスターやスチール写真を販売している。ホラーやSFの映画が比較的充実している。映画の新作や旧作のシナリオを販売している。



サミュエルフレンチの葉

Hollywood Book and Poster Company

6562 Hollywood Blvd.

Hollywood, CA 90028

Tel: (323) 465-8764

開店時間：11-6pm (月-木)、11-7pm (金土)、  
12-5pm (日)

## ハリウッド・ブック・シティ

Hollywood Book City

ハリウッド通りをはさんでラリー・エドマンズ書店の向かいにある一般書店。映画関係の書籍は、ラリー・エドマンズ書店よりも少ないが、それでも結構たくさんあり、意外な掘り出し物が見つかることもある。新刊も古本もあり、古本は値段の交渉も可能。

Hollywood Book City

6627 Hollywood Blvd.

Hollywood, CA 90028

Tel: (323) 466-2525

Fax: (323) 962-6742

<http://www.hollywoodbookcity.com/>

E-Mail: [hwdbookcity@earthlink.net](mailto:hwdbookcity@earthlink.net)

開店時間：10-6pm (月-土)、11-7pm (日)

## ラリー・エドマンズ書店

Larry Edmunds Bookshop

ハリウッド通り沿いで、エジプシャン・シアターから東に1分ほど歩いたところにある、映画・演劇専門の書店。全在庫2万冊の書籍をはじめ、50万枚の映画写真や6000枚ものポスターを扱っており、映画ファンや研究者は注目の書店。

(津川 泉)

Larry Edmunds Bookshop

6644 Hollywood Blvd.

Hollywood, CA 90028

Tel: (323) 463-3273

Fax: (323) 463-4245

<http://www.larryedmunds.com/>

edmunds@artnet.net

開店時間：10-6pm (月-土)、日曜日休み

## 【生きていたノーマン・コーウィン】

### ——ARAを訪ねて——

アメリカ・ラジオ・アーカイブズは、1984年に設立されたサウザンドオークス財団図書館の誇る世界最大規模のラジオ放送コレクションのひとつ。ここには何千もの台本・脚本、録音、写真、ラジオをはじめとする放送の歴史を反映する資料が収められている。

場所はロスアンゼルスから車でおよそ1時間。カリフォルニア州サウザンドオークスに位置している。

当初、訪問は予定していなかったが、UCLA取材の折、検索する作家名としてノーマン・コーウインの名前を津川が出したところそれなら、彼のコレクションがARAに収蔵されていると聞かされ、コーディネーターの方が無理をして訪問を調整してくれたのであった。

コーウインコレクションにはスクラップブック、ラジオ・テレビスクリプト、映画、録音、録音、写真、ビジネスの記録として契約書や新聞記事の切り抜きなどが収められている。

アメリカのラジオを機械から芸術にまで引きあげた鬼才ノーマン・コーウインについては、日本ではラジオ・ドラマの理論書で紹介され、アメリカのラジオ・ドラマを論ずる場合、必ず引合いに出される、いわば、ラジオの神様のような存在である。

1910年ボストン生れ、今年九十八歳になるがご健在である。十七歳で高校を出ると、新聞記者になり、映画批評スポーツ記事その他の雑文を書いた。1930年頃から、アメリカの放送文芸が漸く花を開きはじめ、二十二歳の頃から、自分の仕事の余暇に、ラジオ脚本や小説のアイデアを考え、その内にラジオニュースの解説を引受けるようになった。

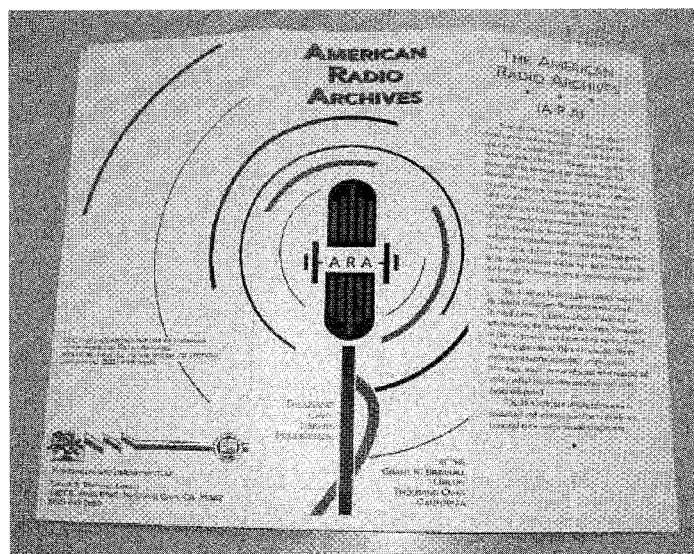
1936年にアメリカの四大ネットワー

クの一つコロンビア放送会社が、

- 1、オリジナル・ラジオ・ドラマ作家と作品の発見。
- 2、ラジオの独創性に基く表現技法の再検討。
- 3、同じく演技、演出技術の研究。
- 4、ラジオのためのオリジナル作曲と音響効果の研究。
- 5、スタジオ、マイクロホンなど機械と技術をメジウムとする創作部門の研究等を主なる目的綱領として創設した「コロンビア・ワーク・ショップ」が、コーウインをはじめとするラジオ脚本家を輩出した背景にあると思われる。

そして1938年、遂にコロンビア放送に入り、その頃から、ラジオ・ドラマ作家としての活躍がはじまった。1945年、コロネット誌上で、彼は、原爆発見者と肩を並べ、アメリカ国民が選ぶ「現代アメリカの偉人」の一人に数えられている

代表作「この虫十万弗」（日本では昭和21年8月8日大阪中央放送局でOA）は、1940年3月7日、コロンビア実験劇場で放送された。この作品を聴いた、批評家達はラジオがはじめて芸術の域に達したと絶賛し、サンドバーグのような老詩人も感激して、生れてはじめてファンレターを、コーウインに送っている。



ARAのパムフレット



---

芋虫がハーモニカの曲にあわせて路傍で踊っているというシーンからはじまり、この芋虫の人气が全国ひろがり、十万弗でいよいよ手離すにいたる過程が、息もつかせぬ早いテンポで、一言の無駄もなく筋を運んでいる。最後にこの芋虫が蝶になって窓から飛び去ってゆく結末も哀愁がある。

実はこの作品の原題が分からず、検索できないかと諦めかけたところ、担当の方が「芋虫(caterpillar)」で検索したところ原題「MY CLIENT CURLY」が現れた。書誌情報にこうした重要キーワードを入れることの大切さを思い知らされた。目の前に現れた原台本には彼の手書きの書き込みがあり、ラストシーンに詳細な台詞の改訂が行われたことがわかり、巨匠の作家魂に触れ胸が震えた。私にとっては今回の旅のハイライトとなった記念すべき一瞬であった。

この作品は後に映画化され「この虫百万弗」の題名で日本でも封切られたが、映画ではラジオ程成功しなかった。

すでに成長を続けている現在の空間は、コレクションを所有している太平洋パイオニアブロードキャスターの二倍近くになっている。その結果、4万4000平方フィートのアーカイバルスペースとともに、すばらしいコレクションを展示する博物館エリアの計画が進行中である。

(津川泉)

The American Radio Archives is located at the Grant R. Brimhall Library in  
Thousand Oaks, California:

1401 E. Janss Road  
Thousand Oaks, CA 91362

Jeanette Berard, Special Collections Librarian

E-Mail: Specoll@mx.tol.lib.ca.us

Tel: (805) 449-2660, ext. 228

Fax: (805) 449-2675

Tuesday: 1-5 p.m.

Wednesday: 1-5 p.m.

Thursday: 5-9 p.m.

(Contact Ms. Berard if you need to visit the reading room outside these hours)

## 【UTB】

生島ヒロシ、内田忠夫の巣立った放送局——UTBは、アメリカ本土における初の日本語TV放送局として、1971年にロサンゼルスで開局。08年の今年で37年を迎える。番組やイベントを通じて、アメリカ民衆に日本文化を広く紹介し、在留邦人に必要と思われる情報を伝えることを使命として放送を行っている。

主な活動としては日本のTV番組（フジサンケイグループ以外）の放送の他、自社番組の制作、CMの制作、作文コンテストなど。作文コンテストではTBS「さとうきび畑の唄」の日本語、英文の感想文を募集。琉球放送の協力で受賞者を沖縄に招いている。

若手クリエイター育成の為にイベントなども手掛けている。映画を学ぶ学生たちのコンテスト「ピクチャー・バトル」は07年は企画、アイデアのコンペを行った。審査員は井筒和幸監督。

37年の歴史はあるものの製本した台本を使った番組はほとんど無く、収蔵管理は行われていない。

UTBの番組が放送されているチャンネル18 (KSCI-TV) は南カリフォルニアの総人口1600万人をカバーし、日本人、日系人、その他のアジア人、アメリカ人等を含め300万人以上の視聴者に親しまれている。

日本の渋谷には提携の映像クリエイター養成専門学校「UTBアカデミー」がある。

(津川 泉)

会社名：United Television Broadcasting Systems, Inc.

所在地：6779 Hawthorn Ave., Hollywood, CA 90028,  
USA

放送開始日：1971年9月19日

---

[米国視察取材先]

(LA)

**Art Library Special Collections, Charles E.Young  
Research Library (UCLA)**

Julie L.Graham  
Special Collections Librarian

**University of Southern California Doheny Memorial  
Library**

Steve Hanson  
Director/Cinema-Television Library&Archives of  
Performing Arts

**The Writers Guild of Foundation & Archives of  
Performing Arts**

Karen Pedersen  
Library Director

**Thousand Oaks Library-Grant R. Brimhall Library  
(ARA)**

Jeanette Berard  
special Collections Librarian

**WGA screenwriter/Author**

Tom Bleecker  
The Writers Guild of America

**Web Film School.com**

Dov S-S Simens  
Founder  
Teiko Y.Simens  
Development Executive

**Margaret Herrick Library**

Linda Harris Mehr  
Director  
Gregory Walsh  
Librarian/Scripts/Festivals+Awards

**AFI/Louis B.Mayer Library**

Caroline Sisneros  
Librarian

**United Television Broadcasting Systems**

Koji Agari  
President  
Ikuya Fuchigami  
Assistant the President

(NY)

**Writers Guild of America, East**

Mona Mangan  
Executive Director

**The New York Public Library**

Karen Nickeson  
Assistant Curator, Billy Rose Theatre Collection

**NHK Enterprises America, Inc**

Minoru Fuse  
President

**MT&R**

Kathryn Felde  
Manager, Visitor Service (※メールコンタクトのみ)

**New York University**

Daisuke Nakamura (※メールコンタクトのみ)

グランドデザイン部 香取俊介  
杉原秀一  
研究調査部 津川 泉  
石橋映里  
協力スタッフ 鈴木晴香

# 日本脚本アーカイブズの礎石作り 未来を見据えて

## 収集・保存部

### 第一次の保存・管理システム

平成17(2006)年度より開始された日本脚本アーカイブズ運動は、平成19年度の第三期を迎え、多くの放送作家諸先生また御遺族の御協力を頂き、準備室は、御寄贈の脚本・台本のダンボール箱であふれかえった。その数はおよそ二万二千冊と思われる。



しかし、二万二千冊に及ぶ脚本・台本であっても搬入された状態のままでは単なる冊子の山である。研究素材、展示素材として資料的価値への転換を図るために初歩的な保存・管理システムを試作的に開発、運用してみた。システムの第一義は、必要時に、求められた脚本・台本を手早く簡便に提供出来ることにある。そのための保存管理システムでなければならない。将来的に展開されるであろうデジタルアーカイブズの基盤整備、社会還元事業への対応は、この第一次保存・管理システムが橋渡しとして有効性を発揮することと思っている。収集・保存部はこれをダンボール箱番号制(仮称)と名付けている。ダンボール箱を収納のボックスとしたのは、固定した収納場

所が定まらず、また将来的なデジタル基盤整備も検討中であり、移動を含めたさまざまな変化に簡便に応用対処が可能であると思えるからである。



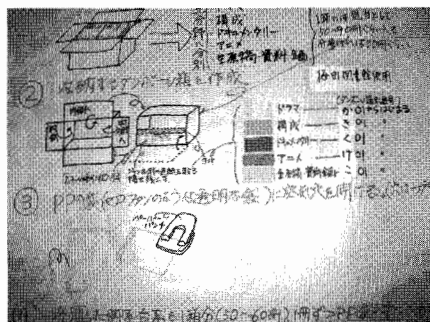
### ダンボール箱番号制について

#### ①収集脚本・台本の分野別法

寄贈収集された脚本・台本は、まず“あ・い・う・え・お(五十音)”の記号を冠した**5つの色**で**5分野**に仕分けられる。

あ・ドラマ	……黄色
い・構成	……水色
う・ドキュメント	……緑色
え・アニメ	……赤色
お・資料(生原稿も含む)	……ピンク色

あ行 か行 さ行……は収納場所の違いを示す。



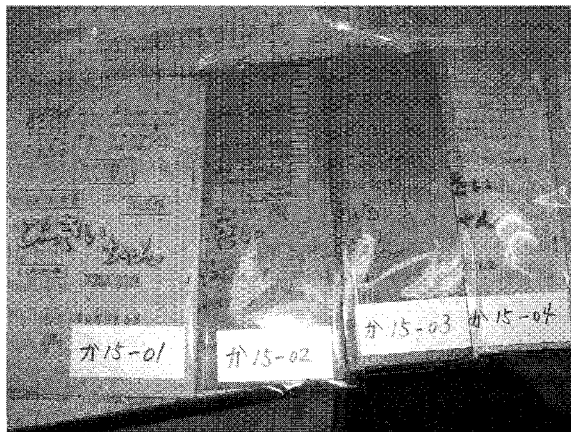
分野別のパターン

## ②ダンボール箱の管理番号

分野別された脚本・台本は分野ごとに集められ、その分野ごとにダンボール箱に収納されることになる。その際ダンボール箱には、「日本脚本アーカイブズ」の名称と分野別記号と箱番号、収納冊数を示した数字を記入したラベルを添付されることになる。これが管理記号・番号となってパソコンの書誌情報に加えられ集中管理されることとなる。

例) か15 01へ79……………ドラマ分野  
15番目の箱 脚本・台本79冊収納。  
「か」行は梅田図書館

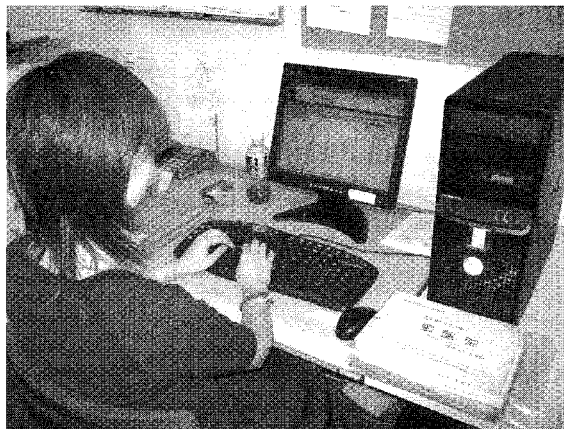
分野別された脚本・台本は一冊ごとにOPP袋 (OPP袋=軸延伸ポリプロピレンの剛性があり透明度が高い) に収納され、その一袋ごとに管理記号と冊番号を書き入れたラベルを貼りつけ、一冊ごとの所在確認番号(所番地)にしていく。当然この番号もパソコンの書誌情報に付けくわえられる。



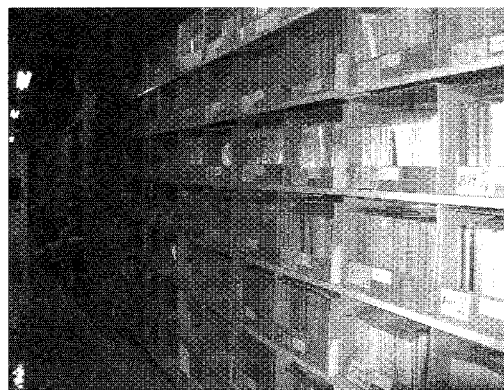
OPP袋に入った台本

## ③書誌情報として記入

管理記号・番号を書き入れられたダンボール箱と脚本・台本は次に書誌情報としてパソコンに入力、集中管理されることになる。ここでの検索によって脚本・台本が何分野であり何番目のダンボール箱の何番目に入っているかが即座に判明する。また、ダンボール箱の方にもインデックス代わりとして収納脚本・台本のリスト表が添付され探す時の手助けとなる。



④収集班は、この保存管理のシステムにより、平成19年4月から10月まで、試みに運用。五千冊を越える脚本・台本を支援を頂いている足立区の中央図書館閉架書架に収納した。つまり五千冊の脚本・台本が利用価値をとまなう第一次資料となったのである。作業は、次の仮保存管理場所である梅島図書館への収納を目指し、作業続行中である。



## ダンボール箱番号制の有効性

中央図書館閉架書架への収納作業を終了した収集保存班は、三つの脚本展に協力、早速このシステムについての運用を試す結果となった。この報告書の冒頭に成功裡に終えた脚本展の報道があったが、その裏で支えたのが、この保存管理のシステムであり、前述したように、書誌情報をもとに必要に応じて、必要な脚本・台本を保存管理箱から速やかに取り出すことが出来たからである。この書誌情報には、脚本・台本の傷み具合から、作家のメモ、その情報などが、記入されており、諸々対応出来るようになっている。

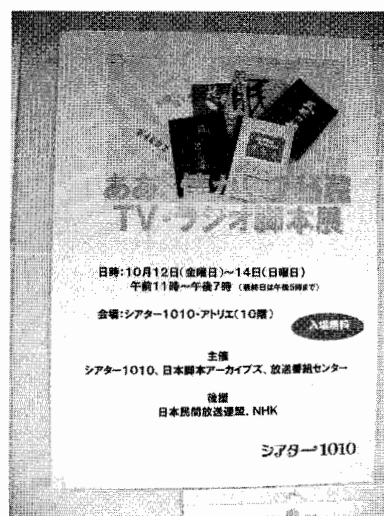
また、第一次資料として、同じ話数の脚本・台本を何冊もそのまま取捨選択することなく収納している。収集保存班には、それらを選別するアーキビストとしての能力と権限を有してなく、将来のデジタル保存への橋渡しと解釈する立場と理解しているからである。

## 脚本展からの報告

### ①足立区生涯学習センター 学びピア会場



### ②足立区シアター1010会場



### ③横浜放送ライブラリー会場



収集保存班は、成功裡に終わったこれら脚本・台本展からこれまで知ることが出来なかった一般の方々の脚本・台本に対する認識及び脚本展に対する関心度などを知ることが出来た。これらのことは今後にもに活用したい。

### ○3会場入場者数

- 1010会場 500名
- 学びピア会場 200名
- 横浜放送ライブラリー 4000名

(放送ライブラリーは放送番組の資料館的特色があり、来場者は必ずしもその為だけの来場者とは

限らない)

○年齢別入場者数(アンケートに応じた人数のみ)

- 15歳以下 5名
- 16歳～24歳 3名
- 25歳～34歳 21名
- 35歳～44歳 24名
- 45歳～54歳 28名
- 55歳～64歳 49名
- 65歳以上 44名

計174名

○脚本展をどのようにして知りましたか

- 知人から聞いて…… 7名
- 新聞(朝日)…… 30名
- 「笑いのハイスクールで知った」…… 6名
- チラシを見て…… 2名
- 通りがかり…… 12名
- ポスターを見て…… 1名
- タウン誌を見て…… 1名
- 足立区広報…… 5名
- 図書館にて…… 4名

○来場者の感想

- 展示会そのものについては来場者全員が良いと反応。
- とても懐かしかった。
- 世代ごとの懐かしいものが沢山あった。
- 珍しい脚本に感動した。
- 「ガンダム」の絵が良かった。
- 脚本家の苦勞がよく分かりました。
- 「あしたのジョー」と「天才バカボン」が良かった。
- ドラマのイラストが素晴らしかった。
- 古い脚本が見られて良かった。
- 時系列で分かりやすかった。
- 「アトム」がよかった。
- アニメの絵コンテが見られて良かった。
- ローマ法王パウロ2世の脚本があったのでびっ

くりした。

- 子供と一緒に見られて良かった。
- ウルトラセブンの台本が興味を引いた。
- 少しタイムスリップした感覚がした。
- 桃太郎の書き分けが特に面白い。

○来場者の意見(要望)

- 宝物を直接さわってみたかった。
- 音の説明もほしかった。
- その当時の映像が見られると良かった。
- 写真も見たかった。
- 展示スペースが狭いので広い場所で紹介してほしい。
- ドラマや映画で使用した小物があると良かった。
- 飾り付けが地味すぎる。
- ポスターなどがあれば良い。

○脚本アーカイブズ・脚本展に期待すること

- 次回もどこかでやって下さい。
- 全国展開して多くの人々に見てもらって下さい。
- 風俗資料館のような形にしてください。
- 今後も若い人たちに伝えてほしいものが沢山ありました。
- 文化を残す使命があると思うので大切です。
- 読める(脚本・台本)があると良いですね。
- 保存と公開の両方をやってほしい。
- もっと多くの展示を期待する。

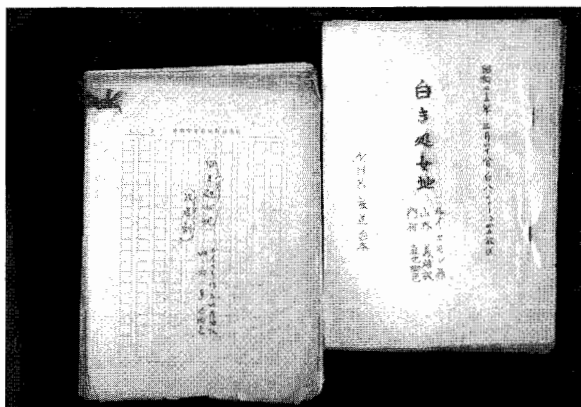
## ラジオ・テレビ草創期の作品群 そしてさまざまな作家たち

今期、収集された脚本・台本の特色は、テレビ草創期に活躍された作家の方々作品群が大部分を占めている点にある。それらの作品群の中には、まさに思いもかけない草創期ならではの貴重な作品もあり、作家の紹介を兼ねながらそれらの作品を振り返ってみたい。

## 故・内村直也氏の貴重な脚本と劣化問題

日本放送作家協会の初代理事長、故・内村直也氏の脚本や資料が大箱で5箱到着した。

昨年秋に実験的に行った脚本展に、息子さんの稗氏が知人と見に来られ、「父の脚本があるが、どうしたものか悩んでいる……」と言われたので、香取委員が日本脚本アーカイブズの準備室に案内し、私たちが脚本・台本をどのように扱っているのか見て頂いた。その結果寄贈して下さいました。茶色に酸化して、ポロポロと脚本の縁が崩れる状態のものが相当数あるが、全部で1117冊、戦前から書かれているが、今回届いた中の物は全て戦後の物で、昭和22（1947）年の「白き処女地」が一番古かった。これはガリ版印刷された脚本と、その生原稿があった。



故・内村氏と言えば、戦後の演劇復興に尽力した実業家で劇作家の菅原卓氏の弟であるが、氏もまた戦後、新劇界の重鎮だった。西洋戯曲の翻訳や放送劇の方法論を書く一方で、少女小説も書かれた。氏の書かれたNHKのラジオ劇「えり子とともに」は、氏が自ら作詞した「雪の降る町を」を、えり子役の阿里道子さんが甘い優しい声で歌い、その歌声と共に、大変な人気ドラマとなった（昭和23年から昭和26年までの2年間半も続いた）。全127冊の脚本が揃っていた。ちなみに阿里さんはこの後、「君の名は」の真知子役を演じている。故・内村さんの作

品は大変多く出版もされているが、放送時に台本として使われた脚本は別の意味で貴重だと思う。

それにしても劣化した脚本の保存には、来年度他の作家の本も含め、本格的な研究に乗り出すが、脚本・台本をデジタル化する一方で保存のためにアルカリ紙の箱に入れるのか、博物館で最近多く使われているプラスチック製の箱にするのか、もっと他の方法があるのか課題は山積みだ。

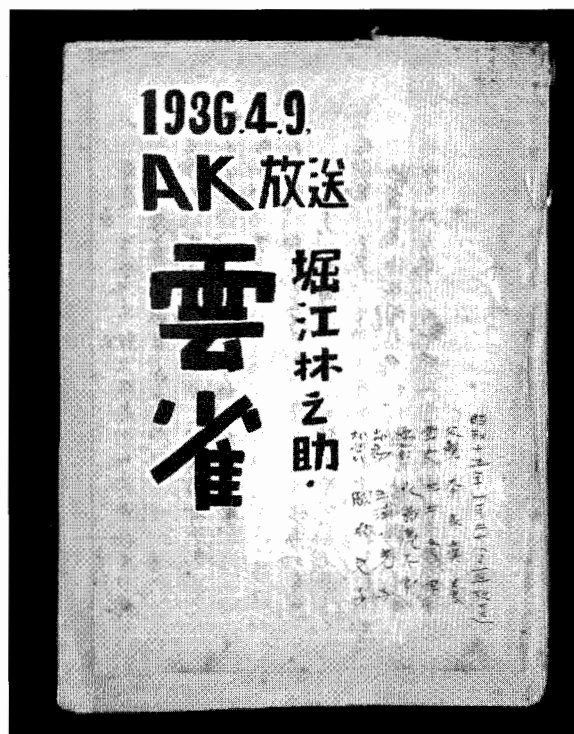
## 戦前の脚本・開局5ヶ月目の脚本・手紙

内村直也氏の脚本に混じって、数冊の貴重なラジオドラマ脚本が発見された。

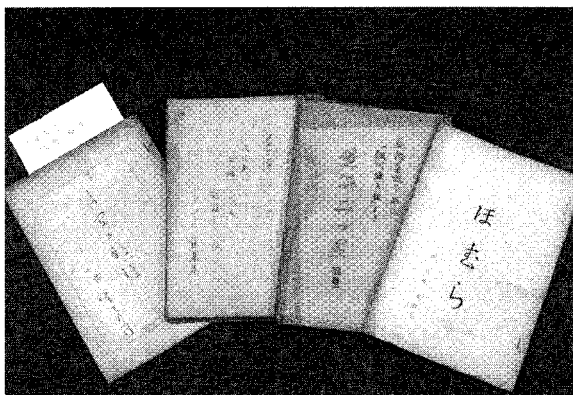
昭和11（1936）年4月9日、AK放送（愛宕山の東京放送局・NHK）で放送されたラジオドラマ、堀江林之助作・「雲雀」の脚本である。

大正14年に日本の放送は始まり、まだ11年しか経っていなかった。「2・26事件」や「前畑ガンバレ」と絶叫したベルリン五輪が行われた年である。

万年筆書きの脚本はペラ67枚で、昭和15年

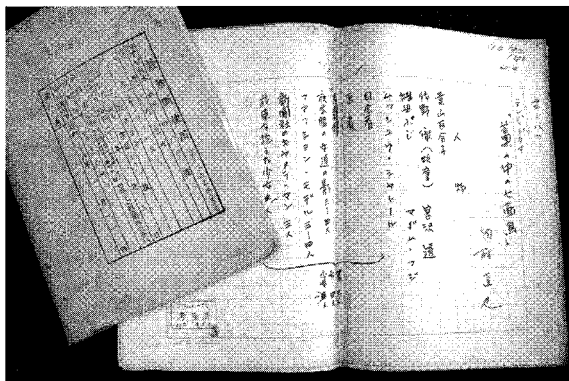


に再放送もされている。数人の出演者の中に杉村春子さんや左ト全さんの名があった。



(資料)

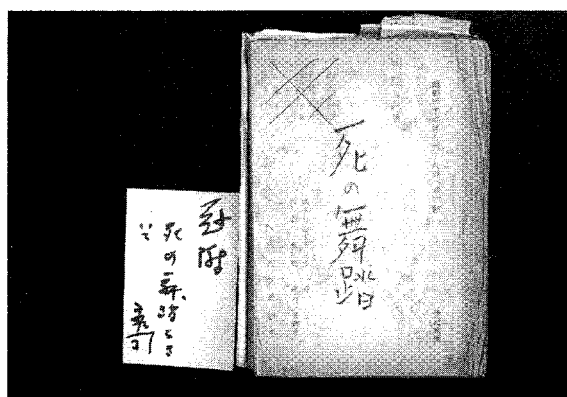
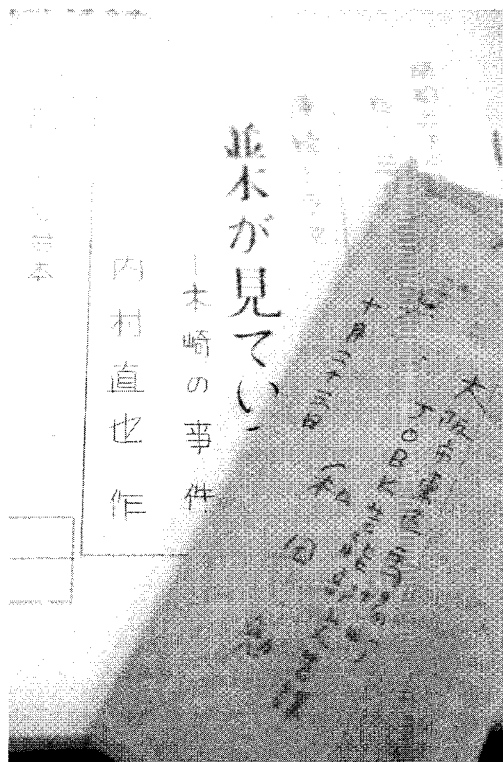
日本テレビ放送網株式会社は昭和28(1953)年8月開局である。それからわずか5か月後の1954年1月26日に放送された「藁の中の七面鳥」400字詰め41枚の生原稿には表紙の左端にJOAX-TV考査済みの朱印が押されている。さらに最終ページの裏には大きく青い判が押してあり、「禁無断使用」とある。その他、詳しく作者名や題名、原稿枚数、創作年月日も記されている。



昭和32年、大阪NHKのテレビ台本「並木が見ている」執筆後に演出家・和田勉氏から丁寧な手紙が届いている。

同年9月19日、NHK放送のスウェーデンのヨハン・アウグスト・ストリンドベリー作「死の舞踏」を、内村直也氏が訳し、ラジオ脚色をしている。放送を聴いた北条秀司氏から来たはがき。

(熊谷知津)



### 故・茂木草介氏の脚本の寄贈を受けて

平成19年7月、関西方面はこの年一番の暑さと言われた日に、東京から兵庫県西宮に、故・茂木草介氏の脚本に会いに行った。京都在住の皿倉のぼる委員も同行してくれた。茂木氏の長男・純氏の住む高台のマンションの窓からは、関空からの高速道が見え、普段なら美しい景色と言われる大阪湾がこの日はあまりの熱気でボーッとかすんでいる状態だった。

脚本は大きな段ボールにびっしり入って、クロ



ークの奥に何箱も置かれていた。茂木氏が亡くなられてすでに27年、いつの時期にか亡き未亡人が積めたものと思えるが、段ボールはすでに劣化しており、このまま東京に送れる状態ではないと判断し、私たちは宅急便屋の段ボールに積みかえることにした。箱の中には1箱ごとに樟脳が10袋位ずつ入れてあり、もう成分は飛んで袋だけになっていたが、お陰で脚本は虫にも食われず保存されていたようだ。とてもありがたいと思った。大河ドラマ「太閤記」や銀河テレビ小説「うりずんの詩」、そして「横堀川」などがぞくぞくと出て来て段ボールは結局11箱になった。961冊の脚本と、生原稿・資料である。

純氏は父の膨大な作品の中から好きなものとして、「けったいな人々」「ビルの谷間」(ラジオ)「女」(ラジオ)「執行前30分」(ラジオ)の4点をあげてくれた。純氏が子供のころ学校から帰ってくると、夜中に仕事をする父はいつも寝ていたと言う。お酒の飲めない父は、釣りとマージャンが好きで、仕事が終わると役者さんたちとよくジャン卓を囲んでいた。釣りは釣堀で「釣られ会」という例回を行ってトロフィーを出していたが、一度だけ琵琶湖でした大会に連れて行ってもらったことがある。純氏は長いことNHKの職員としてドラマ制作現場にいたが、父の作品「女たちの家」で初演出をしている。やがてチーフ演出家として、銀河テレビ小説「ごらく日記」を20回中、4～5回演出した。これが茂木氏の遺作となった。日本脚本アーカイブズが18年度に行った遺族へのアンケート調査表は届いていたが返事は出していなかった。「いつか仕事でも辞めた時、じっくり読む時があるかも知れないと思っていたが、それもどうかと思って、今回思い切って寄贈することにしたんですよ」。純氏はかたわらの奥様と一気にわき出て来た思い出の断片をつなぎ合わせていた。父親の貴重な台本を手離すことはとても寂しいことだと思うが、何かに役立てられればとお二人揃って脚本の新しい旅立ちを見送ってくれた。(熊谷知津)

## テレビ草創期のドラマ作家・茂木草介

茂木草介氏はテレビの草創期に活躍した脚本家で、NHKの大河ドラマ『太閤記』や『樅の木は残った』など数々のテレビドラマ脚本や、ラジオドラマ、映画、舞台の脚本を執筆した。人間追求の鋭さと、構成の巧みさ、会話の運びのうまさで定評があった。

最盛期には月に36本も執筆するという「量産作家」であったが、一方で芸術祭奨励賞や同文部大臣賞、第一回国際テレビ祭の最高シナリオ賞など数々の賞を受けている。資料調べも念入りに行い、例えば連続ドラマ『みだれ髪』では150冊もの参考図書にすべて目を通したという。

同志社大学を中退したあと、美容院の経営や教師、デザイナーなどさまざまな職業を遍歴したが、そんな体験も作品の豊かな土壌になっているのだろう。氏は『サンデー毎日』の大衆文芸賞をとり大衆小説も書いた。

天王寺商業2年のとき校友会誌に書いた『二つの王国』という小説が、氏の「原点」であるという。戦争の果てに人間がひとりもいなくなるという内容で、人間の「おろかさ」と「はかなさ」さらに「それ故の愛おしさ」が基調音となっており、これはその後の茂木氏の作品に一貫して流れているものである。

氏のドラマには語り(ナレーション)が多い。語りの多用について、例えばライトコメディのような形で進行するドラマに「時々クサビを打ち込む」意味があるとして、氏はこう語る。「語りの中に近代的な反省のようなものが含まれている。(中略)知的なお客様にはむしろ語りのほうを結論として受けとっていただく。そうでなくおもしろいものが好きな方は、ドラマを見流してもらおう」(「放送文化」草柳大蔵との対談・1968年6月号)

氏が精魂こめて書いたドラマの大半は、残念ながら映像や音声として現在残っていない。それだけに氏の脚本は貴重であり、テレビ草創期のドラ

マを語るうえで欠かせない重要資料でもある。

(香取俊介)

## 故・盛善吉氏の脚本

「決して有名な作家ではないけれど本人が精一杯頑張って仕事をしてきたものなので、きちんと保存できるのならば保存してあげたいと思って……」とある日とても遠慮がちに故・盛善吉氏の奥様よりお電話があった。

こういう言葉を聞くと長いこと同じようにTV、ラジオでコツコツと仕事をして来たものにとっては何とも胸にジーンと来るものがあり、「奥様が現在大切に保存している脚本をアーカイブズ準備室ではそっくり寄贈して頂き、保存、研究、そしていずれ有効に利用させて頂きたい」と申し出た。ゆっくりと御自分で整理して1箱ずつまとまったら送るということになり、現在脚本21冊と生原稿や資料の1箱のみ送られて来ている。

盛氏はNHKの教育ものをはじめ、明治維新にまつわる様々な事件や人をとらえた作品をドラマ化していた「風雪」(NHK TV)を何本も書いている。また、「学徒兵霊歌」(NHKラジオ)、「秩父自由峠」(戯曲)、そして映画「世界の人へ～朝鮮人被爆者の記録～」では、ライブチツピ、タシケント、リール、オデッセ映画祭の入賞をしている。それらの作品からは常に強いメッセージが視聴者に送られていた。

若い頃、六本木の日本放送作家協会の事務所で何度かお目にかかったことがあるが、皆が声高に議論する中、目元に笑みを浮かべ、至って静かに人の話を聞いている姿が思い出される。いずれ多くの台本・脚本が送られてくる日を心待ちにしている。

(熊谷知津)

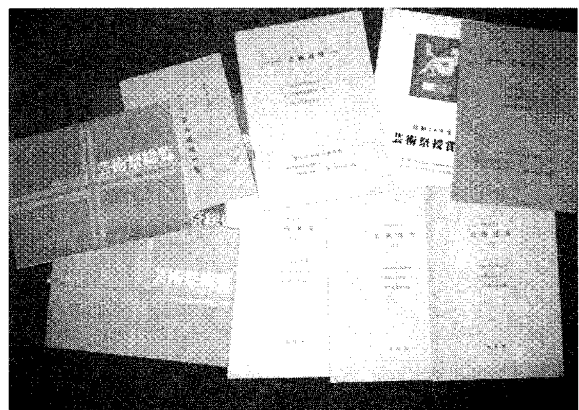
## 協会を立ち上げたひとり

江上照彦 平成2(1990)年逝去。

『……敗戦のために……赤貧洗うが如き境涯に陥った僕は、しゃにむに書くよりほかはなかった。

ひよんなきっかけからテレビドラマを書き出し、テレビに関する評論などに手をのばしていると……それが業績となって思いがけなくも教職にありついた。だから、テレビにはおかげを蒙ったわけだが、一回こっきりで消えるテレビ作品の運命に厭気がさして、ふたたび活字の世界へ舞い戻って……』

これは江上氏のエッセー「風見鶏東南西北」の中の一節だが、ここに書かれてある「……一回こっきり……」とは、ビデオテープが登場する以前の時代のことで“ビデオがないからシナリオが失われると番組そのものが存在しなくなってしまう”時代であった。当時の誕生間もないテレビに携わった多くの放送作家たちは、江上氏と同様の無念さを味わったことであろう。日本脚本アーカイブズを起ち上げた大きな要因のひとつがここにあったことは今更言うまでもない。このテレビに虚しさを感じて(夫人の言)活字の世界に転身した江上氏は、昭和34(1959)年の放送作家協会設立メンバーの一人で後に常務理事も務められた。活字に転身後は、芸術祭審査委員、芸術選奨審査委員として、テレビとラジオに関連していた。



大学教授として教壇に立つかわら多数の著作を世に送りだした。「会議は踊る」「テレビと文化」「悪名の論理」「河合宗治郎伝」「風見鶏の歌」「(訳書) ガリバー旅行記」等々。放送作家として活躍された短い時代は「……一回こっきり……」の無念の心情に抗するように作品すべてハードカバーの合本に装丁されていた。昭和32(1957)

7)年から昭和37(1961)年までの作品で「嫁」「電源開発」「結婚不案内」「はじめてのダンスパーティ」「渦潮」「結婚」「判決」等々の文字が読みとれる。

(鈴木良武)



## フェラーリに乗った放送作家

保富康午さんとは私が駆け出しの頃に会った大人(たいじん)、躯が大きい事もさる事ながら、とても度量のある人物だった。歌の番組で一緒に過ごしたが、放送作家としては第一世代の人で、永六輔、青島幸男、前田武彦の軽佻浮薄と呼ばれた三羽鳥と活躍したが、保富さんのペンの中、守備範囲は広くアニメ番組の作家、アニメソングの作詞などは先駆者、放送作家と言う枠をはめられるのが好きではなかった。「俺は詩人だよ」と時々自分の確認か、周囲への確認か何度か聞いた言葉だ。車に関しても雑誌に車のコラムを書いていた。「びっくりしたのは、当時フェラーリと言う車はマニアくらいしか知らない頃、保富さんは二台目の車、中古のフェラーリを買ったが、その時のセリフ「技術者(メカニック)付きで買ったんだ」つまりフェラーリと言う車はとても繊細でメンテナンスが大変、だからフェラーリを熟知している技術者がいたから購入したと言う。月に一度その工場へチェックしに行くと、遠くから車の音を聴いてチェックするしないの合図を出してくれるのだそうだ。ミュージック・フェアと一緒に書いていたが美空ひばりは保富さんの担当、ある時保富さんが急病になり、「台本は誰が？」となったが

ひばりのお母さんの許可が出て私が代りに書いたが、秘話なのか裏話なのか懐かしい思い出の一つ、この所話題なのか問題なのか森進一の「おふくろさん」の歌にセリフを書いたのは保富康午さん、何年も前に舞台用に書いたのが今頃になって……である。残念!保富さんの名訳詩「大きな古時計」今はもう動かない…保富さんの巨体、パイプの煙、いつも打ち合せの時は弁当を2つペロリ、それもこれも、もう動かない時が流れた。

(奥山侑伸)

## ウルトラの星になったひと

佐々木守 平成18(2006)年に逝去。

漫画原作から作詞、映画の脚本、ラジオドラマ、テレビドラマ、アニメ脚本、特撮脚本、評論とその守備範囲の広さと執筆量の多さには圧倒的なパワーを感じさせる。大学時代に学生運動に没頭、左翼的スタンスを信条とするようになった。それが佐々木山系の地中を流れる水脈となり時には地上に噴出し、時には伏流水となって地下深く流れいく。放送作家として世に出た後、大島 渚監督が設立した独立プロ「創造社」の映画作りに参加。大島監督の反権力の姿勢に共鳴。そしてこの権力が生み出す人間の疎外感や屈辱感をコアとした数々の映画の脚本を執筆。

特に「夏の妹」は復帰前の沖縄を舞台にしたオールロケの作品で、佐々木 守にとって沖縄人とアイヌ民族は、日本国(明治政府)に迫害された民族ということで大きなモチーフとなっていた。

今や伝説的なドラマとして語り継がれている「お荷物小荷物」では、沖縄生まれのお手伝いさんが封建的な男尊女卑の男ばかりの7人家庭に入りこみひっかきまわす“沖縄(ウチナンチュ)の本土(ヤマト)への復讐”という物語だった。そして続編として作られたのが「お荷物小荷物カムイへ編」で沖縄へ帰ったはずのお手伝いさんが、アイヌ民族の身なりで戻って来るという話である。実はお手伝いさんは、アイヌの首長の娘で7人家族の息子に連れ去られた子熊を奪い返しにや



って来たのだった。

実相寺監督とコンビのウルトラマンも伝説的な作品で、地球人の一方的な都合で怪獣を倒すことに異を唱える監督と異端と弱者に視線を投げかける脚本家の息があったからであろう。

大学時代児童文学研究部に所属していたからなのであろうか漫画原作にアニメ脚本、主題歌作り、と児童向けの作品を多数手がけていた。佐々木流の見方でいくと「子供」とは戦後日本に根付いたひよわな民主主義なのかもしれない。

「大人は子供の大切な何かを失ったなれの果て」とは佐々木 守氏の言葉だが、このなれの果ての

力で子供たちがピンチになった時、守り戦うのが戦後のヒーローなのだと、ウルトラマンを執筆し、アニメを執筆し、漫画原作を執筆したのだろう。

逝去後、ご遺族の直子夫人の御厚意により、執筆脚本・台本のすべてを日本脚本アーカイブズ準備室に御寄贈いただいた。資料も含めて大きいダンボール35箱分である。この分量に圧倒され、さらに分別をはじめてそのジャンルの多様さに圧倒されたのであった。  
(鈴木良武)

収集・保存部 部長 熊谷知津

鈴木良武  
奥山侑伸  
香取俊介  
福井貞則

協力スタッフ 石川大和  
福田秀雄  
柏崎 勝  
熊谷章一

### 〔(参考として) 図書館の分類法〕

足立区立中央図書館は現在29万冊が収蔵されている。ところでこれらの膨大な本の管理・補修はどうなっているのだろうか。中央図書館の資料係係長の川村氏に伺う。

以前は館員が補修まででしたが、今は委託をしているという。委託業者には、元図書館司書などが多くいるので、補修方法等は伝授して充分まかせることができる。図書館に入る新書は表紙に、まずバーコードを貼る。これは図書館員が貼っている。ICカードはコストが高くてまだ使えないという。次に背表紙に日本図書館協会が決めた日本十進分類法(NDC)によって分類した3桁の数字を専門のタイプで打って貼る。演劇・映画の本なら770、文学なら900である。ちなみに放送関係は690の通信事業を第3次区分、つまり1000分類表に展開すると699となる。ほとんどの公立図書館ではこの分類法を使用している。

最後に表紙にブッカーと呼ばれるフィルムをぴったり貼り、装備の出来上がりとなる。

日本脚本アーカイブズとしては、いずれ大量の脚本・台本を扱っていく上で分類法や保存方法を考慮・研究していかなければならないだろうが、分類法は当分は私たちが開発した分類表を使用していくことになるだろう。

(熊谷知津)

---

## 番組の現場を支える制作会社の存在と脚本・台本の関係 番組制作会社と制作担当者たちの声

### アンケート部

---

はじめに

私達日本脚本アーカイブズ特別委員会はアーカイブズ設立に向けて3年前より準備室を設け、研究して参りました。そして、これまでにアンケート班は、日本放送作家協会の会員と、亡き作家の遺族の方にアンケートをお願いし、実施して参りました。今回は制作会社の皆様と制作にたずさわる皆様にアンケートをお願いしました。

いわゆる「プロダクション（番組制作会社）」が日本に産声を上げてから40年。放送業界でも全般的に外部委託の比率が高まっており、今や番組編成に欠かせないのが制作会社です。局系列のハウスプロダクションと独立系プロダクションに大別され、ATP（全日本テレビ番組制作会社連盟）加盟社だけでも113社（2008年1月1日現在）にのぼっています。制作形態は、完成した番組を納品する「完全外注」や、局も参加する「共同制作」、番組の一部のコーナーを請け負う場合などがあります。

近年、東京をはじめ全国に、一貫して番組制作会社は増加してきました。その結果、テレビ局は番組制作会社抜きに番組制作が不可能な状態にまで至っています。それは、脚本・台本においても制作会社は放送局と同等、もしくはそれ以上の関わりをもっていると推察しています。

脚本・台本は貴重な知的財産であり、重要な文化遺産です。私達が日本脚本アーカイブズで保存・管理・活用しようと考えている脚本・台本は決して有名作品、人気作品だけではありません。放送時間の長短にかかわらず、たとえそれがどのような番組であっても、そこには貴重で大切な脚本・台本・シノプシス、あるいは企画書などがあった筈です。作品の背骨として放送文化を支え、時に時代の証言者として、時に世相を映す庶民史として、その役割を果たし続けてきた脚本・台本。それらが貴重な文化遺産であり、大切な知的財産であることに、多くの人々が気づかないまま長い年月が過ぎてきました。その結果、放送開始以来創り出された膨大な数の脚本や台本は散逸し、失われ、放送ライブラリーなどの公的施設や民間の記念館などに寄贈された幸運な一部の作品を除いて、今消滅の危機に瀕しています。

この現実には、作品を将来にわたって遺したいと切望する心ある制作者にとっても差し迫った問題といえます。私たち「日本脚本アーカイブズ特別委員会」はこの国の放送文化に禍根を残す事のないよう、制作者（制作会社の方）たちがどのように考えているのか、制作者（制作会社）の手元に脚本・台本はどの程度保存されているのか、それらはどのような形で保存されているのか、制作者たちは脚本・台本の収集・保存・管理を本当に「日本脚本アーカイブズ（実現の際）」に望んでいるのかどうか、その場合どのような形での収集・保存・管理を期待しているのか、こういった疑問や現状を的確に判断し分析するため、今回は制作者（制作会社の方）の皆様にアンケート調査を実施させていただきました。

調査対象とさせていただいた制作者（制作会社）は335、回答をいただいた制作者（制作会社）は63、回答率は19%でした。

---

## 「制作会社（制作会社）アンケート」結果の主なポイント

- 1 制作会社（制作会社）の皆様は「日本脚本アーカイブズ」に対して高い関心と強い期待を示した。「日本脚本アーカイブズ」早期実現に対しても、好意的な御返事をいただいた。
- 2 「日本脚本アーカイブズ」実現の際、現在保存中の脚本・台本を寄贈してもよいと答えた制作会社（制作会社）は、一部寄贈も含めて、3割にのぼった。
- 3 「日本脚本アーカイブズ」が実現したあかつきには、63%の制作会社（制作会社）の皆様が様々な形での協力を快諾してくれた。

## アンケート結果の見方

- a. 回答結果に対応するグラフをその下に提示した。
- b. グラフは円グラフまたは棒グラフで示した。
- c. アンケートの分析はグラフの下に載せた。自由記述を求めたアンケート結果は出来るだけ回答者の声をそのまま掲載するようにした。

## ■回答状況

アンケートは、ATP（社団法人全日本テレビ番組製作者連盟）正会員社113社（2008年1月1日現在）を中心に、主要制作会社と各民放キー局のプロデューサー(制作会社)を対象に郵送させていた。質問は全部で9問。調査を依頼した制作会社（制作会社）の数は、335でした。

## グラフ1 制作会社（制作会社）の日本脚本アーカイブズへの関心度

※アンケート調査した制作会社（制作会社）数 335通

(A) 有効回答数 63通

(B) 未回答数 270通

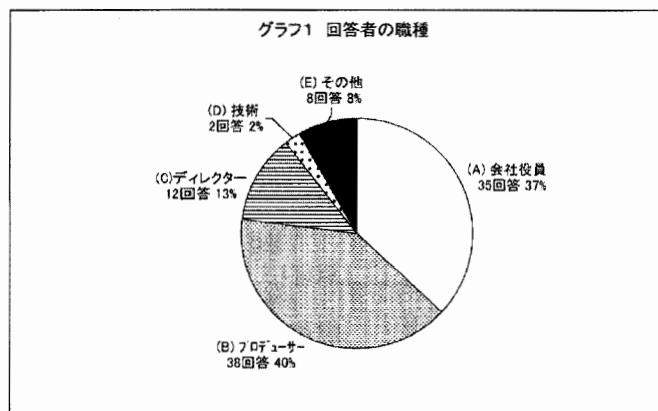
(C) 宛先不明による返送 2通

■前々回の現役協会員アンケートでは有効回答数が23%、前回のご遺族の有効回答数が35%で、今回の制作会社（制作会社）の有効回答数は19%にのぼった。有効回答数としては低い数字であるが、脚本・台本と直接関わらない制作会社（制作会社）もあるなか、この数字は予想以上の反応で、私たちはこれを「日本脚本アーカイブズ」への高い関心と強い期待の表れと理解したい。

質問1 あなたは現在、どのような職種に就かれていますか。(複数回答可)

- |                         |      |
|-------------------------|------|
| (A) 会社役員                | 35回答 |
| (B) プロデューサー             | 38回答 |
| (C) ディレクター              | 12回答 |
| (D) 技術(カメラ、照明、ミキサー等)    | 2回答  |
| (E) その他(経営企画部、管理職、営業など) | 8回答  |

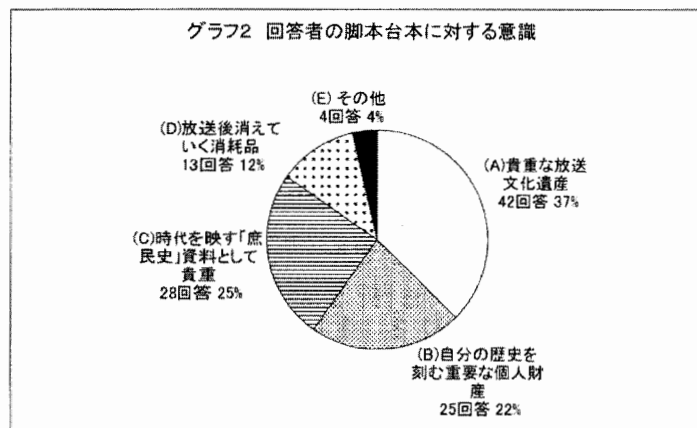
【グラフ1参照】



質問2 貴社(あなた)にとって脚本・台本とは何ですか。(複数回答可)

- |                        |      |
|------------------------|------|
| (A) 貴重な放送文化遺産である       | 42回答 |
| (B) 自分の歴史を刻む重要な個人財産である | 25回答 |
| (C) 時代を映す「庶民史」資料として貴重  | 28回答 |
| (D) 放送後消えていく消耗品である     | 13回答 |
| (E) その他                | 4回答  |

【グラフ2参照】



---

■制作会社（制作者）の皆様は、脚本・台本というものが、どのような認識のされ方をしているのかを知る上で、この回答結果は、私たち「日本脚本アーカイブズ」にとって、心強いものであった。

質問3 貴社（あなた）では脚本台本を保存していますか。

- |                 |      |
|-----------------|------|
| (A) すべて保存している   | 18回答 |
| (B) 代表作のみ保存している | 7回答  |
| (C) 一部保存している    | 33回答 |
| (D) 寄贈した        | 1回答  |
| (E) 処分した        | 2回答  |

1) (A) ~ (C) と答えた方にお聞きします。保存している脚本・台本は何冊くらいありますか。○印をおつけください。

- |             |      |
|-------------|------|
| ①100冊以下     | 35回答 |
| ②101冊から200冊 | 1回答  |
| ③201冊から300冊 | 6回答  |
| ④301冊から400冊 | 1回答  |
| ⑤401冊から500冊 | 1回答  |
| ⑥500冊以上     | 6回答  |
| ⑦1000冊以上    | 7回答  |

2) 「保存している」と答えた方にお聞きします。現在どういうかたちで脚本・台本を保存していますか。○印をおつけください。

- |                          |      |
|--------------------------|------|
| ①印刷物で保存                  | 45回答 |
| ②生原稿で保存                  | 8回答  |
| ③データ（フロッピー・HD・CD・DVD）で保存 | 17回答 |
| ④公のライブラリーに寄贈             | 1回答  |
| ⑤自社の資料室を持っている            | 4回答  |

3) 脚本・台本その他の資料など、保存してくれるところがあれば預けたいと思いますか。

- |                  |      |
|------------------|------|
| ①管理形態によっては預けてもよい | 30回答 |
| ②預ける気はない         | 24回答 |
| ③消耗品なので預ける意味がない  | 4回答  |

4) 「処分した」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。

- |              |     |
|--------------|-----|
| ①保存する場所がなかった | 5回答 |
|--------------|-----|



- ②テレビ・ラジオ番組の脚本・台本は消耗品 1 回答
- ③その他（理由をお書きください） 1 回答

■制作会社の脚本・台本の保存状況は、予想以上の結果であった。正直、テレビ・ラジオの在京民放局は、脚本・台本の保存に消極的である。今回のアンケートによって、制作会社の脚本・台本に対する意識の高さが証明された。これは、実際、現場で番組を作っているという意識の差と受け取った。今回は、放送局のプロデューサーにも制作者として、アンケートの対象者となっていたが、彼らも番組制作の現場にいるせいか、脚本・台本に対する愛情を感じ取れた。

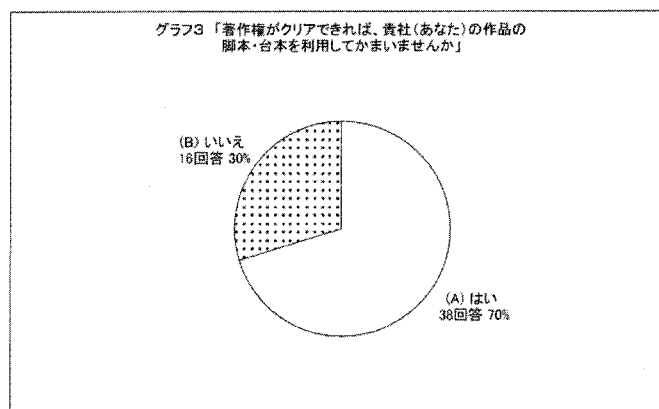
質問4 寄贈しても良いと答えた方にお聞きします。あなたは脚本・台本をどのような形で保存してほしいですか。

- (A) 現物で保存 1 回答
- (B) IT・デジタル化で保存 6 回答
- (C) 現物とIT化の両方で保存 4 回答
- (D) 形は問わないが保存してほしい 7 回答

質問5 著作権がクリアできれば、貴社（あなた）の作品の脚本・台本を利用してもかまいませんか。

- (A) はい 38 回答
- (B) いいえ 16 回答

【グラフ3参照】



※ (A) の「はい」に○印をつけた方にお聞きします。保存した脚本・台本は後世にも伝わっていきます。貴社（あなた）の脚本・台本は、どのように利用してほしいですか。ご意見をお聞かせください。

- 脚本の製作された背景も附記して保存していただき、そうした点を加味して有意義に利用して欲しい。
- 後世の人にお役に立つなら大いにご利用下さい。
- いろんな意味で有効活用できれば！
- 今、現在、具体的なことはわかりません。利用する側の方の意見を伺いたい。

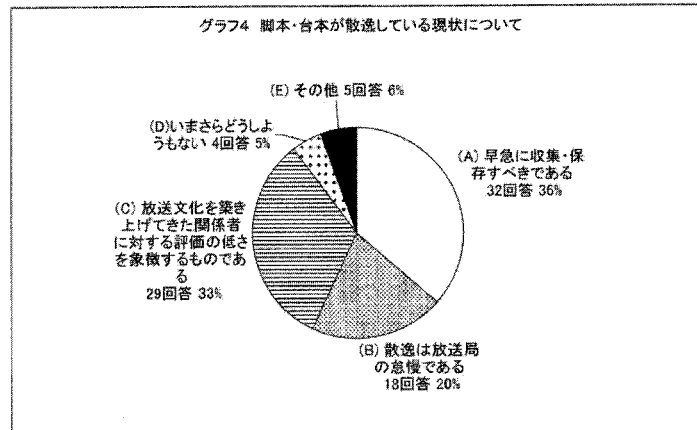
- 
- 次世代への参考資料としてほしい。
  - 時代の記録として、陳列し、子供達にTVの現場の様子を息づかいを伝える大事な小道具として！！
  - ドラマによっては、脚本家との共同作業としてプロデューサーのウェイトが高いものもある。ドラマ制作の後輩たちに安価で有料で再利用していただき、管理費と共に脚本家やプロデューサーに還元していただきたい。プロデューサー著作権にも配慮してもらいたい。
  - 自社の作品はありません。技術担当スタッフとしていただいた印刷物でお答えしております。利用は多メディアで今後使用が予想されます。
  - PR映像が多く、再利用、再編集の意味はあまりない。引用等ならば著作権のカテゴリーに入らない。
  - 脚本家を目指す者にとっての重要学習資料としての価値と作品としてリメイクする場合の原作としての価値があると考え、その2通りに利用する事が名作を後世に残す利用方法と思います。
  - 映像作品として、メディアで存在しているので、それが、お金になればよい。
  - 時代を振り返る際の資料として残してほしい。
  - TV番組に興味ある方や、専門に研究される方、あるいは我々ドラマ制作者の参考になればと思います。
  - 教育～後進の学校教育（中・高・大）テキスト等……日本の映像教育にとっても、中学、高校に「脚本」の授業は必要と考えます。
  - 良いものがあれば利用していただいても良いが、現在は特にない。
  - 利用の仕方はリメイク等程度でしょうか。
  - 利用の仕方は後世に任せます。
  - 作り手としては資料として閲覧できたり、またシナリオライターを目指す人たちへの教科書的意味合いで利用してほしい。ただし、この2つを満たすものは全体のごくごく一部であるし、その他ほとんどは意味をなさないと思います。
  - 多くの方に利用していただければ幸いです。
  - その時点（脚本作成のための取材時）でしか手に入れることが出来なかった情報（インタビュー等）は死蔵するのはもったいない。情報として利用して欲しい。
  - 文化財産のひとつとして・・・決して2次的に利益を生むことを目的としたものではなく、庶民文化のアーカイブズとして利用される事なら許諾したいと思います。
  - TV番組の脚本・台本にはTV番組自体と同様、多くの人間が関わっており、その利用にあたっては番組の二次利用程ではないにしろ、それら関係する者の納得できる形が望ましい。一般の書籍とは異なる慎重な取扱いが必要と思われる。
  - 新作の参考資料として活用してほしい。
  - ただ、脚本などの作品は後世に残すべき財産だと思います。“アーカイブの設立”がんばって下さい。
  - そのようなことを想像したことはありませんでした。これを機会に良く考えてみたいと思います。折角作った大事なものですから、後世のお役に立てればこれほど嬉しいことはありません。
  - 制作時の時代性を認識できる形で放映、上演してほしい。

質問6 現在、多くの脚本・台本が散逸しています。この現状をどう思いますか。（複数回答可）

- |                    |      |
|--------------------|------|
| (A) 早急に収集・保管すべきである | 32回答 |
| (B) 散逸は放送局の怠慢である   | 18回答 |

- (C) 放送文化を築き上げてきた関係者に対する  
評価の低さを象徴するものである 29 回答
- (D) いまさらどうしようもない 4 回答
- (E) その他 5 回答

【グラフ 4 参照】



- 自らからも宝とっていなければならぬはず。製作者として考えられませんが。命けずって作品を創り上げてゆくのに
- 散逸すべきものが散逸している。あるがままで良い。
- 散逸している現状は憂うべきではあるが、放送・上映という一瞬に結集されるべきものであると考えます。
- ドラマ等、物によっては保管の必要があると思います。バラエティは必要ないと思います。
- 散逸は放送従事者の意識問題。
- 映像が完成形として残っている以上、脚本はプライオリティとしてその次という感は否めない。脚本のみに価値を見出し、保管しつづけるのは非常に困難だと思う。
- 弊社では可能な限りの収集・保管に務めている。

質問 7 脚本・台本が簡単にコピーされたり、番組終了時に無造作に廃棄されることがあります。どう思いますか。

- (A) 消耗品だから仕方がない 7 回答
- (B) このままの状況にしておくのは間違い 38 回答
- (C) その他 14 回答

- そのような事がある事が考えられない！
- 何部かを保存すれば良い。
- 権利関係が明確でないため、いろいろな事が起っていると思う。
- あるがままで良い。コピー、廃棄の禁止は必要な場合に明示すれば良い。

- 
- 完成作品としてマスター化する為、台本そのものは、キチンと廃棄された方がよい。
  - かたくなな複製禁止は、権利の保護により、後世の人材育成の足かせとなる事実注意到、どうするか検討してほしい。
  - 脚本はいかがなものかと思う。
  - 制作スタイルの現状のままでは仕方ない。
  - ドラマではなく、情報番組のスタジオ台本なのではないと思います！
  - 一部は保管すると良いが、全ての脚本・台本の保管が必要とは思わない。
  - 廃棄が適当なものそうでないものがあります。
  - 局なり制作会社なりが管理保存すべきです。
  - 我々は財産として保管する。
  - 困った問題だが、現場は常に慌しく、皆、疲弊しているので、なかなか理想通りにはゆかないのだと思います。
  - 廃棄する台本は、印刷所に返却して、裁断している。

質問 8 脚本・台本がインターネットオークションや古書店で売買されている状況についてどう思いますか。(複数回答可)

- |                             |       |
|-----------------------------|-------|
| (A) 著作権上由々しき問題で、抗議すべき       | 33 回答 |
| (B) 困った現象だが、脚本・台本の価値が認められた証 | 21 回答 |
| (C) 古書店に入る前に確保して保存するべきである   | 8 回答  |
| (D) その他                     | 5 回答  |

※ (D) の「その他」に○印をつけた方、あなたの考えをお聞かせください。

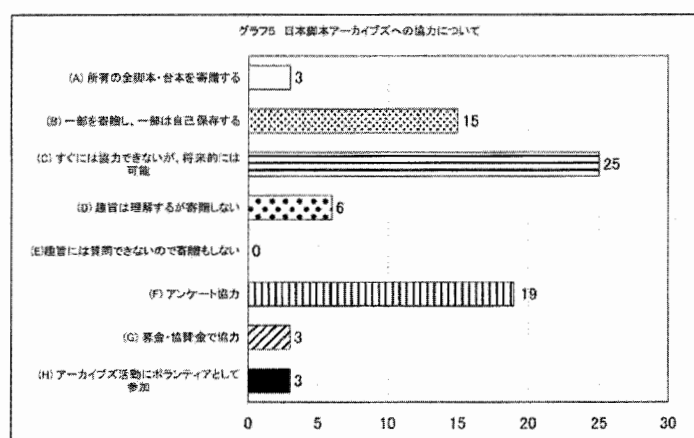
- 私の場合、ドキュメントがメインなので、その原稿を勝手に使用される事はありません。
- 全く問題はない。書物一般についても、古書の流通は商品経済のワケ外にある。また、「脚本の価値が認められた証」とも考えない。
- 制作会社・メーカーとしては、作品マスターがすべてですので、その中に脚本・台本等が含まれていると思っています。
- 内部からの流出なくして衆目には晒されません。権利以前に放送従事者の意識改革が優先です。
- 脚本・台本の取扱いについて慎重を期すよう社内で教育しているが、より一層の啓蒙が必要と思われる。
- 売買できるのであれば公開したら良い。
- 原本は自社又は売失で保存すべきであり、その他のプリント物ではN o リング等で渡し先が解かる様にすべきだと思う。

質問 9 日本脚本アーカイブズ会館が実現した場合、あなた（貴社）はどの程度の協力が可能ですか。(複数回答可)

- |                    |      |
|--------------------|------|
| (A) 所有の全脚本・台本を寄贈する | 3 回答 |
|--------------------|------|

(B) 一部を寄贈し、一部は自己保存する	15 回答
(C) すぐには協力できないが、将来的には可能	25 回答
(D) 趣旨は理解するが寄贈しない	6 回答
(E) 趣旨には賛同できないので寄贈もしない	0 回答
(F) アンケート協力	19 回答
(G) 募金・協賛金で協力	3 回答
(H) アーカイブズ活動にボランティアとして参加	3 回答

【グラフ5参照】



アンケート調査を終えて

■録音テープ、VTR、CD、HDなど記録媒体が無かった時代は、脚本・台本はすべてその場限りで捨てられてしまうことが多かったのです。かといって、放送技術が驚くほど進歩を見せた現在も、相変わらずこの状況は続き、使い捨てされ、消えていく脚本・台本は数え切れないほどあります。この現状を、制作会社（制作者）の方たちは、どのように捉えていらっしゃるのか、期待と不安を抱えながら、アンケートに臨みましたが、有意義な結果を得られたと自負しております。

今回の制作会社（制作者）へのアンケート調査は、放送文化の継承、発展、未来のためにも重要な研究資料となる脚本・台本の収集・管理・保存に関する私たち日本脚本アーカイブズの活動や思いを伝える良い機会にもなったと考えています。その結果、日本脚本アーカイブズの活動主旨に対して、概ね理解を得られている反応いただきました。今後は、この活動の更なる理解と協力を増していただけるよう努力していきたいと考えております。

アンケート班 三原 治  
熊谷 知津

協力スタッフ 石川 大和  
柏崎 勝  
熊谷 章一

---

# 東アジアにおける台本・脚本交流の幕開け

## 研究調査部

---

### エフェメラ (ephemera)

研究調査部 (旧・実態調査部) は第一次報告書で次の3つの観点から調査を開始した。

- ① 脚本・台本はどこへ行った？
- ② 脚本・台本はだれのものか？
- ③ 脚本・台本をどう位置づけるか？

「エフェメラ (ephemera)」ということばがある。カゲロウなどの短命な虫、花、その他の一日ないし短期間のみ存在するものを指すことから、一時的な筆記物および印刷物で、長期的に使われたり保存されることを意図していないもののことも指すようになった。古本の世界では、手紙、写真、葉書、ポスター、チケット、自費出版物、パンフレット、チラシとか、すぐに消えてなくなってしまふものを、こういう名で呼び、しばしば収集の対象となる。

図書館情報学におけるエフェメラとは1枚だけの印刷物で、役割を終えたら捨てられる類のものを指す。印刷されていない手紙や写真は手稿 (マニユスクリプト) やタイプ原稿 (タイプスクリプト) などと呼ばれ、エフェメラとは区別されている。大学図書館、国立図書館、博物館などでは歴史的資料としてエフェメラを収集・整理・保存する場合がある。というわけで、台本・脚本もエフェメラという範疇に位置づけることが出来るかもしれない。

エフェメラという言い方はしていないが、07年の日本アーカイブズ学会の年度大会で講演した印

刷博物館の館長樺山紘一さんは博物館における展示会資料などもアーカイブする必要性を説いている。

「そもそも普通の有体物として保存され、或いは収蔵されるだけではない数多くのドキュメント系の資料があります。今は役に立たないかもしれない、或いは将来にわたっても展示には使わないかもしれませんが、問題を考えるために重要な手掛かりとなるドキュメントとなります。書かれたものから図像資料、写真資料、場合によっては音声資料、録音資料、こうしたものも含めた、言うならば問題に関わる重要なドキュメントを収集する、そうした機能を博物館に置かなければいけません。そうすることで、今までに使われてきたこうした参考資料と新たに獲得されたものを通して、博物館に固有のアーカイブズを併設しようではないかということが、私たちの夢です」(「博物館と文書館のあいだ」(「アーカイブズ学研究NO.7」)

### 東アジアにおける台本・脚本交流

エフェメラおよび手稿 (マニユスクリプト) やタイプ原稿 (タイプスクリプト) などは、これまででグーグル検索などでは出てこないものだった。それが本報告書冒頭写真でお知らせしたように韓国の「放送台本デジタル図書館」開館 (本章で後述) によって、アクセス可能になった。

それはどういうことを意味するかというと、国境を越えて台本・脚本を共用できる時代がやってきたということである。

文書公開に関して言えば、次のような動きがあ

---

ることが報告されている。

「昨今、東アジア各国・地域で文書公開が急展開している。90年代から各部局の行政文書を公開し始めた台湾はもとより、韓国も戦後の外交文書を公開し、そして中国においても外交部が外交文書の公開を開始している。日本からも多くの大学院生が北京を訪れ、外交文書と格闘している。韓国と台湾では、文書のデジタル化が国家計画で急速に進められた。韓国では国家の政策として歴史文書の収集がおこなわれ、世界各地から韓国関連の文書がソウルに集められている。

日本における文書の公開も含め、東アジアは「史料の共用の時代」に入り始めた」（08年2月号「論座」『歴史』の再構成とアーカイブズ」川島真 東京大学大学院准教授）

台本・脚本を共用できる時代に、たとえばどのような研究課題があるのだろうか？

一例を挙げれば、韓国の台本・脚本に現れた日本人像の変遷というテーマで調べることも可能になるのではないかと。あるいは最近の韓国ドラマに出てくるベトナム人やベトナム人とのハーフの登場人物たちは何を物語っているのか？ そこからは国内での嫁探しが困難になり、海外にまでむけられている韓国の農村事情が浮かび上がってくる。ドラマが時代相を反映しているひとつの証左である

## 台本・脚本レス時代に突入

次に研究調査部は在京ラジオ局を訪ね、台本・脚本の保存収蔵状況の研究調査を行った。そこから見えてくるものはまさに「長期的に使われたり保存されることを意図していない」エフェメラとして台本・脚本が消えているという実態であった。

さらに、ラテ欄の変遷でも触れられているように「生ワイドパーソナリティ」路線によって日々行われている放送には製本された台本・脚本などは作られておらず、PCから直接プリントアウトしたペーパーが作られ、それらは保存される

ことなく日々消えている。つまり、数少なくなったラジオドラマやドキュメンタリーをのぞいて台本・脚本レス時代が続いているという実態が明らかになったのである。

## オーラルヒストリーの課題

となれば、今後の研究調査部の課題は台本・脚本が存在した時代のオーラル・ヒストリーを残すことではないだろうか？

オーラル・ヒストリー（oral history）とは、歴史研究のために関係者から直接話を聞き取り、記録としてまとめること。

当時の関係者にインタビューを行うことで、文献からはわからないことを「聞き書き」する手法である。最近では近現代史の研究者の間で1990年代以降、オーラル・ヒストリーが注目されるようになっている。

今後はオーラル・ヒストリーによる放送における台本・脚本史が課題となろう。

（津川泉）

---

## 放送台本デジタル図書館の構築

※08年1月15日韓国放送作家協会は「放送台本デジタル図書館」を開館した。市川理事長とともに出席した津川が、開館式の模様と開館式にいたる経緯を報告する。

報告に当たってはNHK出版の季刊誌「放送文化」08年冬・春号に寄稿した文章の一部を抄録することをお許しいただきたい。

「来年1月に『放送台本デジタル図書館』を開館します」

韓国放送作家協会常任理事のナム・エリさんが開口一番にのたまうではないか。さらに、協会の機関誌である月刊「放送文芸」を開いてみせてくれる。そこには「放送もこれからは記録と資料を残さねば——デジタル図書館構築」（4月号）、「放送台本収集作業軌道に乗る」（6月号）という見出し。

思えば2年前の2005年3月、日本放送作家協会会員有志と韓国放送作家協会会員たちとの交流が行われた際、われわれは「日本脚本アーカイブズ準備室」を立ち上げたばかりで、日韓ともに放送台本の保存に取り組もうと呼びかけたことがあった。

その呼びかけに対し、韓国側の会報は「汎アジア的イベントを準備中」として以下のように報じた。

《彼らは日本国内で「脚本ライブラリー運動」を推進している。

「台本は文化遺産だ」という強い意志の下に集められるすべての台本・脚本を集め、図書館を設立しようというのだ。(中略)

この図書館が完成される頃、彼らは「アジア・シナリオ公募展」を開く予定だ。》

あれから二年。いまだ“準備室”の段階で「公募展」どころではないのがこちらの現状で、内心忸怩たるものがある。当該記事には「脚本ライブラリー運動」「図書館」という言葉も出てくるが、台本・脚本は“図書”とは違う性格のもので図書

分類のための十進コードもなじまないため、現在は「ライブラリー」も「図書館」という言葉も使っていない。

「台本は文化遺産だ」というスローガンも、現在では「遺産」ではなく「資源」というふうに変えてきている。これは中国がアーカイブの訳語である「档案」という言葉を「情報資源」という言葉に換えたことも影響している。

それにしても、われわれが「日本脚本アーカイブズ準備室」で調査・研究に汲々としている間に、韓国側は着々と「放送台本デジタル図書館」を構築していたとはまさに驚きであった。

## 韓流の主役は放送台本

「放送文芸」4月号に書かれたナム・エリさんによる記事をいくつか分割してここに抄録しよう。

《2005年3月発表、韓国産業政策研究院の統計資料によれば放送・映画・レコード・ゲーム等4つの文化産業分野での韓流の波及効果は約4兆9000億ウォン(約6800億円)に達した。

2004年『冬のソナタ』のNHK地上波放映、2005年『宮廷女官チャングムの誓い』に至るまで、中国と日本に輸出された韓流の先頭走者はテレビドラマであった。

いわば、韓国的文化と韓国人の生活スタイルが放送台本を通して、全世界に知らされたのだ。

このようなドラマの最も基本的なコンテンツは台本であったし、これは作家の頭と手から生み出される。

つまり、韓流の主役はまさに放送台本だった》

主役である「放送台本の保存事業」の内容に入る前に、予算規模と陣容についてナムさんに尋ねたところ、次のような答えが返ってきた。

予算としては、国から10億ウォン(約1億4000万円)、韓国放送作家協会が2億ウォン(約2800万円)出資。陣容としては、4社のシステム業者が入って台本のデジタル化作業を担当、現在韓国放送作家協会が入っているビルの2



階に「放送台本収集記録保存作業推進事業団」の看板を掲げ、4人の専従職員が収集分類作業に携わっている——とのこと。

《初年度の目標は放送台本をもれなく収集し、記録保存活用化事業の基本枠を立案、システムを緻密に構築、2000年以前までの放送台本をきちんと分類整理デジタル化して、保管すること》

作家から送られてきた台本は、内容をデジタル保存したあと本人に送り返すシステムとなっている。この過程で、物故した放送作家の台本の行方についても調査するという。

《放送台本デジタル図書館システムは各大学や研究機関の図書館と同じように一般人が訪問あるいは資料を閲覧する場合、訪問記録をもれなく残し、不法ダウンロードなどを未然に防止し、会員本人や遺族が願わない場合資料室に保管だけして、一般人の閲覧禁止を申請することもできる二元化システム構築も検討中だ》

長期的戦略についてナムさんは次のようにまとめている。

1 デジタル図書館に接続して閲覧する際、一定の著作権料を徴収、該当会員に支給する。

2 デジタル図書館の運営と共に放送台本展示館あるいは放送作家記念館を設立、放送台本、放送作家関連資料を保管、展示する。

《もはや放送も記録と資料を徹底的に残し、国家的資産になると同時に、初めて文化史、時代史、生活史、言語史の真ん中に放送台本が立つようになるのだ》と記事は締めくくられている。

まさに“初めに台本ありき”“用が済んでも台本ありき”である。

この事業団は今年2月に発足。台本の第一次収集は6月30日に締め切られ、4か月足らずで3万冊余りの台本が収集された。亡くなった放送作家の遺族から送られた台本も含め、収集された資料は肉筆原稿、印刷台本、シノプシス、写真資料などに分類され、現在デジタル化作業が行われている。第二次収集は9月30日までとしている。

《相当な分量の放送台本がとうに消えてなくなり、遅れた観がなくはないが、協会員の積極的な

協力で台本収集が順調に進行している》(「放送文芸」6月号)

## もうひとつのアーカイブ

劣化・損傷が激しく、判読不能になってしまう恐れのある脚本・台本などは、デジタル化によって複製(クローン)を残し、救済するという有効性がある反面、デジタル化は問題点も抱えている。印刷された脚本・台本というアナログの状態にあるものは、数十年後でも現物の閲覧が可能だが、デジタルデータに関しては30年、50年といった超長期的な保存の保証が得られていないのが現状だ。

というのも、データを保存する記録媒体の規格は常に進化しているからだ。つい数年前のデータでも、メディアによる一方的なサポート終了などで、内容が読み出せなくなるケースが現実には起きている。データの陳腐化は常に付きまとい続けているのだ。そうした場合、新しいデータへ移行すればよいわけだが、その作業には膨大な手間と費用が必要となる可能性も考えられる。

とはいえ、社会の趨勢はデジタル化に逆らうことはできない。グーグル社は世界中の書籍の全文デジタル化作業を始めていると聞いている。「放送台本デジタル図書館」も、そうしたグローバルな動きと無縁ではない。

一方、前述の「放送文芸」では、アナログによるアーカイブも行われている。2006年4月の創刊以来、毎月「今月の作品」と題して過去のラジオドラマ、テレビドラマの台本を掲載しているのだ。

8月号の「放送文芸」には、「植民地時代のラジオ放送」という特集と関連して1933年放送の柳致真(ユ・チジン/1905~1974)作のラジオドラマ「ルンペン・インテリ」を掲載している。

柳致真は劇作家で、日本に留学後、韓国で劇芸術研究会を創立、本格的な演劇活動を始め、プロレタリア文学に接近する一方、親日演劇に加担し

---

たこともあった。戦後はドラマセンターを設立。演劇教育に貢献した人物である。

掲載作品は、この「放送文芸」でなければ読むことのできない貴重な資料である。デジタル図書館を構築する一方で、このような活字化のアーカイブも同時に行っている韓国放送作家協会の活動には羨望の念を覚える。

独立運動家の金九（キム・グ）は、自叙伝の終章にこんな言葉を遺している。

「わたしは、われわれの国家が、世界でもっとも美しい国となることを願っている。もっとも富強な国となることを願うものではない。おのれが他人の侵略に胸を痛めさせられたのだから、おのれの国が他国を侵略することを望まない。われわれの富は、われわれの生活を豊かにするにたりればじゅうぶんであり、われわれの力は、他国の侵略を防ぐにたりればじゅうぶんである。

ただ、かぎりなく多く持ちたいものは、高い文化の力である。文化の力は、われわれ自身を幸福にするばかりでなく、さらに進んでは、他国へも幸福を与えるだろうから」（『白凡逸志——金九自叙伝』平凡社東洋文庫、梶村秀樹訳）

韓流という文化のソフトパワーが日本にも「幸福を与え」ている今の現実を、彼はどのように思うだろうか？

（「放送文化」08冬号から抄録）

## 1月15日韓国放送作家協会主催「放送台本デジタル図書館（[www.daevon.or.kr](http://www.daevon.or.kr)）」開館式。

朴ジョンナン韓国放送作協会理事長が「放送台本の保存が国家の重要な資産として残ると確信する」

と挨拶したあと、このプロジェクトに尽力した文化観光委員会の国会議員3名をはじめ、元老作家韓雲史（ハヌンサ）先生、日本からは市川森一日本放送作家協会理事長、放送各社代表の来賓たちがケーキカットを行った。日本なら、さしずめ酒樽を木槌で叩き、蓋を開く「鏡開き」にあたる祝

の行事か。

放送台本デジタル図書館の概要については前回ご紹介したが、今回明らかになった事項について、補足しておきたい。

昨年1年間で5万6千900冊の台本を収集、一人の作家でトラック一台分にもなるケースもあれば、現物の台本ではなく古いフロッピーで台本のデータが送られてきたケースもあった。現在のPCでは開けず、データ変換するのに思いがけない費用がかかったという。

こうして集められた中から第一次として1万2千793冊をデジタル化。執筆年度が確認された最も古い原稿は1956年李ギョンジェのラジオドラマ「水一杯」。貴重な肉筆原稿はPDFでも閲覧できる。当分は無料で利用できるが、システム整備後は閲覧に1千ウォン（130円）、ダウンロード1千500ウォン（195円）の使用料が必要となる予定だ。

（「放送文化」08春号から抄録）

## 放送台本デジタル図書館

概要およびシステム案内文

韓国放送作家協会

### UBIQUITOUS BOOK

放送台本デジタル図書館はこんなところ  
です。

放送台本デジタル図書館を社団韓国放送作家協会が韓国放送初期から作家たちが書いたすべての放送プログラム台本を収集、分類、整理、保存して必要な人たちがいつも利用することができるようにするために用意した一種の放送台本宝物倉庫です。

ラジオとTVドラマはもちろん時事、教養、ドキュメンタリー、演芸娯楽、ショーコメディなどすべてのプログラムに関わる原稿や台本をもれなく探し集めて引続き蓄積していく計画です。

したがってこの台本デジタル図書館に収録されたのを始めとして過去の台本の中で抜けているものと今後の台本を持続的に探し、確保して、補完入力して、完ぺきに所蔵して、世界最高の放送台本デジタル図書館に発展させていくでしょう。

その間オフラインで個人や団体が任意に分散保管していた資料らがこれ以上廃棄または紛失するのを防止するためにもこの放送台本デジタル図書館事業は必要でした。

すべての放送台本を心を込めて収集して、標準化されたDB化作業を経て、望む人は誰でも地域や時間の制約なしに必要な資料すなわち台本を閲覧することができるようにシステムをととのえました。

#### ●事業目的 Project purpose

■オフラインで分散保管されていて紛失廃棄などの問題が発生している放送台本を収集統合してDB化。標準化されたDB化作業を通して、デジタル情報資源を確保して資料管理の効率性を向上して、情報化社会基盤強化

■効率的な著作権管理を通して、国家資源として活用

#### ●期待効果および活用方案 Expectation effect& practical application

- ラジオとTVのドラマ発達史把握に有用
- 放送プログラムの推移と傾向、企画関連資料
- 放送の流れと内容の変遷過程研究の助け
- 放送作家一人一人の活動と作家精神および作品分析
- その時その時の普遍的人生と情緒の発見可能
- 時代別コミュニケーションと表現、言語文化研究の価値
- 同時代人の生活風習と意識把握
- 世相と社会像の野史的意味観察
- 台本を通じた後輩の学者たちの作家教育的効果
- 新しい文化コンテンツ開発に寄与
- 資料の蓄積による国家的文化資産の役割
- 不特定多数に必要な情報をオンラインで提供
- 21世紀知識情報社会に国家競争力強化
- 情報獲得過程短縮で研究者たちの研究力増進
- 「韓流」の持続的拡散方向探求および提示
- 文化コンテンツ資料管理の効率性の向上

#### ●主要事業 Main project

- 資料管理の効率性を向上して、情報化社会基盤強化に寄与
- 将来外国語サービスを通して、韓国文化コンテンツの広報と活用拡散
- 各種関連デジタル図書館とのネットワーク連結による多様な情報交換
- ドラマまたは台本と関連した展示行事開催
- オフライン アーカイブ設置で常設展示および放送作家招請特別講義

#### ●サービス利用案内 Service use guidance

---

## 公開対象

- 韓国放送作家協会会員放送作家
- 大学の関連学科、研究機関学生と研究者
- 放送など関係団体従事者
- その他放送台本に関心がある一般人

## 利用時間

- 24時間、年中無休（ただ、運営者との連絡は月～金曜日の間午前9時から午後6時まで）

## ●資料案内 Data guidance

### ドラマ台本資料

私たちの放送は1923年から始まった。ここ放送台本デジタル図書館が所蔵したドラマ台本は解放後1950年代ラジオドラマが初めて登場し始めた当時の台本を対象に収集、その目次と資料をテキストで構築したデータベースです。

主要検索項目は作品名、作家名、放映日時、演出者、演技者、放送会社などでも可能でドラマの素材と形態、週間または日々連続ドラマと単幕劇（単発ドラマ）、題名または内容を入力しても探せます。

あまりにもその分量が膨大な関係で現在収録されたもの以外も継続して入力が必要でしよう。

### 非ドラマ台本資料

ここで話す非ドラマとはドラマを除いた残りのプログラムを通称することで別に適当な区分名称がなく、便宜上付けた名前に過ぎません。

例えばドラマでないプログラムすなわちラジオとTVのドキュメンタリー、総合構成、コント、ショー・娯楽、コメディ、時事コラム、その他台本によって放送されるすべてのプログラムを称します。

この非ドラマ部門の台本は事実上1960年代

テレビの開局と1970年代に入り、専門作家による構成台本の一般化が可能だったために放送台本デジタル図書館が所蔵した非ドラマ台本はそれ以後のものなどを目次および資料をテキストとして構築したデータベースです。

主要検索項目は作品名（プログラム名）、作家名、放映日時、演出者、出演者、放送会社等で探せます。

またドキュメンタリー（ヒューマン、環境、文化、時事など）と総合構成、コメディなどのフォーマット別とラジオとTVなど媒体別検索も可能です。

これまた膨大な分量を継続して入力中です。

### 貴重資料

古書や貴重本、貴重書を対象にした資料で目次情報はテキスト、原文情報は画像で構築したデータベースです。

主要検索項目は書名、著者名、索引語、目次などで、現在確保された資料の他に継続的に収集または購入して、蓄積する。

### 付加資料

放送台本と作家、ドラマとその他台本化されたプログラムと関連した記事または批評、著述、分析評価、後日談、エピソードなどが記述された資料を収集して、放送台本デジタル図書館に保存する。

この部分は主に外部筆者たちが所蔵した資料を確保しなければならない困難があるが結果的には台本以外の多様な興味深い情報提供となる項目です。

（翻訳・津川 泉）

## 大宅壮一文庫

平成19年10月4日

取材先：財団法人 大宅壮一文庫  
糸川英穂氏（広報担当）  
加瀬博通氏（資料課）

### ■ 大宅壮一文庫とは

評論家・大宅壮一氏が収集した雑誌蔵書20万冊をもとに設立された雑誌資料館。1951年に前身となる“雑草文庫”資料館を設立。大宅氏の没後1971年、財団法人大宅壮一文庫を設立。自宅を資料館として改装し一般公開している。今回の取材では、通常立ち入ることができない書庫や複写作業などを見学。



（大宅壮一氏の書斎を再現した応接室）

### ■ 概要

#### 1) 蔵書

雑誌 約1万種類 約680,000冊  
（1862～現代）6000誌の創刊号も所蔵  
書籍 約70,000冊

#### 2) 所蔵場所

- ・東京本館（世田谷）：書庫8室  
利用頻度の高い雑誌を所蔵
- ・埼玉分館（1997年～）  
利用頻度の低い図書を所蔵

#### 3) 利用者数について（H18年度）

年間営業348日（祝日休）  
年間総利用者数 99,129人

来館利用者数 22,298人  
ファクシミリ利用者 48,727人  
Web利用者 27,380人  
配送 724人  
年間利用冊数 769,6057冊

※利用者については、来館者に比べファクシミリやWebでの利用が増加傾向。

※初期は1日に利用者数人という資料館だったが、財団設立年度の1971年のロッキード事件を境にマスコミ関係者を中心に利用者が増加。現在では雑誌専門資料館として広く認識されている。

#### 4) 利用料金

##### ①入館料

入館料500円（学生300円）

10冊まで閲覧可能。追加は10冊ごとに300円（4回まで可能）

##### ②複写料

モノクロ1枚90円。カラー180円。

##### ③ファクシミリサービス

法人会員 送信資料1枚300円  
通信手数料（1件）300円

個人会員 送信資料1枚300円  
通信手数料（1件）300円

ほか、宅配便による配送サービスあり。

#### 5) 賛助会員について

##### ①料金

個人会員：年間1万円（H19年改定）

法人会員：1口1万円、15口以上。

##### ②特典：入館無料。閲覧冊数100冊

ファクシミリとWeb利用資格。

##### ③利用数（18年度）

個人 262人（3,600,000円）

法人 122件（20,650,000円）

#### 6) 運営スタッフ、設備

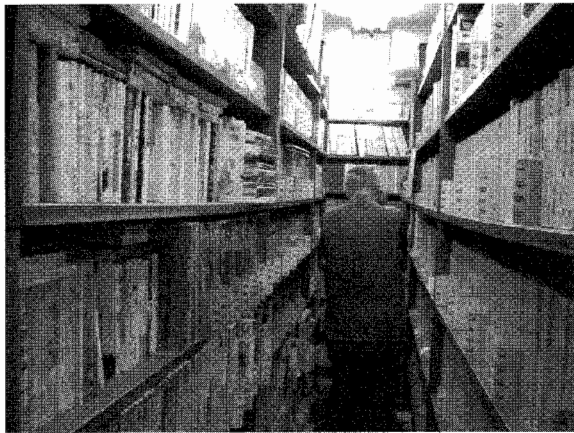
##### ①スタッフ数 計46名

総務課 7名（会計、経理、庶務他）

資料課 39名（索引、案内、検索、複写、  
FAXサービス、web担当）

##### ②設備機器（分館含む）

コンピュータ：大型機2台、PC80台  
FAX：22台、コピー機：10台（カラー機含む）、電話回線：30



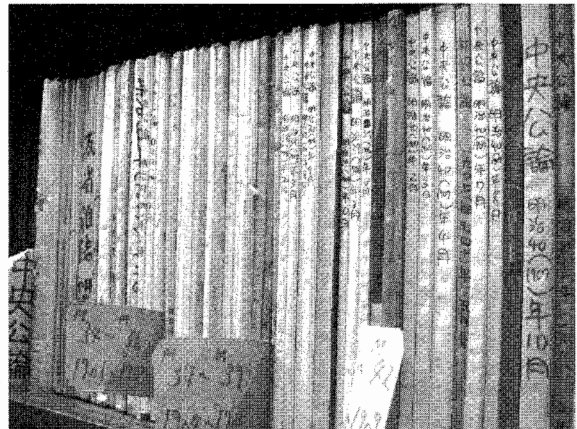
(創刊号など初期コレクションの書庫)



(通常雑誌の書庫)



(複写サービスの仕分け作業中)



(明治時代の中央公論)

## ■まとめ

### 1) スタッフの作業について

大宅文庫の特色は、きめ細かいキーワード検索と、雑誌現物を実際に手に取り利用できる点だ。

古書も多い事から、劣化対策や温度湿度管理が徹底されていると想像したが、空調は通常のクーラーで対応し、夏季にはスタッフが汗だくになって作業するという。破損などの修復は、通常の修理は常勤スタッフが館内で行う（大幅な補修は外注）。

表紙にビニールコーティングをほどこし、補正テープを付けホチキスを止め直す。古い雑誌はパラフィン紙でカバーし劣化を防ぐ。複写サービスでの大きな問題はコピー作業中での背割れ。これも補修ボンドにより館内で修復。

増設を繰り返しているためか、書庫や雑誌収納は複雑で、新人スタッフはまず雑誌の位置を覚えることから始めるという。

違法使用については、デジカメや携帯電話での盗撮や、大胆にも記事を切り抜いて持ち帰る場合もあるという。

### 2) 検索システムについて

通常の図書館十進法とは全く異なり、独自の索引を作り上げている。メタデータである索引は下記の大項目から、下層の中項目、小項目に分かれる。

01政治・その他	12公害	23賭博
02経済	13災害	24スポーツ
03農業	14犯罪・事件	25芸能・芸術
04世界	15心中・自殺	26マスコミ
05探検・移民	16世相	27宗教・思想
06天皇	17奇人・変人	28日本研究
07戦争	18世代	29教育
08右翼	19おんな	30言語
09左翼	20サラリーマン	31文学
10平和運動	21交通機関	32科学
11労働問題	22趣味・レジャー	33地方

(件名索引体系表)

例えば、大項目19“おんな”→中項目“おとこ”→小項目“ダメ男”のキーワードに行き当たる。索引体系については、順次到着する雑誌にページ数を振り、キーワードを既存の項目に振り分け、データベースに書き込んでいく。作業量は膨大であり、その背景には地道な努力と能力が伺える。また世相は絶えず変化し、情報が生き物であることがわかる。雑誌同様、マスメディアの放送においても、データ構築には長期の検証とルール作りが必要と思われる。

検索処理にかかる費用は、複写料でまかなわれる。モノクロ90円のコピー代のうち、実際の複写料は20円。あとの70円が分類整理のための料金という内訳。

データの誤入力チェック（人名など）も別スタッフが行う。バックアップはハードディスクに常の保存し対応。データ入力については、独自のシステムを使用（外注）。

### 3) 将来の展望

将来の展望として、デジタル化による雑誌データの閲覧の可能性を伺った。原則は雑誌現物の閲覧を貫くが、検索システムだけでなく現物のデジタル化も皆無ではない。

大宅壮一氏生誕100年を記念し、雑誌の創刊号をデータ化したCD-ROMを発売。

しかし、デジタル化には多大な費用が必要であ

り、技術の進歩によりその陳腐化も早く、現実的には難しい。

脚本アーカイブズの実現として、資料館のニーズ（ターゲットが誰か）、映像とのコラボレーションが必須ではないか等、ご意見を頂き、今後の方向性を考える上で有意義な取材であった。また、手作り感のある館内の様子や、丁寧なレファレンスぶりは共感が持て、脚本アーカイブズが目指すべき資料館であると実感した。

(石橋映里)

## 池田文庫

池田市は、大阪府の北部に位置し、大阪(梅田)から20分、人口およそ10万人の都市である。北には五月山、南には大阪国際空港があり、南北に細長い地形をしている。歴史的な町並みが比較的良好に保存されていて、阪急池田駅を降りて桜並木の続く閑静な住宅地を15分ほど歩くと住宅地の一角に池田文庫はある。

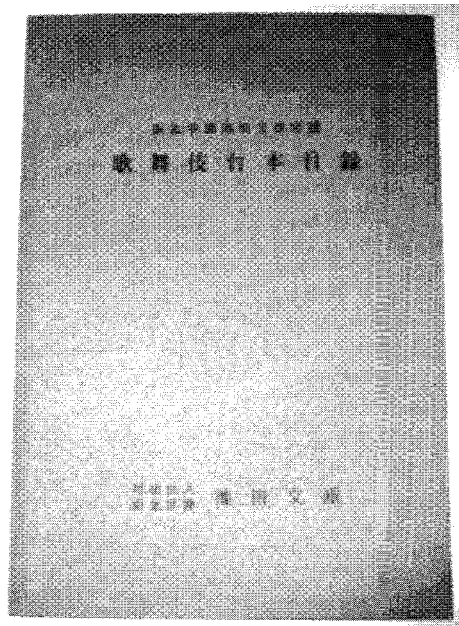
昭和24年に開館。現在約20万冊をこえる図書・雑誌が収められている。収蔵図書の約60%は映画・演劇・美術・文学に分類される。また、宝塚歌劇の創始者、小林一三氏の寄贈書や宝塚歌劇・阪急電鉄のポスター類、芝居錦絵などの歌舞伎関係の資料等が豊富に所蔵されており「東の早大演劇博物館、西の池田文庫」といわれる。

その沿革は「阪急東宝グループの創設者である小林一三(雅号・逸翁)が、明治44(1911)年に宝塚新温泉(後の宝塚ファミリーランド)を開業し、その一室に新聞や雑誌を置いたのが始まりです。この図書室は、宝塚歌劇上演のための資料を収集し、昭和7(1932)年設立の宝塚文芸図書館時代には、演劇専門の図書館として、映画・演劇書はもちろん、役者絵・絵看板・番付などの歌舞伎関係資料を精力的に収集しました。そして、池田文庫となった今、上方役者絵の所蔵は世界一であり、タカラヅカの宝庫としても、質、量ともに他に追随を許さないものとなっています。」(池田文庫ホームページより)

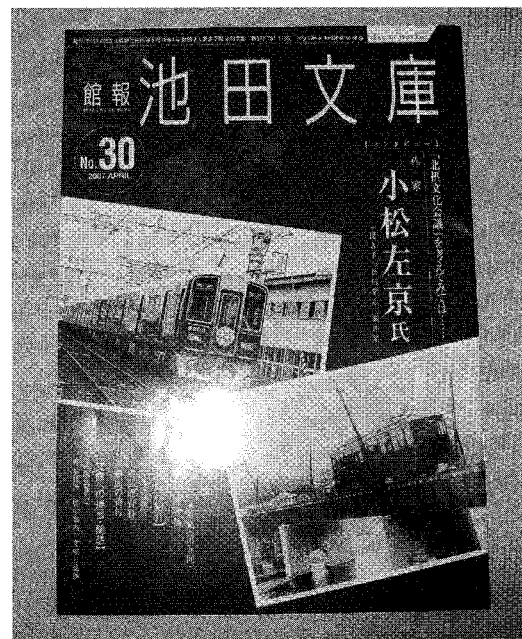
台本関係としては、歌舞伎台帳と、曾我廼家喜劇の台本を所蔵している。歌舞伎台帳は、「歌舞伎台本目録」(昭和45年刊)があり、曾我廼家台本は目録データをプリントしたものがあ。目録はいずれも閲覧複写ともに可能。歌舞伎台帳は随時マイクロフィルム化をすすめており、既にフィルムのあるものはマイクロリーダーで、未撮影のものは原本で閲覧できる。原本閲覧の場合は、貴重書のため、所属機関の紹介状と予約が必要である。曾我廼家台本はすべて撮影済みのため、マイクロリーダーで閲覧できる。マイクロリーダー

からの複写は1枚100円。

近くには小林一三氏の住まいを美術館とした逸翁(いつおう)美術館がある。小林氏の自邸を改造したもので、数寄者としても知られる氏が収集した陶磁器、書画、絵巻物、絵画などを定期的に展示している。コレクションは日本や中国さらには西洋渡来のものにまで及び、重要文化財なども数多く所蔵している。



歌舞伎台本目録



館報 池田文庫



## 在京民放ラジオ5局の脚本・台本の保存・管理・処理における調査

昭和26（1951）年9月1日午前6時30分。名古屋の中部日本放送（CBC）がラジオで、民放の第一声を伝えた。続いて正午には、大阪の新日本放送（現毎日放送・MBS）も開局し、この日からNHK以外の民放ラジオ局がスタートした。NHKテレビは、2年後の1953年2月に放送を始めるが、テレビの時代になるのは、1959年以降である。それまでのメディアのトップランナーはラジオだった。放送台本・脚本の原型はラジオからで、その歴史を考えると、ラジオ台本は重要な資料である。今回は、在京民放5局（TBS、文化放送、ニッポン放送、ラジオ日本、エフエム東京）を周り、調査に応じていただいた。

### 【TBSラジオ】

昭和26（1951）年12月25日、ラジオ東京（現TBSラジオ）が開局した。東京では最初の民放ラジオ局であったが、全国では6番目だった。当時のスタジオは、東京都千代田区有楽町の毎日新聞新館内にあった。現在の赤坂に移ったのは、1955年4月1日。テレビ放送のスタートに合わせた移転だった。現在、首都圏における聴取率調査では、2001年8月から2008年2月の調査まで、連続首位をキープしている。現在のAM局の主流となっている情報ワイド路線に先鞭をつけたのがTBSだった。1980年代後半から情報路線に編成方針をシフトした。それは、「大人のラジオ」への転換点でもあった。結果的にはその路線変更が現在のトップの原動力となったのである。

そんなTBSラジオの台本・脚本の現状はどのようなものか。残念ながら、生放送の台本に関しては、昔ほどきっちりとは作っていないという回答だった。以前はTBSサービスが台本を発注し、製本した台本が用意されていたが、時代が進んで、パソコンからプリントアウトしていくようになってきた。そして、進行表（Qシート）という形

と読む台本というものが、別に用意されるようになった。それらは、聴取者からの問合せのためにストックしてあるが、局としていつまで保存しておかなければならないという決まりはないそうだ。

そのなかでも、「小沢昭一の小沢昭一的ころ」は特殊で、台本は保存してある。それは、局で保存しているのではなく、小沢さんの事務所の方に保管してあるということだった。台詞のみの音源に関しては、TBS緑山スタジオの資料室で保管してあるとの報告も受けた。

また、資料室の方では、作家の遺族の方から、「保管してほしい」という依頼に対して、保管している台本・脚本はあるようだ。ただ基本的には、今後も台本・脚本の保存・保管は考えていないとのことだった。一方、音源に関しては、法定の半年間は、番組の同録を残すようになっているようである。

### 【文化放送】

新宿区四谷に文化放送が開局したのは、昭和27（1952）年3月。その「四谷村」とも呼ばれていた局舎を、2006年7月24日に浜松町へ移転したのは記憶に新しい。

そんな文化放送からは、失礼ながら思わぬ台本・脚本に対するシステムを聞くことができた。文化放送は、生放送に関して、半年から1年間、保存するよう局として定めているという。それは、聴取者からの問い合わせに対応してのことで、制作部のデスクが一日の生放送台本をファイル管理する習慣ができてきているようだ。録音番組に関しては、それぞれの担当ディレクターの管理となっているので、保存している番組とそうでない番組があるということだ。

ラジオドラマの脚本については、過去の脚本となると、音源としては残していても、脚本を残してあるケースは少ないようだ。ここ2年ほど「火焰太鼓「芝浜」という公開生放送ラジオドラマというのを放送したが、この場合、ラジオドラマの脚本があって、その前後に放送する進行台本も用

意されている。このドラマに関しては、担当者がしっかりと保管していた。

台本・脚本が捨てられていく現実については、「音源」という形で残しているの、脚本・台本を捨てているという感覚ではないという回答だった。文化を残していくことは、誰かがやらなければならない大事なことであり、局としても協力をすることは拒まないが、残すに値する台本・脚本の選択が難しいという意見をいただいた。日々の番組のなかで、全部の台本を残す必要はあるのか。残す番組と残さない番組の線引きをどうするのか。ただ作家との契約の中で、残すべき番組の台本を脚本アーカイブズへ提出することは、局としてできない作業ではない。今後の脚本アーカイブズの動向を見守りながら協力できることはお手伝いしていきたいという返事をいただいた。

#### 【エフエム東京】

エフエム東京では、生放送が中心のため、ほとんどの番組は台本と呼べるものではなく進行表というレベルとの前提で、基本的に台本・脚本の保存はしていないということ。今後も台本を保存する計画はないとのこと。但し、一部ラジオドラマ番組など、今後出版物として使用する可能性のある台本については保存しているとの事である。

脚本アーカイブズへの協力に関しては、他局の状況を見て足並みを揃えたいという回答をいただいた。

〈三原 治〉

#### 【ラジオ日本】

株式会社アール・エフ・ラジオ日本。現在の社名は1981年10月1日に、出力を30キロワットから50キロワットに増力したときに付いた。それまでの、ラジオ関東という名前の方がなじみという人も多い。ラジオ関東は、1958年8月15日に設立され、12月24日に放送開始。2008年は、開局50周年の年である。神奈川県の県域放送局という立場ではあるが、実際には関東一円、遠く近畿圏などからもリクエストのメールが届いている。

ラジオ関東時代は、女性アイドルや、ポートジョッキーなど洋楽番組も放送していたが、1982年、当時の社長が、編成を若者向けから、演歌や競馬、中高年を対象にした番組に変更。1989年には、若者向け番組から完全に撤退した。ポップスと洋楽が一切かからない局となった。このため、聴取率なども悪化し、スポンサー離れなどが発生したことも。

1980年代までの番組には、かなりの脚本構成された番組が残っていたと思われる。実際、大倉徹也さん、向田邦子さんが脚本を書いた番組などがあったという。しかし、脚本・台本に関しては、現在はほとんど残っていない。

本社は横浜。麻布台にあるのは東京支社であるが、番組のほとんどは東京支社から放送されている。

横浜本社の4階に保存庫があったが、台本などはなく、放送実施報告書の古いのが残っているだけだそうだ。かつては、保存庫に古い番組の台本なども保存されていたが、90年代の本社移転や、建て替え工事などが行われた際、大量に廃棄されたと思われる。

現在は、かつての演歌と中高年中心の編成だけではなく、若者向けの番組も放送されているが、台本などを印刷製本に出して放送している番組は無い。これはワープロやパソコンでの台本作成が当たり前になったからである。局として台本を保存、保管するということも行っていない。台本のデータは、作家個人が残しているだけと思われる。また、制作費の削減により作家を使わないで作られている番組も多数存在する。

なお、1993年、社長解任劇が起こり、社長一族の株式を日本テレビ放送網が買い取ったとのことで、現在は日本テレビグループの中波ラジオ局である。

〈東海林 桂〉

#### 【ニッポン放送】

昭和29（1954）年7月15日全国36番目、東京で3番目の本放送開始したニッポン放送

---

は今年（08年）で開局54年目を迎える。

開局50周年記念の2004年有楽町に再移転した。それまでは本社およびスタジオは、1997年3月24日～2004年9月5日の期間、社屋建て直しのため、東京都港区台場のフジテレビ本社ビルにあった。

レコード・CDの所有枚数は約22万枚。これはNHKについて多く、民放では最多である。放送そのものの音源については2001年から24時間同録が行われ、保存措置がとられている。しかし、台本・脚本は組織として所蔵・管理してはいないということである。2度の引越しに際して、残存していた台本・脚本および企画書を含む関連資料は散逸したとのことである。

それよりも、問題は台本・脚本を必要とする番組がないということが根本の原因として考えられる。開局当初、民放の草創期には各局競って作られていたラジオドラマが作られなくなり、それに伴って製本された印刷台本・脚本も作られなくなったのである。これはニッポン放送に限らず、各ラジオ局に共通の現象と思われる。

現在、ナマ用の進行台本が作られてはいるが、いずれもPCで作成されたものをコピーして少人数のスタッフに配布されている。手書きの時代と比べて見栄えのよいプリントが共有できることから、わざわざ製本したものは必要ないというわけである。

ラジオドラマの時代から「生ワイドパーソナリティー」路線に転換したラジオ局はラジオドラマとともに台本・脚本も捨ててきたというのが現状である。作りこんだ作品ではなく災害に即応するなどの生情報に特化されてきているのも時代の趨勢か。

それに伴って、ラジオドラマを作ることが出来るディレクターはじめ効果マン、ミキサーなどの人材を育成してこなかった。「完パケ」を作るという達成感のある仕事からも遠のいている。スポンサーも制作に手間と時間のかかるラジオドラマに資本を投下しようとはしない風潮も背景にある。

台本・脚本の保存管理がステーションでなされていない。その代わりにわれわれがアーカイビングするという意味は台本・脚本が消滅した時代に「昔はどんな番組にも台本・脚本があつてね……」と昔語りをするためだろうか？

変貌する「現在」と向き合いながら、未来に進むためには過去に何が起こったか、出来るだけ正確な理解が必要である。その元資料・資産としての台本・脚本が将来の実りをもたらす種であることを知っているからである。

〈津川 泉〉

## ラジオ全盛期。そして、テレビ時代のラジオ

### 終戦、そして復興期のラジオ放送

(1945年～1950年)

1945年(昭和20年)8月15日、長い戦争が終った。「同年、12月には、ラジオから戦後初のヒット曲“リンゴの歌”が流れ、暗く辛い戦争から解放された一般大衆にとって、ラジオ放送は、最も身近な娯楽となった……」と書くと、いかにももっともらしいが、当時の朝日新聞のラジオ欄を検証すると、そう簡単に、戦前のような勢いを取り戻したわけではなかった事がうかがえる。

昭和20年3月と、1年後の昭和21年3月のNHKラジオの編成を比較すると、早朝の「戦う物資の話」が「綿羊の話」に。午前9時～10時台の「軍国歌謡」が「ピアノ・ヴァイオリンの演奏」に。午後6時台の「少国民歌集」が「童謡の時間」に。そして、夜7時～9時台の講演「戦略爆撃と戦術爆撃」が、「農業界の民主化は農民の手で」に変わっているだけで、まるで、戦時下の

番組編成を、そのまま民主化啓蒙路線に置き換えたような投げやりさを感じてしまう。

むろん、放送人たちも、戦後の混乱の中、精神的にも肉体的にも疲弊していたであろうし、GHQの統制下、思い通りの編成を組む事が出来なかったという事情があったにせよ、この内容では、まだまだ「戦後、ラジオは国民の最も身近な娯楽になった」と言うわけにはいかないような気がする。

放送が、再び、本来の活力を取り戻しはじめ、それがハッキリとラジオ欄から読み取れるのは、昭和22年からである。

それまでは、実用的な話題と、録音した音楽の垂れ流しのような番組がほとんどを占めていたが、報道、ドラマ、娯楽番組の各分野で、作り手の意図や、脚色・構成された痕跡が読み取れる番組が次第に数を増やしていく。

報道分野で現在も語り継がれている、銀座のパンパン(米兵相手の売笑婦)を藤倉修一アナウンサーが突撃取材した「街頭録音～ラク町のお時」が、まさに、昭和22年4月の放送で、この年のラジオ欄を眺めると、古川ロッパ主演の「轟先生」や「盛り場の子供たち」といった連続ドラマが息を吹き返し、さらに、「鐘の鳴る丘」、「向う三軒両隣り」といった放送史に残るような名作が、この年に誕生している。

また、娯楽バラエティー分野でも「探偵コント集～凍った湖」といった新しいジャンルに挑戦した痕跡があり、音楽芸能分野も、従来のただ録音した音楽を聞かせるだけの番組構成ではなく、「音楽喫茶店」「空の劇場」といった、題名を聞いただけでも創意工夫の感じられる内容が増えはじめ、「話の泉」「二十の扉」という人気番組が次々と生まれ、同年10月には、ラジオバラエティー史上、最大の話題作「日曜娯楽版」の放送が始まる。

こうした番組のいくつかは、GHQの指導のもとで企画・制作されたそうだが、日本のラジオは、この民主化統制を逆手に取り、昭和22年以降、まるで、これまでの鬱憤を晴らすかのように、国

ラジオ	
<p>六・二〇 綿羊の話 三浦道雄(七・四五) 今度の検閲は就いて 二(一) 宮藤俊郎(八・ 三〇) 筆曲・上原誠佐 喜外(二〇・〇〇)と ふくと死の手・加藤幸子(二〇 ・三〇) 藤田潔内・板垣真子(二一 ・〇〇) 七職簿に生きた・馬高邦 雄・陽歌・埼玉藤加須町国民校児 童(二〇・一五) マンドリン合奏・ 高田聖園(二一・〇〇) (二) 日本婦人 と政治(終山形誠二(三) ヴァイオリ ン・獨奏・西川國枝(最近の映樹に ついて・山本恭子(二二・〇〇) ケン ブリッヂの學生生活・近藤イネ子 (四・〇〇) キュリー夫人傳・</p>	<p>北條彌(五・三〇) 露崎ひな枝(二 中根彌子(六・〇〇) 歌麿組曲・ 松原操(七・三〇) 獨唱とピアノ 獨奏・内本実・永井進(八・〇〇) 座談會(失笑録)とるへき手際 吉田忠一(外(九・〇〇) 働く人の 生活問題(婦人記者の場合・露治 登美枝・赤松雪子(八・三〇) 世 界を踊り廻る・鹿野俊雄(九・一 五) 職業界の民主化は農民の手で ・金井潤(四三) 放送(前六・四 五) 文學と政治(三) 櫻水直(後 五・〇〇) 朗讀(文) 山田潤(五 ・三〇) 學生音楽の時・合唱・ 武蔵野音楽學校合唱團(七・〇 〇) 劇団陽の石(小島たかし(外八 ・三〇) 舞台と合奏・平塚幸子(東山</p>

昭和21年3月2日のラジオ欄

民の娯楽メディアとしての地位を築き始めるのである。

## ラジオ黄金期と、民放の誕生

(1950年～1960年)

1951年(昭和26年)9月に対日講和条約が調印され、その翌年の昭和27年、日本は独立し、GHQが廃止された。

この年、連続ラジオドラマ史上の不朽の名作「君の名は」の放送がはじまる。現在、あらゆる放送史が、「君の名は」を、終戦直後のラジオドラマとして、昭和22年放送開始の「鐘の鳴る丘」や「向う三軒両隣り」と同列に扱っているが、時代背景と照らし合わせてみると、やや大雑把な印象を否めない。激動の時代における5年のタイムラグは、意外に大きいのである。

「君の名は」は、GHQの占領政策や民主化指導の監視下で制作された番組ではなく、独立国日本が、当時の国民の現実や、願望、そして期待をも盛り込んだ上で作りあげた、壮大な恋愛劇であり、戦後の純国産の娯楽番組は、この「君の名は」によって産声をあげたと言っても過言ではない。

この昭和27年のラジオ欄を見ると、子供向け番組にも大きく刷新された痕跡を発見する事が出来る。これまでの「鐘の鳴る丘」や、「子供の時間 三太物語」という人気番組にも、どこか民主主義の啓蒙を目的とした教育的色合いが存在したが、この年、放送を開始した北村寿夫の新諸国物語シリーズ「白鳥の騎士」や「笛吹童子」「紅孔雀」となると、教育色は影をひそめ、伝奇小説風の大冒険活劇という娯楽性の強い内容となり、大人も子供も巻き込んだの大ヒット番組となった。

折しも、この時期、放送法の改正により、日本放送協会は、社団法人から、公共放送へと体制が変わり、新生NHKとして再スタートを切ったばかりで、そのキャッチフレーズは、「国民とともにある放送」であった。

ラジオ放送は、そのキャッチフレーズのとおり、いよいよ、国民の娯楽として、映画と肩を並べる

ほどの黄金期を迎えるのである。

1951年(昭和26年)、名古屋中部放送の試験電波送出を皮切りに、民放のラジオ放送がスタートする。

昭和27年10月には、全国で16局の民放ラジオ局が生まれ、民放は、より娯楽色の強い編成を組んでNHKに対抗していく。おかげで、ラジオ放送全体の娯楽化は加速度的に進み、この時期に誕生した名番組は枚挙に遑(いとま)が無い。(「やん坊にん坊とん坊」「チャッカリ夫人とウツカリ夫人」「1丁目1番地」「お笑い三人組」「架空実況中継」「蝶々・雄二の夫婦善哉」「お父さんはお人好し」「日曜名作座」「広沢虎造の清水次郎長外伝・石松代参」等々)

「お笑い三人組」や「夫婦善哉」が、後にテレビ番組化されているのを思えば、この時期のラジオが、国民の娯楽として、テレビと同じ役割をしていた事がお分かりいただけると思う。

また、昭和30年代に入ると、民放各局は、当時の少年漫画の流行に目を付け、「少年」「少年画報」等に連載している人気漫画のラジオドラマ化が急増する。武内つなよしの「赤銅鈴之助」、横山光輝の「鉄人28号」、桑田次郎の「まぼろし探偵」、山川惣治の「少年ケニヤ」などである。そして、この時期、ラジオにかじりつくようにして漫画のドラマに熱中した世代が、およそ10年後に、深夜放送の聴取者として、ラジオに回帰していく事を特筆しておきたい。

## テレビ時代の到来

(1960年～1970年)

「平成17年度の日本脚本アーカイブズ調査・研究報告書【I】」の22ページに、私たちは、放送の歴史を象徴する、新聞のラテ欄の写真を掲載した。1961年(昭和36年)の4月1日。新聞紙面のラジオ欄と、テレビ欄の配置が逆転してしまうのである。

昭和28年に放送を開始したテレビ放送は、わずか5年数ヶ月で、ラジオ放送を脅かし、追い抜

く存在になったのである。

テレビ時代を迎えてしまった、ラジオ放送人たちのショックは計り知れないものがあったと思う。有能なディレクターや、脚本家、構成作家は、皆、テレビに流れ、残ったのは、音だけで表現する世界に愛着とプライドを持った数少ない人材と、大所帯の制作現場よりも、一人でコツコツとモノ作りに没頭できる環境を選んだ、風変わりな人材だけであった。

そのためか、1961年～1970年頃までの新聞のラジオ欄を眺めても、特筆すべき番組が誕生した形跡は、皆無と言っても良い。

とはいえ、テレビ時代に、ラジオは何を放送すべきかの答えは意外に簡単に出了らうようで、1965年前後の新聞のラジオ欄を見渡すと、すぐに、その意図は読み解く事ができる。

結局、NHKも、民放も、早朝6時から、放送終了の午前0時まで、編成のほとんどを、音楽・歌謡番組で埋めて行くのである。

それは、ちょうど、現在のFM放送と同じような音楽主体の編成で、テレビが見るものを釘付けにして成立するメディアならば、仕事をしながら、あるいは勉強をしながら、ちょっと軽く音楽を流すためにラジオのスイッチを入れるといった、“ながら聴取”が出来る番組作りへとシフトしていった事が分る。

いまから3年前、この時代の民放ラジオディレクターを取材をした事があるのだが、その証言によると、「テレビ時代のラジオは何ぞやを考えるのがラジオマンの仕事だったが、テレビ・映画はもとより、雑誌、新聞ですら、まったく話題にもされないメディアに成り下がってしまった以上、

NHK	TBSラジオ	文化	ニッポン
<p>0 05 話の広場</p> <p>1 ラジオ体操 北林武男</p> <p>2 自然「長崎島の春」</p> <p>3 05 くらしのニュース</p> <p>4 婦士の話題</p> <p>5 NHK特派員報告</p> <p>6 05 バイオリン協奏曲第2番 (パツパ)</p> <p>7 05 私のダイヤル</p> <p>8 専断くらべ 児童音楽</p> <p>9 05 音楽くらべ 飯沢暎</p> <p>10 05 円舞曲集「燈の歌」(ブラムス)</p> <p>11 05 松下正潔に捧げる 柳瀬部亮吉、向部誠一</p> <p>12 05 飛曲「下田のお吉」松平洋子</p> <p>13 第20回NHKのど自衛会全国コンクール</p> <p>14 05 これからの農村はどうか 武田雄三、大島清博</p> <p>15 05 若い仲間「病込み作戦」祝田俊生、味の家合朗朗</p> <p>16 報道特集 録音構成「ある陳情」</p> <p>17 05 解説広瀬嘉夫 政治座談会「地方政治の現状をどうみる」奥野誠一、安井吉典、長谷部忠</p> <p>18 05 交響曲第4番「イタリア」(メンデルスゾーン) N響</p> <p>19 05 スポーツ 茨城劇場「再び花へ」加東大介、山口知子他</p> <p>20 05 スキー・スケートシーズンを楽しむ 朝のハーモニイ05</p>	<p>6:00 05 (毎日) コーラス</p> <p>6:25 私たちの持てた生活</p> <p>7:00 05 歌のない歌謡曲</p> <p>7:30 藤木謙生「風雲録」</p> <p>8:00 05 木暮実千代</p> <p>8:20 こども音楽コンクール</p> <p>8:50 武蔵野スケッチ(楽内)</p> <p>9:00 05 ヒットパレード</p> <p>9:35 ロック・アラウンド・ザ・ワールド 若山政敏</p> <p>10:10 「ビギン・ザ・ビギン」ピート・フアウンテン</p> <p>11:00 スクリーン・アンド・ポップス ヒルラ他</p> <p>12:00 05 今週のベスト・テン(スーザン)他</p> <p>13:00 05 民謡のどくらべ ゲスト中沢銀河</p> <p>14:00 05 L.S.アワー(レイ・ボース、ヘンリー、黒沢年男他)</p> <p>15:00 ミュージック・ラリー</p> <p>16:30 歌の問屋 井沢八郎他</p> <p>17:00 05 坂本歌一楽団</p> <p>18:20 ダイヤモンド・ハウエー 今週のメモ、音楽</p> <p>19:30 こども音楽コンクール 東日本優勝大会(中学)</p> <p>20:00 ゴルフ・ジョッキー</p> <p>21:30 ラジオ夕刊05</p> <p>22:45 歌謡曲でぶっどばせ 司会立川謙哉、杉里子 ゲスト加賀城みゆき「恋風」</p> <p>23:54 紅のメロディ(伊東ゆかり)</p> <p>24:00 歌謡バラエティー「開治百年」(西郷どんから王ちゃんまで) 芥川隆行</p> <p>25:00 ダーク・ダックスと遊ぼう「早稲歌、銀色の酒」</p> <p>26:30 歌三波春夫、畑田利夫他</p> <p>27:00 05 今宵方陣子と落語「やぶ医者」小さん</p> <p>28:45 名流小唄集 春日とよ喜</p> <p>29:00 05 ザ・ローリング・ストーンズ</p> <p>30:35 スティープ・ローレンス</p>	<p>6:00 関東慶応局花より</p> <p>6:15 第30 聖地本願寺</p> <p>6:40 浄土家の時間05</p> <p>7:00 水田大蔵大巨匠に聞く</p> <p>7:25 聞るくらし05</p> <p>8:00 心に歌を中央競馬</p> <p>8:30 現代問題「危険な年号」</p> <p>9:00 永井雅雄、小山節子</p> <p>9:45 歌の三箇録05</p> <p>10:00 特集「世界音楽旅行に行こう」パリの空の下</p> <p>11:00 私と貴方の三つの歌</p> <p>11:30 歌 加山雄三、嵐月酒</p> <p>12:00 レンカ・ジェンカ楽団</p> <p>13:30 北村謙アマガタリスト</p> <p>14:00 「マンハッタン」の真意」モリスルクレール</p> <p>15:30 前立藤原大定陶管住郎</p> <p>16:00 スイート・スイート・スイート アダモ他</p> <p>17:00 映画音楽「アルフィ」大地剛志、ハワイ」他</p> <p>18:00 歌北耕一、仲宗根英樹</p> <p>19:30 歌舟木一夫、藤ひろ子</p> <p>20:00 歌山内真、和泉雅子他</p> <p>21:25 歌のパレード 水原弘由美かおる、朝丘雪路</p> <p>22:00 世界のヒットパレード</p> <p>23:30 「めまい」徳増厚二</p> <p>24:45 ニュース・パレード05</p> <p>25:00 深静しき日曜日 今週のスター 水原弘05スターパトロール 吉田正他</p> <p>26:00 9500万人のポピュラーリクエスト 小島正雄</p> <p>27:30 歌えリズムボックス</p> <p>28:00 世代交差点「あなたの息子を信じなさい」</p> <p>29:30 岩元「子守」嵐月太夫他</p> <p>30:00 座談会「新版・版権討論」萩山豊、半井信彦他</p> <p>31:30 「実用英語」東野イツ子</p> <p>32:00 大学受験基礎知識講義 入試問題解説「英語」</p> <p>33:00 「数学Ⅱ」尾野功</p>	<p>6:00 きょうも明るく</p> <p>6:15 にをいかけの時間</p> <p>6:30 05 世の光</p> <p>7:00 朝霧への出発谷口雅春</p> <p>7:30 レジャーネットワーク</p> <p>8:15 こどもクイズリーグ歌</p> <p>8:45 歌謡ベスト・テン</p> <p>9:30 スター・ハイライト、ショー ゲスト桐光夫</p> <p>10:00 リクエスト合戦</p> <p>10:30 歌舟木一夫、藤ひろ子</p> <p>11:00 トップ・ライトの「お笑い二人三脚」三井小粒</p> <p>11:35 歌謡ショー 永木二郎他</p> <p>12:00 ヒット・パレード</p> <p>13:30 サンデー・ダーク・ダックス 河合勇男</p> <p>14:00 夫婦艶曲 藤々、雄二</p> <p>15:30 歌 春木新一他</p> <p>16:00 歌謡センター(ゲスト) ロミ山田、月の家円鏡</p> <p>17:00 みんなで歌いましょう</p> <p>18:35 歌 ベギー、リー集</p> <p>19:00 ドライブミュージック</p> <p>20:30 ヒット・パレード</p> <p>21:00 「フライング」ベルベット・ストリングス</p> <p>22:30 歌 モンキーズ他</p> <p>23:00 青春歌謡曲</p> <p>24:15 夢声の医学問答030</p> <p>25:40 新入社社に望む中山三郎</p> <p>26:00 今頃は電路で守田鹿弥</p> <p>27:30 ローリング・ストーンズ 特別レディ・ジョーンズ</p> <p>28:00 歌 肝塚二、加藤登紀子 目野てる子他</p> <p>29:30 大木博の歌謡ジャーナル</p> <p>30:00 歌 シェルモン・モンキーズ おしゃれなおしゃれなおしゃれなジョッキー</p> <p>31:00 レコード・ジャーナル</p> <p>32:00 歌え若者たち 歌ブルー・コモツ、徳永伸他</p> <p>33:00 ラジオ劇場「限りある日を懐け生きて」岩本孝代</p> <p>34:00 ラジオ・チャペル05</p>

歌謡番組で埋めつくされるラジオ放送

再生する方法を考えるのは容易ではなかったし、内心、再生する可能性は無いと思っていた」と語った。

しかし、その証言者が、一縷の望みを感じた番組とタレントがいた。

それは、1965年（昭和40年）に文化放送ではじまった「真夜中のリクエスト・コーナー」という番組で、進行役は、当時、局のアナウンサーだった土居まさるであった。

彼の繰り出す、若者と対等のナマの言葉や、聴取者に直接話しかけるようなフリートークの過激さは、当時のラジオにしてみれば革新的なもので、番組は、音楽番組の枠を越えて、日本のラジオ深夜ディスクジョッキーの草分けとして放送史に名をとどめる事になる。そして、この土居まさるのスタイルが一つの萌芽となって、ラジオは、次の10年間、再び脚光を浴びる事になるのである。

## 深夜放送のブームによる、ラジオの復権

（1970年～1980年）

1960年代半ばから、その数を増やし続けたラジオの音楽番組も、人に聴かれるためには、作り手のセンスが必要であり、音楽と音楽の合間に、軽く邪魔にならない程度のポエムや、世相を盛り込んだトーク、風刺的な笑話等が盛り込まれるのが常だった。つまり、脚本・台本作家の仕事も、重要な役割を担っていたのである。

日本脚本アーカイブズの貴重な財産のひとつになっている向田邦子のラジオ台本「アナタと夜のハーモニー」は、まさにそうした時代の産物であり、放送開始は1970年。流麗な語り口の中に、ドキッとすると鋭い毒を盛る台本は、さすが向田邦子という印象を持つが、ラジオ全体の流れは、残念ながら、脚本・台本の存在を否定する方向に流れて行く。

1967年、日産自動車が、モータリゼーション化の流れの中、深夜にハンドルを握るドライバーが急増した事に目をつけ、そうしたドライバーの為に、深夜0時～早朝5時の時間帯に、音楽と

トークを聴かせるアメリカのディスクジョッキースタイルのような放送が出来ないかとの提案を、TBSラジオに持ちかけてくる。

かくして6人の若手ディレクターたちがプロジェクトチームを組み、日本初の終日深夜放送「日産パックインミュージック」をスタートさせるのだが、当初は、戸川昌子、増田貴光、矢島正明などを起用し、アダルトな雰囲気音楽番組を目指していたものの、予想に反して、当時、まったく無名だった声優の野沢那智・白石冬美の担当日が、大学生や受験生にウケにウケ、番組は、すぐに、北山修や、吉田拓郎、愛川欽也を起用して、若者向けの番組へと路線変更する。

この番組の魅力は、ディスクジョッキーが、聴取者の書いたコントや、爆笑体験談、あるいは、深刻な社会問題について触れた手紙をひたすら読む事で成り立っていて、インターネットもブログも存在しない時代、若者が、自由に社会に対して自己主張出来る場として機能しはじめる。

その「パックインミュージック」の誕生から3ヶ月後、ニッポン放送が、糸居五郎、斉藤安弘、今仁哲夫といった局アナを起用して「オールナイトニッポン」の放送を開始する。やはり、この番組も、当初は音楽番組的要素が強かったが、ハガキを通じた聴取者との対話を重視する路線に変更し、その路線の代表者である亀淵昭信と斉藤安弘は、「カメ&アンコー」として、若者たちのカリスマ的存在になって行く。

そして、2年後、文化放送も「セイ!ヤング」をスタートさせ、土居まさる、みのもんた、落合恵子、せんだみつお、谷村新司を起用し、当初から、聴取者からのハガキや手紙に的を絞り、リスナーとの対話を重視したトーク番組として、深夜放送全盛期を支えて行く。

この深夜放送ブームによるラジオ復権のおかげで、深夜以外の時間帯でも、そのエッセンスを盛り込んだユニークな番組が次々と制作され、それらもまた、若者たちの人気を呼んだ。「ヤングタウン東京・桂三枝の大放送」「中村メイコの私のロストラブ」「かぜ耕士のたむたむたいむ」「大橋

照子、齊藤洋美の「ラジオはアメリカン」「鶴瓶・新野のぬかるみの世界」などがそれである。中でも、夜9時代に放送された「欽ちゃんのドンといってみよう!」は、その人気もさる事ながら、常連投稿者を「パジャマ党」という構成作家集団に積極的に招き入れた事により、後の構成・バラエティ作家の登竜門としての役割を担う事になる。

また、午前0時30分の枠で放送されたアマチュアミュージシャンの発掘番組、「コッキーポップ」は、NSP、小坂明子、中島みゆき、谷山浩子、長淵剛、世良正則とツイスト、あみんなど、後のビッグアーティストを数多く輩出し、ニューミュージックブームの大きな火付け役となる。

こうしたラジオの追い風は、ドラマ分野にも波及し、文学座が「日本沈没」を映画に先駆けて連続ラジオドラマとして放送し、劇団未来劇場は「深夜版ラジオマンガ」という、ちょっぴりエロティックなコメディードラマ枠を持ち、約10年間に渡り、「片目のダルトニアン」「明日は帰ろうオデッセイ」、「竜馬の胸に赤い薔薇」等の人気作品を産み出していく。また、「梶原一騎の「愛と誠」」や、「オリベッティ劇場・江戸川乱歩シリーズ」、「夜のドラマハウス」、「ラジオ図書館」など、いずれも、青年層に焦点を絞り込む事によって、ラジオドラマの分野も、ものの見事に復活したのである。

### そして30年の歳月が流れた……。

(1980年～現在まで)

深夜放送の加熱したブームも、1975年を過ぎると、だいぶ落ち着いたものへと変わり、ちょうどこの頃から、ステレオカセットデッキや、ステレオラジオセが一般市民にとっての普及価格帯に下がり、若者たちの間で、FM放送をエアチェック(録音)する習慣が根付きはじめる。音楽をじっくりと聞きたい層はFM放送へ、ディスクジョッキーのトークが好きな層はAM放送へと、聴取者が二分化していく傾向にあった。

それまで、「ジェットストリーム」に代表される軽音楽や、クラシックやジャズといった音楽を専門に流してきたFM放送も、こうした動きに合わせたかのように、「日下武史の“あいつ”」、「クロスオーバー11」「片岡義男と安田南の気まぐれ飛行船」といった、AM色の強いトークやドラマ性を盛り込んだ音楽番組を制作し、AMの深夜放送を卒業した世代を巧みに取り込んで、ちょっとしたブームとなった。

しかし、この二分化によって、聴取者というパイを二つに分け合ってしまった事で、AMラジオの聴取者は、ゆるやかに減少し、同時に、FMラジオも、移り気な若者をターゲットに据えた事により、もともとのファン層であった、クラシックや、現代音楽、ジャズの愛好者が離れて行き、1982年、FM放送よりも遥かに高音質のCDが登場し、レンタル店が急増した事によって、加速度的に聴取者が減少してしまう。ラジオは、再び、長く、そして出口の見えない深刻な低迷期を迎えてしまうのである。

1980年代以降、ラジオがマスコミで大きくクローズアップされたのは、公募によって選ばれた女子大生をディスクジョッキーとして採用し、齊藤慶子、川島なお美、向井亜紀といったタレントをスターダムにのせ、女子大生ブームの火付け役となった「ミスDJリクエストパレード」が印象に残る程度で、ラジオが一般市民の大きな関心事となる事は、ほとんど無くなってしまった。そんな先細りの状況が続いた後、1990年の不定期放送から、2年後にレギュラー放送として定着し、いまもなお揺るぎない人気を保つNHKの「ラジオ深夜便」が誕生したのは特筆に値するが、対象としているリスナーが高年齢層に絞りこまれているためか、誕生後80数年が過ぎたラジオ放送の、老いさらばえた姿を目にしているようで、一抹のさびしさを感じるのは、私一人ではなからう。

やや、ラジオ放送史を深追いしすぎた嫌いがあるので、ここで、話題を、本題に戻そう。

一昨年度、我々が、テレビからはじめたラテ欄



の検証の狙いは、ラジオ・テレビ番組の年代別の傾向分析を行い、「その中で、脚本・台本はどう位置づけられてきたか」を探る作業であった。

ラジオ放送に関しては、当初から1980年代以降を検証しても、多分、無駄であろう、との予測をたて、昨年度の報告書にも、その理由を簡単に記したが、結果は、その通りとなった。

1970年代の深夜放送ブームを皮切りに、ラジオは、ディスクジョッキー、あるいは、パーソナリティーと呼ばれるタレントのフリートークが中心になり、その話題も、聴取者のハガキや、手紙、あるいは、電話やFAX、Eメールを紹介しているので、こうした番組には、脚本・台本の介在する余地がない。番組進行表と呼ばれる一枚のタイムスケジュール表で、事たりてしまうのである。

新聞のラジオ欄から、脚本・台本が存在する番組を推定する事は不可能で、唯一、読み取れるのは、NHK-FMの「FMシアター」と、「青春アドベンチャー」というドラマ枠だけになってしまった。

だが、今回、あるラジオ制作会社のディレクタ

ーを取材したところ、「70年代の末から80年代の半ばに量産された15分～30分の、アイドルトーク番組は、一聴するとフリートークのように思えるが、実は、一言一句のセリフを書くほど、綿密な台本が用意されていたし、少し遅れて各局が制作したアニメ声優番組も同じように台本どおりに制作していた」という。

その台本のほとんどは、ディレクターの手によるものだったが、日本脚本アーカイブズが収集を続けていれば、「えっ、このゆるゆるのラジオ番組にも、その雰囲気 연출するための綿密で巧みな台本が存在していたのか!」と、驚くような脚本・台本を入手する可能性が皆無とは言えない。

将来、そんなラジオ台本とめぐり逢える日を夢見て、本稿を締め括る事にする。

(高梨安英)

研究調査部 部長 津川 泉  
高梨安英  
石橋映里  
三原 治

# 『映画関連企業資料のアーカイブにおける問題点』

2007. 8. 18 (勉強会報告)

講師：加藤厚子氏 (映画専門大学院大学准教授)

著作「総動員体制と映画」など。

はじめに

映画関連企業資料とは、経営資料+生産物(作品)に付随する資料を指し、絵コンテ、台本、進行表などがあげられる。

勉強会では①映画関連資料の特徴分析と問題点②国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)における映画関連資料の取扱い方の検討③大手映画会社の企業資料の現状分析という三点を踏まえ、映画関連資料の調査・保存・公開・利用に関する多くの課題を講義頂いた。その内容およびレジュメを抜粋し記載する。

## 1. 映画関連企業資料の特徴

### (1) 映画に起因する特徴

一般的な意味での芸術(ファイン・アート)ではなく産業芸術(インダストリアル・アート)である。

映画製作において、オリジナルネガ以外に膨大な資料が派生するのも特徴。また、企業資料が映画の表出に不可欠な情報も有している。

### (2) 調査・分析の問題点

映画関連企業資料へのアプローチは困難であり、その多様性に伴う整理は難しい。撮影所の独立性が非常に高いことや映画会社の統廃合により資料が散逸する点も要因である。

資料の分類方法については問題も多い。

## 2. 映画関連企業資料の現状

### (1) FIAFにおける映画関連企業資料の位置づけ

FIAF(国際フィルムアーカイブ連盟)は1938年に設立、世界各国のフィルムアーカイブが加盟し、

映画遺産moving picture heritageの保全を行う。2006年には141機関が加盟。日本は1989年にフィルムセンターが正会員として、2004年福岡市総合図書館が準会員として加盟。

映画関連企業とアーカイブ機構との関係については、企業側が保有する企業資料の公開を行い、公的機関と情報を共有・リンクさせる必要があり、可能な限り公開・利用が行われるべき。

### (2) 我が国の映画関連企業資料の現状

戦時体制下では半官半民の大日本映画協会が一部の映画の保存を行っていた。

戦後、第二次日本映画黄金期を迎え、松竹・東宝・大映・日活・東映の5社が確立し、各社統廃合を繰り返すうち、映画産業企業資料は散逸し、各社、各種団体、個人コレクターの元におかれていると思われる。これらを可能な限り調査対象に含め、散逸を防ぐ必要がある。

(cf. The National Archives所蔵のGHQ検閲台本も存在する)

### (3) 国立近代美術館フィルムセンターによる資料収集の状況

国立近代美術館フィルムセンター(FC)は1952年国立近代美術館の映像部門として開設され、1970年にフィルムセンターとして開館。収集対象は、映画フィルム、関連資料(機材、現物資料、文献、書類)であり、選択主義でなく網羅的に収集。現在では約4万8300本の登録が完了している(2007年3月末調べ)。公開・展示・供覧、アクセスに対する対応を行っている。

現在までに製作された映画の本数は、1910~2000年の間に劇場映画3万2000本と推

測されている。そのうちFCが収蔵する割合は15.9%。天災・戦災による消失に加え、戦後、GHQからの呼びかけでネガフィルムの提出が求められた際、戦犯を恐れた映画会社が焼却処分したことも消失の大きな要因。

映画企業関連資料については、どの程度保管されているかは不明。しかし、映画の適切な保存・公開・利用において、企業資料は非常に重要。企業資料として公開される「社内形式知」のみならず、非記録状態の知識資産＝「社内暗黙知」をオーラルヒストリー（聞き取り）などで表出化し、保存公開すべき。

FIAFにおいて社内暗黙知が活用された例：昼のシーンを夜間のシーンとして誤って復元しようとした際、当時の製作関係者の聞き取り調査により、誤り判明。

### 3. 映画関連企業資料の調査・保存・公開・利用について

#### ①早急な資料の保全・調査の必要性

映画産業をめぐる状況はここ10年で急変している。2000年以降、他メディアとの融合が行われ、映画会社、映画関連企業として企業資料の蓄積が失われる可能性がある。早い段階からアーカイブ学に立脚した資料の保全が急務。

#### ②多様な性格の資料群を包括する整理・保存体制の確立

映画（コンテンツ＋キャリア）に付随する現物資料、企業記録の間に情報の連関性がなく、分散保管が現状。細分化された企業間がリンクし、映画関連企業資料を保全することが必要。

現在、リメイクなどが盛んに行われ、白黒映画に色づけしたりドルビーサラウンド化し再利用する例がある。この場合にも、企業資料の存在により可逆性（オリジナルの状況に戻す）が可能になる。

#### ③企業資料の公開に伴う法的問題の確認

問題回避のための消極的公開ではなく、公開を前提とした調査により諸権利の解釈や交差状況を明確化し、諸権利の問題点を抽出し、その改善の

端緒とすることができる。これが次の研究や商業的利用にも繋がっていく。

#### おわりに

映画をめぐる研究ではフィルム（コンテンツ）の保存が第一であり、産業芸術としての視点が欠落し、企業資料の重要性が看過されてきたが、日本の経済活動における映画産業の位置付けを示すものとして、企業資料は過去から現在に連続する事象であり、映画産業の将来の指向を内包するため、保存・整理・公開が必須の作業である。

#### 講義後のまとめ

質疑応答では、「台本は原作者のものでは？」という意見や、映画において著作者が軽んじられる傾向にある、など著作者側らしい意見も出された。今後は散逸保管されている資料を関連づけ、保全すべきという課題が浮き彫りにされたように思える。

また、加藤准教授が所属する映画専門大学院大学では、2007年度より文部科学省の科学研究費により映画関係者に対するオーラルヒストリーを実施。聞き取りの過程で資料があれば閲覧する予定。日本・ロシア・インドの映画産業従事者への聞き取りを進めるといふ。

オーラルヒストリー（聞き取り調査）は、今後の脚本アーカイブズ研究活動においても非常に重要なテーマであると思われた。

（記録・石橋映里）

---

# 『デジタルブックの現状と展望』

2007.9.15 (勉強会報告)

講師：濱中香織 (株)パブリッシングリンク  
事業推進部・モバイル担当ディレクター)

---

## 一、電子図書とは

パソコンや携帯電話、専用端末で読みとる図書をいい、①ダウンロード形式 ②ストリーミング形式という、大きく二つの形式に分けられる。

### ① ダウンロード形式

端末にデータを落として閲覧。一度ダウンロードしてしまえば、インターネットに接続することなく、何度でも閲覧できるのが利点。ネット環境のない場所でも利用できるため通常の本と同じように活用できる。

短所としては、データフォーマットと言われるファイル形式が多数存在するため、読みとるには専用のビューワー(ソフト)が必要になり不便。また、フォーマットによっては、著作権保護が出来ない危険がある。例えば、ダビングなど二次加工が可能となる。

### ② ストリーミング形式

インターネットに接続した状態で、サーバー上のデータを閲覧。ダビング等の心配はなく、高い著作権保護機能を維持できる反面、接続しないと閲覧できないため利用しにくいのが難点。

現在の主流はダウンロード形式だが、ストリーミング形式での活用方法も工夫されつつある。例えば雑誌の付録として添付されるCD-ROMの場合、認証IDのみ埋め込みサーバーに接続できる。紙媒体で掲載しきれない詳細情報を閲覧でき、校了後にサーバー上のデータを作成できるため、入校直前まで情報が入れ替わる雑誌の編集に対応でき、誤記などにも対応可能。

## 二、データ形式

### ① TXT (テキストデータ形式)

文字データだけで構成されたファイル。

### ② HTML形式

改行の場所などのタグを埋め込み、ルビなどを付けることが可能。インターネット上に載せるための形式。

### ③ TTX形式

テキストデータの進化系。

## 三、フォーマット

### ① XMDF

シャープ(株)が開発・提唱する電子書籍のフォーマット。携帯電話などにも対応可能。短所としては、ルビをふるのが難しく、フォントも少なく旧字体などの掲載が出来ないため、画像として貼り付ける。図や写真の差し込みが可能な点では活用性は大きい。

### ② CXMDF

シャープ社開発の携帯電話フォーマット。

### ③ ドットブック

(株)ボイジャーが開発したフォーマット。段組やふりがなも編集できフォントも豊富で挿絵入力も可能。コミックやグラビアなどにも対応可能で、他のフォーマットにも安価で変更しやすい。

### ④ BBeB

ソニー(株)が開発したフォーマット。PCや同社の専用読書端末「LIBRIe」で閲覧可能。従来のPDA(Personal Digital Assistant: 携帯情報端末)より読みやすいのが特長。

### ⑤ PDF

---

Adobe Systems社により開発。PCの機種や環境に関係なく、オリジナルのイメージをかなり正確に再生可能。世界的に流通しアーカイブには適しているが、他のフォーマットへの変換ができない。データを残す目的だけなら、この形式が最適。マンガの電子図書に多く活用されている。海外マンガにも吹き出しなどのデータ入れが出来るため、活用できる。

#### 四、脚本アーカイブズでの活用として

##### ① 電子ブックの歴史的背景

電子ブックの市場は、“青空文庫”が一番早くから手がけ、著作権の切れた書籍を中心に、無料でデータを提供。その後、大手の出版社が共同で設立した“電子文庫パブリ”が2000年9月にウェブサイトでサービスを開始。ドットブック形式を基本に販売等を行っている。

<http://www.paburi.com/paburi/>

その後、各電子機器メーカーなどが参入していたが活発な市場とは言えなかった。ところが、2006年あたりから、電子ブック市場にマンガが入り込み、一コマずつの画像として携帯市場でサービスを開始し、飛躍的に市場を拡大している。

##### ② 国際的市場

国際的に見ると日本の市場は遅れており、海外では電子書籍に音声をつけたサービスなど広範囲に普及。その背景には、アルファベットは横書きに限定されていること、さらに漢字のルビのような形式になく、データ処理しやすいためと言われる。近年、中国では教科書を電子化する動きがあり、資源の節減の面からも役立つと言われている。

##### ③ 脚本アーカイブズでの展望

脚本を電子化し活用する場合は、日本放送作家協会が出版社としての役割を果たす。

この点、放送局との関連や違法コピーでの海賊版作成の差し止めなど課題は多い。

現在では電子化するソフト（材料）が少ないため、脚本は市場として拡大の余地はある。

##### ④ 電子化の具体的方法について

脚本アーカイブズにおいて、脚本をデジタル化

する場合、どの形から始めるべきか。まずは、テキストデータ化しておけば一番効率的。電子書籍の出版社にテキストデータを提供し、フォーマットは頒布する出版社にゆだねることが可能。また、自分たちでツールを買ってフォーマットを作ることも可能。紙媒体からOCR（コピーのような形式）に変換する場合は一冊7万円かかる。その反面、テキストからのフォーマット作成は約1万円/冊で可能。

戯曲については、“理想書店”において87作品の電子本を販売（2008.2現在）。

<http://www.dotbook.jp/dotbook/index.php>

戯曲同様、テレビ脚本も市場価値はあり得る。ただし、電子ブックはまだ市場が小さく、売り上げとしては、成人向けの写真集などのみが売り上げを伸ばしている。読者のニーズがどこに集まるかなど、受け手側の目線で研究していくことが必要と思われる。

以上、勉強会、質疑応答要約に私見を加えてまとめさせて頂きました。

（記録・石橋映里）

---

# 日本脚本アーカイブズの広報事業

広報部 部長 高谷信之

---

足立区民及び広く日本全国の方々に脚本アーカイブズの使命と、その存在意義を理解していただく為に、平成19年度も様々なPR活動を行って来ました。

その一環として、シアター1010（足立区北千住駅前）において、「笑いのハイスクール」VOL3を開催しました。これは当所で行うイベントとしては1年1回ずつ行っているもので、今年は3回目に当たります。平成19年10月8日の祝日に行われました。

今回はタイトルを「団塊の世代の贈り物」として2つの柱を立てました。

その1は団塊の世代に取ってなつかしい、バンドとお笑いの、ビリーバンバン・せんだみつお・湯原昌幸・松鶴家千とせ・だるま食堂を招いての公演。

その2は「あ、懐かしの秘蔵TV・ラジオ脚本展」の開催であります。

脚本展は一般の方に、脚本アーカイブズへの理解を深めていただくと共に、貴重なラジオ・テレビのドラマ脚本や構成台本を公開し、そうした脚本・台本の価値を分かっていたいただく為に行ったものです。

1の笑いのハイスクールの公演は500名を超える足立区及び東京・埼玉・千葉・神奈川の各地域の方々が来ていただき、出演者と一体になった、歌と笑いのひと時を体感出来ました。

そして、この催しの中で、日本脚本アーカイブズの足立区における活動の様の報告と、告知及びPRを行いました。

2番目の脚本展は、日本脚本アーカイブズとしては、初めての試みで、様々な懸案事項がありました。

一つには著作権の問題がある為、公開において無料で行なわなければならないこと。

二つ目には、多くの方に興味を持って頂くために出来るだけ、分かり易く、脚本及び台本の展示の

やり方を考える事などでした。

展示には没になった番組の構成台本と、放送された台本を同時に展示して、その比較を見て頂いたり、編年体に並べた脚本や、作家別に並べた脚本等の様々な工夫を凝らしました。

展示の仕方、脚本を並べる台の高さにも工夫し、舞台美術の方のアドバイスをいただき、色々と細工をしました。

展示は3日間、シアター1010のアトリエで開催されました。

その甲斐あって10月12日（金）10月13日（土）10月14日（日）の3日間で700名を超える観覧の方をいただきました。

また、アンケートはこの種の催しとしては異例の300通を超え、非常に好評をいただき、同時にこれからの展示で参考になる示唆も沢山頂きました。

なお、この催しは別にも記述がありますが、2回目は足立区学びピアさんの協力の下、脚本に関する講演も一緒に行い10月22日（月）—10月28日（日）迄、足立区学びピア大ホール前ロビーで行いました。

3回目は横浜放送ライブラリーのご協力を得て、11月23日（金）—12月9日（日）まで横浜放送ライブラリーで開催しました。

いずれも、日本民間放送連盟と日本放送協会（NHK）の後援を頂いての開催でした。このようにして、広く脚本及び放送台本の貴重さや、その文化資源としての意義を広め、PRを行ないました。

ただ、これらの作業は全て、無償のボランティアによって、行なわれておりますので、今後の展開として、放送作家及び、この活動を助けてくださるメンバーにとっては大変な負担であります。

その辺りの事が今後の最大の越えるべき課題となると実感します。

社団法人 日本放送作家協会

理事長  
市川 森一

日本脚本アーカイブズ特別委員会

特別顧問

水原 明人  
鈴木 良武

委員長

南川 泰三

副委員長

香取 俊介

外部委員  
(シナリオ作家協会)

加藤 正人  
高山由紀子

研究調査部

部長  
津川 泉

委員  
高梨 安英  
石橋 映里  
三原 治  
清水喜美子  
藤久 ミネ  
南条 廣介

広報部

部長  
高谷 信之

委員  
奥山 侑伸  
さらだたまこ  
東海林 桂

収集保存部

部長  
熊谷 知津

委員  
鈴木 良武  
高梨 安英  
福井 貞則  
西沢 七瀬  
皿倉のぼる

アンケート班

三原 治  
熊谷 知津

グラフィックデザイン部

部長  
香取 俊介

委員  
杉原 秀一  
三原 治  
山西 伸彦  
石橋 映里  
川添 法臣

総務部

熊谷 知津  
石橋 映里

協力スタッフ  
石川 大和  
鈴木 晴香  
福田 秀雄  
柏崎 勝一  
熊谷 章一

2008年3月28日現在

---

## 日本脚本アーカイブズ 三年目を迎えて

編集長 水原 明人

放送の世界だけでなく、遠い将来に向けての貴重な文化遺産になる放送脚本・台本を収集、保存しようという我々の運動がスタートして早くも三年目を迎えた。

忙しい作家生活の合間をぬって、全くのボランティアとして続けてきたこの事業も三年を経て、その輪郭がようやく見え始めた。今回、平成19年度の報告書を見ても分るように、我々の運動に理解と協力を示す外部団体との連携がさらに進んだ。

同じ脚本家の仲間として日本シナリオ作家協会が正式に参加を決定し、東京大学大学院情報学環も四年計画でこの事業のデジタル化の研究をスタートさせ、我々との定期的な会合もはじまった。

さらに前年度に行われた放送作家の遺族の方達へのアンケート調査に続いて、今年度は番組制作会社やプロデューサー、ディレクターに対するアンケートが実施され、台本保存についての関心の深さが分かり、意を強くした。

文化の歩みを記録、保存し、遠い将来に備えようというアーカイブズの試みはすでに世界的な動きに広がっている。これに対して日本の現状は、残念ながらかなり遅れていると言わざるを得ない。

我々とほぼ同時に脚本アーカイブズの計画を始めた韓国では、政府のバックアップによって、すでに

その運動が軌道に乗り始めているという。

そういう話を聞かされると「日本の政府はどうしたんだ?」という焦りのようなものさえ感じさせられる。

今年度は日本放送作家協会から、津川泉、香取俊介、石橋映里の三人の委員がアメリカのロサンゼルスとニューヨークを訪問し、アメリカでの実情を視察した。11月から12月にかけて僅か一週間の視察だったが、その収穫は大きかった。詳しい内容は本文を読んで欲しいが、ライターズ・ギルド図書館その他の実態も分かり、そこに至るまでの道のりの遠さを感じながら、ますます「我々もやらねばならない」というファイトを覚えた。

この視察報告の中で、初期ラジオドラマの伝説的な名作『この虫10万弗』の作者、ノーマン・コーウィンが98歳で健在と聞いて驚いた。私などは作家になる前、学生の頃から幾度と無く聞かされた名前である。ケリー・グラント主演の映画で、ハモニカやピアノのメロディにのって踊る不思議な毛虫が最後に蝶々になって窓から飛び去って行く、あの原作者がまだご存命だったとは……。

日本にもこういう貴重な作家の脚本が埋もれているのではないか?

アーカイブズ委員の目配りと仕事は限りがないという気がする。

---

### 日本脚本アーカイブズ調査・研究報告書 [Ⅲ]

脚本・台本は記憶と記録の宝庫

■平成20(2008)年3月31日発行

発行 社団法人 日本放送作家協会  
日本脚本アーカイブズ特別委員会

〒120-0034 東京都足立区千住5-13-5 学びピア21 5F  
日本脚本アーカイブズ特別委員会  
TEL : 03-3882-1071 FAX : 03-3882-1073 E-mail : nka@star.ocn.ne.jp  
社団法人日本放送作家協会  
TEL : 03-3401-5996 FAX : 03-3408-7411

印刷 (有)七月堂  
〒156-0043 世田谷区松原2-26-6-103  
TEL : 03-3325-5717 FAX : 03-3325-5731 E-mail : July@shichigatsudo.co.jp

本誌の無断複写(コピー)は、著作権上の例外を除き、著作権侵害となります。

---



**WRITERS GUILD  
OF AMERICA**

**STRIKE '07**

## **Facts About the Writers Strike**

### **THE WRITERS DID NOT WANT TO STRIKE.**

Media walked away from the negotiation table on Nov. 4th. The writer's are waiting for Big Media to come back and negotiate.

### **WHAT IS AT ISSUE?**

There are two main issues right now. The first is whether and how much writers will be paid for their work when it is broadcast, streamed or downloaded over the Internet. The second big issue is extending Guild protection to reality story producers, animation writers and writers of original internet content.

### **I KEEP HEARING ABOUT "NEW MEDIA." WHY IS THAT SO IMPORTANT?**

Experts agree that in the next 2-5 years most American televisions will be connected to the Internet and the shows and movies you watch on your TV will be transmitted via an Internet connection. What the media conglomerates are proposing is that there will be NO Writers Guild jurisdiction over nearly all writing originally for the Internet, though nearly ALL writing will likely be transmitted this way. If we agreed to this proposal that could mean, no more Writers' Guild, no more health and pension benefits, and no ability for writers to make a fair salary. Writers want a tiny slice (2.5%) of the revenues that Big Media earns when their shows or movies run on the Internet.

### **HOW LONG ARE YOU PREPARED TO STRIKE?**

Until we can make a fair deal. We CANNOT sign the deal they've offered us so far. It would mean we, the writers, can no longer make a decent living from our work. We are prepared to strike for as long as it takes.

### **What can you do to help?**

- **IF YOU'RE IN A UNION OR GUILD, URGE YOUR LEADERSHIP TO KEEP SOLIDARITY WITH THE WGA.**
- **SIGN THE PETITION AT [WWW.UNITEDHOLLYWOOD.COM](http://WWW.UNITEDHOLLYWOOD.COM)**

米国取材中、遭遇したWGAストライキ。その時のチラシ

---

# 脚本・台本は記憶と記録の宝庫

---

社団法人 日本放送作家協会

日本脚本アーカイブズ特別委員会



平成19年度文化庁芸術団体人材育成支援事業